

ロ禁忌スベク 爲メニ 劇痛ト共ニ強キ虹彩炎ヲ惹起スルコトアリ

3. 浮腫及充血ハ貼用後直チニ起リ1日乃至數日ヲ持續シ 浮腫先ツ消退シ充血之ニ次ギテ消ユ

4. 貼用部ニハ多少常ニ壞疽ヲ生ズルモノニシテ 貼用セル時間ノ長短 壓迫ノ強弱ニヨリテ其ノ深淺ヲ異ニス 表在性作用ヲ施セルモノニハ1-3日ニシテ新組織ヲ以テ蔽ハルハモ 深達作用ヲ行ヒシモノニハ數日ニシテ漸ク再生ヲ完成ス

第2回以後ノ貼用ハ 病症ノ経過ヲ觀察シ 治癒遷延シ若クハ治癒ニ向フ傾向ナキ時 或ハ再燃ノ徴ヲ示セル場合ニ 前回貼用後ノ炎症及局所ノ壞疽全ク消散スルヲ待チ 數日乃至十數日ノ間隔ヲ置キテ行フ 然ラザレバ局所ノ壞疽作用強ク起リ 治癒後癢痕形成ヲ甚シカラシムル畏アルベシ

秋谷氏ハ角膜實質炎ニ1-5回トラホームニ1-7回鞏膜炎及上鞏膜炎ニ1-6回 蠶蝕性角膜潰瘍ニ1-6回水胞性角膜炎 結膜乳嘴腫 角膜癌 結膜及角膜角化症ニ1-4回行ヒテ何レモ治療日數ヲ短縮セシメ得タリ

適應症 本症ハ結膜及角膜ノ良性及悪性腫瘍(血管腫 母斑 乳嘴腫 癌等)ニシテ表在性ノモノニ著効ヲ奏シ 結膜結核 バリノー氏結膜炎 トラホーム及パンヌス角膜實質炎 鞏膜及上鞏膜炎 水胞水性角膜炎等ニ奏功シ 各其治癒ヲ速カナラシム 蠶蝕性角膜潰瘍 春季加答兒ニモ試ムベク 虹彩及毛様體ノ炎症アルモノニハ禁忌ス

XXIII. 發汗療法

太古埃及時代ヨリ醫療トシテ用キラレタル方法ニシテ 今日猶ホ廣ク行ハル

發汗ハ血液中ノ水分ガ生理的以上ニ多量トナレル時 全身及ヒ皮膚血管ノ血行亢進セル時 分泌神經ノ中樞 又ハ其終末裝置ガ刺戟セラル、時起ル

發汗療法ノ目的ハ血液及組織中ノ有毒物質或ハ病的產生物ヲ體外ニ排除スルニアリ 而シテ毒物排泄ノタメニハナルベク多量ノ液體ヲ攝取セシメ 病竈ノ病的產生物ヲ除クタメニハ寧ロ液體ヲ制限スベシ

適應症 鞏膜炎 上鞏膜炎 虹彩及毛様體炎 視神經炎 網膜炎 網膜剝離 眼筋麻痺 眼部神經痛 綠内障 テノン氏囊炎 硝子體溷濁等ニシテ 新鮮ナルモノホド奏功ス 腎臟疾患 糖尿病 レウマチス 急性及慢性中毒性疾患 稀ニ細菌性炎症ニヨル眼症等ニモ用ヒテ功アリ

禁忌 角膜 水晶體疾患ニハ効ナク 動脈硬化症 心臟病 妊娠 結核 全身衰弱等アルモノニハ行フベカラズ 又タ1-2回ノ療法ニテ 身體ノ疲勞著明トナルモノニハ爾後ノ治療ヲ見合ハスベシ

發汗療法ノ種類

何レノ種類ヲ問ハズ 充分ニ發汗セシムルヲ要ス 體質ト疾病ノ緩急トヲ顧慮シ 日々又ハ數日ノ間隔ヲ置キテ行フベシ

鹽酸ピロカルピン

1%溶液 0.5-1.0cc (0.005-0.01gr)ヲ1日1回皮下注射ス 數分ニシテ唾液ノ分泌先ヅ起リ 顔面潮紅之ニ次ギ 約10分ニシテ前額次デ全身ニ發汗シ 30分乃至1時間持續ス 唾液ヲ嚥下スル時ハ嘔吐ヲ來シ易シ 本劑ニヨル發汗ハ分泌神經ノ刺激ニ基クガ故ニ身體ヲ温包セズトモ發汗ス

虹彩及毛様體疾患ニハ 縮瞳症 調節機痙攣ヲ來シ毛様痛ヲ發スルコトアルニヨリ用キザルヲヨシトス

副作用トシテ 流涙 嘔吐 下痢 腹痛等ヲ來シ 妊婦ハ流早産スルコトアリ 是等不快ナル副作用ノタメ近時其ノ使用漸次廢セラレツヽアリ

アスピリン

アスピリン 0.7-1.0ヲ1包トシ1日1回頓用ス 本劑ハ皮膚血管ヲ擴張シテ發汗スルモノナルガ故ニ 服用時

身體ヲ温包スベシ 又タ熱キ葛湯 番茶 少量ノアルコホル類ヲ與フレバ發汗ヲ催進ス 入浴直後ニ頓用シ身體ヲ温包スレバ殊ニヨク發汗ス レウマチス性疾患(鞏膜炎 虹彩及毛様體炎 眼筋麻痺 眼部神經痛等)ニハ消炎ノ効ヲモ奏スルガ故ニ殊ニ推奨セラル

反復服用スレバ胃腸障礙 耳鳴ヲ來スコトアリ 之ヲ豫防スルニハ服用時アルカリ性飲料ヲ避ケ 果物 リモナーデ等酸性ノ飲食物ヲ採ルベシ

坐浴及足浴

43°-45°Cノ湯ニ腰部以下又ハ足部ヲ入レ 頭部以下全身ヲ毛布ニテ温包シ 多量ノ熱飲料又ハアスピリンヲ伍用シ充分發汗セシム(20-30分) 浴後全身ヲ乾キタルタオルニテ拭キ直ニ就床スベシ

坐浴及足浴ハ藥湯ヲ用ウレバ一層奏功ス 通常用ウル藥劑ハ食鹽ナリ 食鹽浴ヲ作ルニハ食鹽 125grヲ5-7リートルノ湯ニ投ズベシ

芥子性浴ハ結膜ヲ刺激スルガ故ニ用キラルヽコト少シ 若シ之ヲ作ラントセバ上記食鹽浴ニ於ケルト同量ヲ用キ 兩眼ヲ輕ク編帶シ全身ノ被覆ヲ避ケ 浴後更ニ温水ニテ芥子浴ニ漬ケタル皮膚ヲ洗フベシ

全 身 浴

43°-45°Cノ全身浴ヲ取ラシメ其ノ直後多量ノ熱飲料ヲ與ヘ全身ヲ温包シ2-3時間就寝シ充分ニ發汗セシム發汗後ハ乾キタル タオルニテ全身ヲ摩擦スベシ

全身浴ハ初メ温度ヲ低クシ(40°-42°C)先ヅ全身ノ血行ヲ旺盛ニシ次ニ温度ヲ高クシテ(43°-45°C)皮膚血管ヲ擴張セシムルヲヨシトス 入浴中顔面及頭部ヲ浴湯ニテ濕ホシ血行ノ均衡ヲ圖ルベシ 食後1時間以上ヲ經テ行フヲヨシトス

全身浴ニ藥湯ヲ用キントセバ坐浴及足浴ニ於ケル如クスレバ可ナリ

電 氣 光 線 浴

本法ハ主トシテ發汗療法ヲ目的トシテ用ウルモ亦同時ニ光線刺激ヲモ兼ネシム 蓋シ赤線ハ神經ヲ興奮セシメ紫線ハ却テ之ヲ沈靜セシムルモノナレバナリ

浴槽ノ構造ハ患者ヲ充分容ル、ニ足ルベキ5角又ハ8角ノ木製箱ヨリ成リ 内部ハ鏡又ハ陶器ヲ張りテ光線ヲ反射セシメ 數十個ノ電球ヲ備フ(電燈浴 Glühlichtbad) 若シ弧光浴 Bogenlichtbad ヲ行ハントセバ 弧光燈ヲ箱ノ

外ニ設ケ窓ヨリ光線ヲ射入セシム 時トシテ此ノ兩者ヲ併用ス(重光浴 Doppellichtbad) 白赤紫ノ電球ヲ備ヘ窓硝子モ亦同ジ色ノモノヲ任意交換ス

患者ハ裸體トナリ 箱ノ扉ヲ開キテ箱中ニ入り 椅子ニ倚リテ其ノ頭部ヲ 箱ノ天蓋ニ設ケタル穴ヨリ外ニ出シ 然ル 後扉ヲ閉ヂ 電流ヲ通ジテ光浴セシム 通常發汗ヲ目的トシテ行フ場合ハ 35°-40°C トシ 10-30分間ニテ發汗ス 50°C 以上ハ適用スベカラズ 日々又ハ 2-3日毎ニ行フベシ 屢々頭痛眩暈ヲ伴ヒ 殊ニ婦人及過敏ナル男子ニテハ光浴數分ニシテ之ヲ見ル 頭部ニ冷却セル タオル又ハ氷嚢ヲ貼シテ之ヲ豫防スルヲヨシトス

XXIV. 蛋白體療法

血清及ワクチン類ガ特種ノ疾病ニ特種ノ治療的効果ヲ奏スル(免疫療法)ト、モニ ソノ疾病ニ全ク特異性ナキ血清又ハ ワクチンガ 又能ク 治効ヲ舉グル事實アリ 例

ヘバ健常馬血清ニテ デフテリーヲ治癒セシメ 大腸菌ニテ腸チフスヲ輕快セシムルガ如シ 是等ノ事實ニ出發シテ 非經口的ニ蛋白質ヲ人體ニ送り疾病ノ治癒ヲ圖ル方法ガ案出セラレタリ 其理論ハ種々アルモ 異種蛋白ノ體內分解ニヨリテ 全身ノ細胞ガ刺戟セラレ機能亢進ヲ來スニ因ルトセル ワイハルト 氏說一般ニ用キラレコレヲ蛋白質療法 Proteinkörpertherapie 又ハ刺戟療法 Reiztherapie トイフ

蛋白質療法ヲ行フニハ次ノ諸項ニ注意スベシ

1. 全身營養狀態 營養不良 衰弱 羸瘦 高齢者等ニテハ 刺戟ニ應ズルダケノ 活力ヲ細胞ニ缺キ 治効ヲ奏セズ Arndt-Schulz 氏ガ「弱キ刺戟ハ生活機能ヲ衝動シ 中等度ノ刺戟ハ之ヲ亢進シ 強キ刺戟ハ之ヲ減弱シ 最強キ刺戟ハ之ヲ阻止ス」トセル生物學的原則ハ細胞機能ノ旺盛ナルモノニ於テ 能ク 其適應ヲ見ルモ 其衰退セルモノニテハ 過小ナル刺戟ニテモ寧ロ 減弱的或ハ阻止的ニ働キ効ヲ奏セズ

2. 反應 全身反應 局所反應 病竈反應トアリ 發熱 嗜眠 倦怠 白血球ノ變化 赤血球沈降速度ノ變化ハ全身反應トシテ來リ 注射部位ノ發赤 腫脹 疼痛ハ 局所反應ナリ 病竈反應ハ注射後一時病竈ノ症狀増進スルヲイ

フ 此ノ中必要ナルハ病竈反應ニシテ其ノ狀況ヲ觀察シテ注射量ヲ加減シ 全身反應 局所反應ハ出來得ル限り避クルヲ要ス アナフィラキシー症狀ハ全身反應ノ一トシテ現ハル、最危險ナル 症狀ニシテ 之ヲ避クルニハ 靜脈内注射ヲ行ハズシテ 初メ少量ヲ皮下ニ注射シ 數時間ヲ經テ所要ノ量ヲ 皮下又ハ筋肉内ニ注射シ 注射ヲ 反復スル場合ハ其間隔ヲ 1週以内トスベシ 局所反應ヲ避クルニハ 靜脈内注射ニ 如カズト雖 上記ノ如キ 危險アルガ故ニ 皮下又ハ筋肉内ニ注射スルヲ安全トス 皮内注射ハ一般ニ 局所反應強ク 疼痛モ亦劇シキガ故ニ 適當ナラズ 皮下注射ハ皮内注射ヨリモ反應少ク 筋肉内注射ハ皮下注射ヨリモ更ニ 局所反應弱シ

3. 用量 用量多ケレバ 刺戟モ亦從テ強ク起リ 反應モ亦多クハ之ニ伴ヒ強ク發スルモ 亦全ク然ラザルコトアリ 人ニヨリテモ反應ニ強弱アリテ一様ニ律シ難シ 概シテ急性炎症ニハ 初メヨリ 大量ヲ 慢性症ニハ少量ヨリ漸次大量ニ移ルヲ可トス 何レノ場合モ病竈反應ニ注意シテ 適當ノ發炎ハ寧ロ望ム所ナリト雖 強キ全身反應ノタメ身體ヲ衰弱セシムルガ如キコトナカラシムベシ 注射後組織細胞ハ 抵抗力ヲ得 感受性ヲ減ズルガ故ニ 反復注射スル時ハ其量ヲ漸次高メ 適當ノ刺戟ヲ惹起セ

シムルヲ要ス

4. 注射薬及注射上ノ注意 高度ノ發熱 アナ
フィラキシー 強キ局所反應等ヲ伴ハズシテ 適當ノ病竈
反應ヲ惹起シ得ル 種類ノモノヲ可トス 牛乳ハ飼養 飲
料 乳牛ノ種類等ニヨリテ 其組成毎常平等ナラザルガ故
ニ反復注射スル場合ニ標準ヲ作り難キ缺點アリ 之ヲ行
フニハ牛乳ヲ短時間(15-30分)煮沸シテ著シキ蛋白質ノ
變化ヲ起ササル程度ニ滅菌シ 上層ノ凝結膜ヲ去リ 均等
ナル下層ノ液ヲ注射筒ニ吸ヒ取り 初メ 0.2-0.5 ccヲ注
射シテ 反應状態ヲ検査シ 次デ 3-5-10 ccヲ漸進的ニ増
量シ 3-5-7日ノ間隔ニテ反復ス 高熱及其他ノ全身症状
強キ時ハ適宜分量ヲ加減スベシ 注射部位ハ大腿 前胸
下腹部 腎筋等ヲ撰ム

カゼオザン Caseosan アオラン Aolan オフタルモザン
Ophthalmosan エリオザン Eryosan ノヴォプロチン Novo-
protin 其他種々ノ蛋白注射薬アリ 適宜採擇スベシ

適應症 眼科ニ於ケル 蛋白體療法ノ適應症ハ 成
人ノ膿漏眼 虹彩及毛様體炎 急性葡萄膜炎 角膜實質炎
ノ炎症期 鞏膜炎等ニシテ 2-4回ノ注射ニテ 炎症速ニ消
退スルヲ常トス 數回注射シテ奏効セザルモノニハ爾後
ノ注射ヲ廢スベシ

XXV. 保護眼鏡

健康眼ニ用ウル場合ト疾病眼ニ用ウル場合トアリ

健康眼ニ用ウル場合

化學線及熱線ヲ防ギ 塵埃 金石ノ粉塊 細菌等ノ眼ニ
竄入スルヲ豫防スルニ用ウ

1. 眼組織ニ有害ナルハ長波長ノ赤外線即チ熱線及短波
長ノ紫外線即チ化學線ナリ 前者ハ高熱ニ曝露スル
特殊ノ職業者ニ限ラレ 吾人日常ノ生活中ニハ寧ロ
後者ニ接觸スル機會多シ
2. 紫外線ハ皮膚 結膜 角膜ニ吸收セラレテ其ノ組織ニ
作用ス 即チ皮膚ニテハ輕ケレバ發赤シ重症ハ水泡
ヲ形成スルモ 皮下組織ニマデ達スルコトナシ 海
岸 高山ニ於ケル日やけ 雪中ニ於ケルスキーやけノ
類之レナリ 眼ハ紫外線ニ抵抗弱ク 結膜ニテハ急
性加答兒性炎ヲ呈シ 角膜ニテハ散在性上皮剝離 滲
濾性表層炎ヲ生ジ 羞明 疼痛著シク 所謂スキー加答
兒 雪盲ノ類ヲ生ズ 而シテ 330-370 $\mu\mu$ ノ紫外線ハ
水晶體ニテ吸收セラレ 網膜ニ達スルモノハ極メテ
少量ナレ共 Birch-Hirschfeld, Hess u. Schanz ニヨレ
バ水晶體ニ作用シテ 白内障ヲ發シ 眼底ニ達シテ網
膜神經節細胞ノ變性ヲ來ストイフ 但シ水晶體ニ於
ケル有害作用ハ赤外線ノソレホド強カラズ
3. 紫外線ノ射照ニヨル眼炎ハ 24時以内ニ發症シ 數日
ニシテ消散ス
4. 猶ホ光線療法ヲ参照スベシ

紫外線 防護ノ眼鏡ニハ黄褐色及煤色硝子鏡ヲ用ウ
水晶ハ紫外線ヲ吸收セズ 普通ノ透明硝子ハ一部之ヲ
吸收ス 青色硝子鏡ハ保護眼鏡トシテ古クヨリ用キラレ
タレ共 紫外線ヲ通過シテ用ヲナサズ 黄褐色鏡ハ能ク
紫外線ヲ吸收シ 煤色鏡モ亦總テノ光線ヲ吸收スルガ故
ニ紫外線ト共ニ眩光ヲ避クルニ用キテ有効ナリ 是等着
色鏡ニハ着色ノ濃淡ニヨリテ1號ヨリ6號マデアリ 1
號ハ透明ニ過ギ5-6號ハ視力ヲ損ズ 登山 航海 冰雪ノ
渡渉ニハ視力ヲ損セズシテ且ツ紫外線ヲ大部分吸收スル
2-4 號ヲ用ウレバ足ル 眩光ヲ有スル 孤光 電氣燒灼工
業ニ從事スル者ハ紫外線ノ外ニ眩光ヲ豫防スルタメ 5-6
號乃至ソレ以上ノ暗黒硝子鏡ヲ用ウルヲヨシトス 水銀
石英燈 人工太陽光線療法ニハ1-4 號ノ煤色鏡ニテ充分
防護スルニ足リ 透明硝子鏡ニテモ大ナル被害ナシ 若
シ眼鏡ノ用意ナキ時ハ患者ノ眼ヲ白色ノ手巾 縞帶等ニ
テ覆フベシ コレ紫外線ハ白色ノ物體ニヨリテ反射セラ
ルハヲ以テナリ

紫外光線ヲ完全ニ吸收スル特種ノ硝子鏡アリ Ficusal
(黄色) Hallauer (黄一綠色) Euphos (微紅色) Crookes (微
綠色)等一般ニ用キラル 何レモ視力ヲ減ゼス 裝用シテ
快感ヲ覺ユルモ Ficusal, Hallauer 鏡ハ着色強クシテ外界

ノ物體變色シテ見ユ Euphos, Crookes 鏡ニハ此ノ俱ナク
飛行 狩獵 登山 スキー等ニ廣ク賞用セラル

矯正眼鏡ニ着色鏡ヲ用キ得レ共中央ト周邊トニテ濃度
ヲ異ニスルガ故ニ矯正レンズヲ平凹又ハ平凸トシ其ノ平
面側ニ任意ノ濃度ヲ有スル硝子鏡ヲ貼ル ツァイス製陰
影鏡(Umbralglass)ハ 25%-80% ノ吸收能力アル 煤色陰
影ヲ矯正レンズニ貼リテ用ウルモノナリ

紫外線ハ角膜 水晶體ニテ殆ンド吸收セラル、ガ故ニ
白内障手術等ニテ水晶體ノ缺損セルモノニハ直ニ煤色鏡
又ハ黄褐色鏡ヲ裝用シテ紫外線ニヨル網膜障病ヲ防グベ
シ

吾人ノ眼組織ハ紫外線ニ對シ感受性强ケレ共 亦漸
次之ニ對スル抵抗力ヲ得ルモノニシテ 彼ノ スキー
海水浴 登山ノ初ニ當リテ發スル結膜炎ガ 日ヲ經ル
ニ從テ輕快シ 水銀石英燈 人工太陽光線等ノ療法ニ
テ回数ヲ重ヌルニ從ヒ局所及全身反應ノ輕微トナル
ハ其ノ證ナリ 石原教授ハ家兎眼ニ就テ眼組織ガ紫
外線ニ對シ漸次抵抗力ヲ増進スルコトヲ實驗セリ
(カク得タル 抵抗力ハ紫外線ノ射照ヲ廢スレバ漸次
消退シ 1-2ヶ月後ニハ再ビ之ニ對シテ過敏トナル)
是等ノ事實ニヨリ日常ノ生活上 特ニ多量ノ紫外線
ニ曝露セザル限リ 之レガ防護ヲ目的トシテ健康眼
ニ此種眼鏡ヲ裝用スルハ蓋シ益ナキコトトス

赤外線 即熱線ノ著明ナル 障病ハ白内障形成ニシ

テ 古來硝子吹職工=來リ 殊=其ノ左眼=罹患スルモ熱線ノ作用ヲ受クルコト右眼ヨリモ多キ=因ル 其他熔融爐 電氣工業=從事スル者=モ 白内障ヲ見ル 之ヲ防護スルニハ密ナル金屬網ヨリ成ル眼鏡ヲ裝用スベシ

1. 赤外線ハ 煤色岩鹽板ヲ全ク透過シ 水珠=明礬水ニテ全ク吸收セラル
2. Vogt 氏=據レバ赤外線ハ 75-80% 虹彩= 20% 硝子體前面= 7% 網膜=達ス 而シテ水晶體ニテハ角膜 虹彩ヲ透過セル 赤外線ノ 30%ヲ吸收スルモノナリ
3. 最近 Kranz (1925 年)氏ガ家兎=於ケル 實驗=據レバ 波長 670-700 $\mu\mu$ ノ赤外線ハ 水晶體潤濁ノ外=猶ホ虹彩括約筋ヲ刺戟シテ終=其ノ麻痺ヲ來ストイフ

普通ノ光線ハ光源=直面セザレバ害ナケレ共眼=入ル分量多ケレバ眩暈 羞明ヲ感ジ 若シ網膜一局部=集束シテ之ヲ受クル時ハ一過性ノ暗點ヲ生ジ 甚シキ時ハ暗點永久=殘ルベシ 彼ノ日蝕觀望ヲ裸眼=行ヒテ網膜黃斑部=限局性變性竈ヲ生ズルガ如キハ後者ノ類ナリ

此ノ種強光ヲ遮クルニハ煤色硝子鏡(1-3 號)ヲ用キテ光線全般ノ吸收ヲ圖ルヲ適當トス Euphos, Krookes 鏡ニ少シク煤色ノ色調ヲ加味セルモノハ少シモ眩暈 羞明ナク狩獵 飛行=用キテ快感ヲ覺ユ 日蝕觀望ノ際ハ濃厚ナル煤色鏡ヲ裝フベシ

日蝕觀望=ヨル黃斑部變化ハ一般=觀望=因リ起レル火傷ト稱セラル、モ熱線ハ房水 硝子體液ニテ吸收セラル、ガ故=眼底=到達シテ果シテ火傷ヲ生ジ得ベキヤ疑ハシク寧ロ可視線ノ集束=基ク網膜ノ傷害ト見ルベキモノナリ(Fuchs)

膿漏眼診療ノ際ハ醫師及看護婦ハ大ナル透明硝子鏡ヲ裝用シ 膿ガ患者ノ結膜囊ヨリ奔リ出テ其眼=入ルヲ防グベシ 膿漏眼=限ラズ廣ク診療=臨ミ此種保護眼鏡ヲ裝用スル人アリ トラホームノ顆粒壓出術ヲ行フ際トシテ顆粒内容ガ壓迫=ヨリ術者=飛散スルコトアリ

石工 彫刻家及ビ之ト類似ノ職業=從事スルモノハ粉砕飛散スル金石ノ粉末=ヨリテ眼外傷ヲ受クルコトアリ 此ノ種ノモノノ保護眼鏡ハ比較的厚キ透明硝子ヲ用キ 棒ハ金屬 セルロイド等任意ノモノヲ用キテ可ナリ 石工 煉瓦職等ニシテ精見ヲ要セザルモノニハ細カキ金屬網ヲ裝用シテ豫防シ得ルモ 視力ハタメニ著シク障礙スルヲ免レズ

鍛工等ガ灼熱セル鐵片ノ飛散=ヨリテ眼火傷ヲ受クルコトアリ 此ノ場合赤外線ノ作用ハ大ナル影響ナキガ故ニ 主トシテ外傷ノ豫防ヲ主眼トシテ 保護眼鏡ヲ裝用セシム 即チ厚キ硝子ヲ用キ 棒ハ金屬製ノモノノ表面=石綿 ヴェルベトノ如キ熱ノ不導體ヲ塗布セルモノヨシ

鐵片ノ飛散甚シキモノニハ顔面皮膚ヲモ覆フベキマスクヲ装フモ汗ノ蒸發シテ鏡面ヲ曇ラス缺點アリ

潜水夫ノ眼鏡ニハ厚キ透明硝子ヲ用キ棒ハ金屬セルロイド硬護膜等ノ圓壙ヨリ成リ圓壙ノ眼窩縁ト接着スル部分ハ軟護膜ニテ接觸ヲ密ニシ水ノ浸入ヲ防グ

自働車 自轉車 飛行機等ノ操縦ニハ強ク風ノ眼ニ當リ又タ塵埃ニ入ルヲ豫防スルタメ厚硝子ヲ用キ潜水用ノモノノ如ク圓壙ノ棒ヲ用ウルモ棒ニハ換氣ヲ目的トスル多數ノ小孔ヲ穿テ或ハ圓壙ヲ金屬網ニテ作ル紫外線防護ノ硝子鏡ヲ用ウルヲ適當トス

一般ニ職業的ニ用ウル保護眼鏡ハ其裝用ノ煩ハシキト之ガ爲メ多少視力ヲ損ズルガ故ニ特ニ有害作用ヲ自覺セザル限リ職工等ノ多クハ概シテ之ヲ嫌忌スル傾アリ

疾病眼ニ用ウル場合

結膜及角膜ノ疾患ニハ多少常ニ羞明アリコレ該部組織ニ分布セル三叉神經末梢ガ其ノ刺戟閾値低下シテ光線刺戟ニ堪ヘザルニ因ル故ニ此ノ種疾患ニハ遮光ヲ目的トシテ着色眼鏡ヲ與フレバ快感ヲ覺ユ眼鏡ノ色ハ總テノ光線ヲ吸收スル煤色ヲ撰ミ濃度ハ羞明ノ程度ニヨリテ1號ヨリ6號マデ任意ノモノヲ用ウベシ

1. 羞明防護ノタメニ縋帶ヲ裝用スレバ結膜ノ分泌ヲ増シ症狀ヲ不長ナラシムルガ故ニ之ヲ行フベカラズ同ジ意味ニテ眼ヲ氣密ニ覆フガ如キ種類ノ保護眼鏡ヲ嫌フ
2. 小兒ノ水胞性角膜及結膜炎ニハ遊戯中側面ヨリ光線ノ入ルヲ防グタメ皿形ノ大ナル眼鏡ヲ用キテ利アリ
3. 人ニヨリテ遮光眼鏡ニヨリ却テ精神ヲ幽鬱ナラシメ特ニ其ノ効ヲ認メ難キコトアリ

春季加答兒ハ空氣光線ヲ遮蔽スレバ症狀輕快ス故ニ縋帶ヲ裝ヒテ好果ヲ得ルモ兩眼ニ施シ難キガ故ニ煤色黃褐色等ノ着色硝子鏡又ハEuphos, Krookes鏡ヲ用キ一眼ヅ、綿紗ヲ折り疊ミテ鏡下ニ裝ヒ左右交互ニ綿紗ヲ宛テ換ヘテ防護ヲ試ム眼鏡ハナルベク大キク皿狀ノモノヲ用キテ側方ヨリ光線ノ射入ヲ防グヲ可トス

虹彩及毛様體疾患ガ光線ニヨリ羞明疼痛アルハ該部三叉神經ノ刺戟閾値低下シテ光線ニ堪ヘ難キト瞳孔ノ開閉ニ伴フ毛様筋ノ運動ニヨリ刺戟閾値低下セル三叉神經末梢ガ容易ニ刺戟ヲ感受スルニ因ル故ニ患眼ニ煤色硝子鏡ヲ與ヘテ遮光スルト共ニ健眼ニモ之ヲ裝用シテ同感性光線反應ノ患眼ニ及ブヲ防グベシ此種疾患ノ煤色鏡ハナルベク濃キモノヲ撰ミ羞明ヲ防グ外ニ猶ホ努メテ瞳孔ノ散大ヲ圖ルヲヨシトス又タアトロピン點眼ヲ行ヒテ散瞳セルモノ虹彩缺損症等ハ羞明著シ

キガ故 = 着色鏡ヲ装フベシ

水晶體缺損セルモノ = 紫外線防護ヲ目的トシテ眼鏡ヲ
装用スベキコト前既 = 述ベタリ

陳舊ナル脈絡膜炎 網膜炎若クハ 其ノ變性症 = 着色鏡
ヲ装用スレバ暗應調障礙加ハリテ一層視力ヲ不長ナラシ
ムルガ故 = 装用セザルヲヨシトス 但シ新鮮症 = 局所ノ
光線刺戟ヲ減ズレバ自覺症狀ヲ輕快ナラシム

網膜外層 視神經ノ疾患 殊 = 視神經萎縮 球外視神經
炎 = テハ疾病ノ新舊 = 拘ラズ 明應調障礙ノタメ 光線 =
遭ヒテ眩朦 雲霧ヲ感ジ視力減退スルモノナルガ故 = 遮
光眼鏡ヲ装用スルハ有利ナリ 遮光用トシテ煤色硝子鏡
1 號乃至 4 號ヲ疾病ノ程度 = ヨリテ撰定スベシ

健康眼ノ視力ヲ減弱セシメザル程度ノ煤色鏡ヲアル
コホル弱視 = 装用セシムレバ 其ノ視力ヲ約 2 倍長
好ナラシム (Sattler) コレ晝盲現象ヲ除キ得ルタメナ
リ 脚氣弱視 = テモ亦然リ (木村氏)

白兒及全色盲ハ羞明著シキガ故 = 遮光鏡ヲ装用セシム
ベシ

綠内障及ビ之 = 傾ケル眼 = 遮光眼鏡ヲ装用スレバ瞳
孔ヲ散大セシムル悞アルガ故 = 之ヲ用キザルヲヨシトス
綠内障ノ急性發作ガ 強光 = 下 = 在リテ 輕快又ハ消散

スルハ屢々遭遇スル所ナリ (Adam, Peters)

眼筋麻痺 = 複視ヲ避クルタメ濃キ着色鏡又ハ不透明ノ
硝子鏡ヲ用ウルコトアリ

XXVI. 義 眼

美貌ノ目的 = 用ウル場合ト 醫療用 = 行フ 場合トアリ
其ノ治療ノ意義 = テ装用スル場合次ノ如シ

1. 眼球ヲ摘出シ又ハ眼球内容ヲ除去セルモノニテハ
眼瞼ハ之ヲ定位置 = 保ツベキ土臺ナクシテ眼窩内 = 陷没
シ且ツ輪匝筋ノ任意ナル攣縮 = ヨリ漸次眼瞼内腫症ヲ來
シ 睫毛ノ刺戟 = ヨリ慢性結膜炎ヲ生ズ 經久性ノモノ
ニテハ結膜囊漸次短縮又ハ消失シ 瞼裂縮小シテ 之 = 義
眼ヲ試ムルモ健眼ト著シク不均衡ノモノヲ得ベシ
2. 小兒期 = 於ケル 摘出眼又ハ内容除去眼 = テハ 小兒
ノ發育スルト共 = 眼窩ノ發育不全ヲ招キ 患眼側 = 歪メ
ル平均平衡ナル顔貌トナル

3. 眼球摘出後頬ハシキ症状ハ、流涙ニシテ コレ前記ノ如ク支持ヲ失ヒテ内翻セル 眼瞼ノタメ涙點變位シ 涙液ハ涙道ヲ通過セズシテ 眼外ニ流ルハニヨルモノニシテ 眼瞼皮膚濕爛シ慢性濕疹ヲ生ズ
4. 眼外傷ニテ眼球及眼窩内異物ヲ レントゲン 寫眞ニテ 定位セントスル時 鉛板ヲ装置セル 義眼ヲ用キテ検査シ 又タ眼瞼腫瘍ニ レントゲン療法ヲ行フニ際シ含鉛義眼ヲ装ヒテ眼球ヲ保護スルコトアリ
5. 瞼球癒着症ノ手術 結膜腐蝕等ニ 癒着ヲ豫防スルタメ 角膜ヲ露出セル義眼ヲ装用シ 又タ眼球摘出後同様ノ有孔義眼ヲ装填シテ結膜囊ノ短縮ヲ豫防シ分泌物排除ニ便ニス 是等ノ理由ニヨリ義眼ハ單ニ美貌ヲ主眼トスル外ニ猶ホ醫療的意義ヲ考慮セザルベカラズ

義眼装用ノ時期 眼球癆ニテ炎症ナク指壓ニヨリ眼球ニ疼痛ヲ訴ヘザルモノニハ直チニ義眼ヲ装用シテ可ナリ 全眼球炎 眼球外傷等ニテ 眼球ニ穿孔創アルモノニハ眼球及結膜ノ充血全ク去リタル後行フベシ 是等ハ眼球内容ヲ保存セルガ故ニ炎症ノ再燃ニヨリテ時トシテ交感性眼炎ヲ起シ得ル 可能性アルコトヲ慮リ 充分消炎セル眼球ニ行フコトヲ忘ルベカラズ 眼球摘出ヲ行ヘルモノニテ眼窩炎ヲ伴ハザリシモノニハ摘出後約2週

シテ装用シ得ルモ 眼窩炎アリシモノハ 眼窩ノ消炎ヲ待テ行フ 眼球内容除去眼ハ眼球内部ノ炎症全ク去レル後装用ス 而シテ眼球内容除去ヲ行ヘルモノハ眼球摘出ニ比シテ治癒長ク 其ノ義眼ヲ装用スルマデニハ約1ヶ月ヲ經ルヲ常トス 眼球摘出眼ニテモ眼球内容除去眼ニテモ術後餘リ長ク放置スル時ハ結膜囊短縮シ 適當セル大サノ義眼ヲ装用シ難キニ至ルガ故ニ 炎症ノ消散ト共ニナルベク速ニ義眼ヲ装填スルヲ可トス

眼窩ノ状態 義眼装用上重要ナルハ眼窩ノ状態ナリ 装用セル義眼ガ健眼ノ運動ニ伴ヒテ運動シ 其大サ健眼ト大差ナクバ 容貌ヲ損ズルコトナキガ故ニ患者最モ喜ブベシ 斯クノ如キ成績ハ萎縮眼ニシテ健常結膜囊ヲ有スルモノニ見ル所ニシテ 先天性小眼球ニテハ 眼窩ノ發育不全ヲ伴フガ故ニ 装用セル義眼ハ運動性ヲ有スルモ健眼ニ比シテ小ナルヲ免レズ 眼球内容除去眼ニテハ結膜囊健常ニシテ能ク健側ニ相當セル義眼ヲ装用シ得ルモ 殘存セル鞏膜ハ後ニ指頭大ニ縮小スルガ故ニ之ニ附屬セル眼筋ノ運動著シク制限セラレ 義眼ノ運動性不十分トナルヲ免レズ 眼球摘出眼ニテハ眼筋切斷セラレテ眼窩深部ニ後退シ 結膜囊モ多少短縮シ 且ツ義眼ノ土臺ナキガ故ニ装用セル義眼ハ健側ヨリモ陷没シ多少常ニ

不均衡ニシテ運動性全クナシ 眼球摘出術後此ノ缺點ヲ補ハシガタメニ古來種々試ミラレ 摘出後動物脂肪塊 自家脂肪塊 硝子球 海綿 金球屬(金・銀) 脱灰セル骨 家兔眼球 バライン等ヲ眼窩内ニ挿入シ 以テ義眼ノ土臺ヲ與ヘントセリ 然レ共動物若シクハ人體以外ノ物質ハ總テ異物トシテ眼窩内ヲ刺戟スルカ或ハ壞死脱落シテ用ヲ爲サズ 最モ成績ヨキハ自家脂肪塊ヲ大腿上膊ヨリ採リ 摘出セル眼球ニ代用スルニアリテ コレニヨリ義眼ノ陷没スルヲ防ギ且ツ多少移動性アルモノヲ得ベシ (Elschnig)

1. 眼球摘出ノ際四直筋ニ豫メ 1 條ノ絲ヲ通シ 眼球摘出後脂肪塊ヲ填入シ絲ヲ結ビテ四直筋ニテ脂肪ヲ包メバ移動性義眼ヲ得
2. 眼球摘出ヲ粗雑ニ行ハバ結膜囊ハ著シク短縮シ義眼挿入後眼瞼閉鎖セザルカ 或ハ著シク小ナル義眼ニテ満足セザルベカラズ Arlt, Cermak ハ斯ク結膜囊ノ短縮スルヲ顧慮シ眼球摘出後結膜ノ縫合ヲ好マズ

義眼ノ種類 硝子 セルロイド 金 銀 陶器等アルモノ硝子製一般ニ賞用セラル 一重ノ義眼ノ外ニ Snellen 氏ノ推奨セル二重壁ノモノアリ 一重義眼ハ萎縮眼球ニ適シ 二重壁義眼ハ眼球摘出 眼球内容除去ヲ行ヘルモノニヨシ 其他眼窩内容除去後ニ裝用スル特種ノ義眼アリ

1. Wessely 氏ノ鉛板挿入ノ義眼ハ眼窩又ハ眼球内異物

ノ位置測定ノタメ レントゲン 検査時用ウルモノニシテ角膜ニ相當スル部分ニ鉛板アリ

2. Illig 氏考案ノ義眼ハ角膜ノ部分ダケ穴アリテ 裝用スルモ視力ニ障碍ナカラシメ 瞼球癒着症 結膜潰瘍及腐蝕等ニ膏劑ト共ニ 眼球ニ裝ヒ 以テ瞼球癒着ヲ豫防スルモノナリ
3. Carmet 氏有孔義眼ハ 前者ニ類シ 中央ニ孔アリ 眼球摘出後直ニ之ヲ裝用シテ結膜囊ノ短縮ヲ豫防ス 眼窩内分泌物ハ中央ノ孔ヨリ排泄セラル 日々更新シテ消炎後永久的ノ義眼ニ移ル
4. 本邦製セルロイド義眼ハ涙液ニ遇ヒテ 腐蝕シ易ク 表面光澤ヲ失ヒ 接合部剝離シ 腐蝕セル邊緣ニテ結膜ヲ損傷シ甚シキハ慢性肉芽腫ヲ生ズ

裝用ノ操作 義眼ハ其ノ内半ハ狹小シ且ツ上内

方ニハ上斜筋ヲ包擁スル 淺キ截痕ヲ有シ 外半ハ鼻側ヨリモ幅廣キヲ正シキ形トスルモ 種々變形アリ 又タ成人用ト小兒用トアリ 左眼ト右眼トヲ區別ス

豫メ 3% コカイン水 2 回點眼シ 患者ハ醫師ト相對シテ坐リ 小兒ナラバ母又ハ看護婦ニ抱カセ 其ノ頭ヲ醫師ノ兩膝ニテ狹ミ固定スベシ 眼窩内及結膜囊ヲ検査シテ 健側トノ大サ 虹彩 鞏膜ノ色澤ヲ比較シ適當ノ義眼ヲ撰擇シテ コレヲ生理的食鹽水又ハ 2% 硼酸水ニ浸シ 左手ノ拇指ト示指トニテ 上眼瞼ヲ少シク摘ミ上ゲ 患者ニ下方ヲ見サセ 右手ノ拇・示指ニテ義眼ノ左・右兩端ヲ摘ミ 幅狹キ方ヲ鼻側ニシテ義眼ノ上半部ヲ上眼瞼下ノ結膜囊

へ押し入レテ上眼瞼ヲ放チ 義眼ノ中央ヲ左ノ拇(示)指ニテ押へ 或ハ少シク猶ホ上眼瞼下ニ挿入シ 右手ヲ放チ 其ノ示指ニテ下眼瞼ヲ輕ク引キテ義眼ノ下半部ヲ下結膜囊ニ挿入ス 患者ニ命ジテ數回瞬目運動ヲ行ハシムルカ 或ハ義眼ヲ搖リ動カシテ眼窩内ニ適合セシムベシ 義眼裝用終ラバ眼球運動ノ能否 眼瞼閉鎖ノ有無 健側トノ大小ヲ検査シ 眼窩内壓重感 結膜囊緊張感ノ有無ヲ問ヒ 不適當ノモノハ交換スベシ 初メテ 義眼ヲ裝用スル者ニハ殊ニ眼内緊張 疼痛感ナキコトヲ必要トス

義眼ヲ眼窩ヨリ取出スニハ義眼鉤アレ共(Hess)通常消息子又ハ硝子棒ヲ用ウ 馴ルレバ 指頭ニテ取出シ得 其法義眼ヲ挿入セル時ノ如ク先ヅ上眼瞼ヲ舉上スルカ又ハ患者ニ命ジテ上方ヲ望マシメ 下眼瞼ヲ引キテ 消息子又ハ硝子棒ノ先端ヲ義眼ノ下縁ヨリ其ノ下ニ差入レテ舉上スレバ 義眼ハ眼窩ヨリ滑リ出ヅルガ故ニ其約半部ガ瞼裂ヨリ露出セル時 左ノ拇示指ニテ之ヲ摘ミ取出スベシ

斯クノ如クニシテ適當ナル 義眼ヲ得バ 患者ヲシテ鏡ニ向ハシメ 自ラ操作ヲ練習セシムベシ 患者自身行フ時ノ順序ハ前記ニ準ズ患者自身行フ時ハ 其ノ前ニ毛布座布團ノ類ヲ敷キ 手ヨリ滑リ落ちタル 義膜ヲ破損セザル様注意スベシ

1. 義眼ヲ裝用シテ患者ガ其美貌ヲ悦ブモノヲ得ルニハ豫メ眼瞼縮小ナク 健全ナル結膜囊ヲ有シ 義眼ニ適當ナル土臺アルコトヲ要ス 然ラバ能ク眼球陷没セズ 且ツ健眼ト大差ナキモノヲ得ベシ 此ノ如キモノハ萎縮眼 人工眼球ヲ賦與セルモノ 及ビ眼球内容除去眼ニ見ルコトヲ得 眼球摘出ヲ行ヘルマ、ノモノニテハ義眼陷没シ易ク 之ヲ防ガントシテ大ナル義眼ヲ裝填スレバ眼瞼閉鎖セズ 結膜囊緊張シテ不快感ヲ與フルガ故ニ 屢々健側ヨリ著シク小ナル義眼ヲ以テ満足セザルヲ得ザルコトアリ 殊ニ外傷又ハ手術時ノ不注意ニヨリテ結膜著シク短縮セルモノニテハ到底正シキ義眼ヲ得難キモノニシテ斯カル時ハ 義眼ノ左右ヲ交換シ 若クハ上下ヲ更ヘテ挿入シ 試ムベシ 結膜囊缺如シ全然裝用不能ノ時ハ義眼手術ヲ行ヒテ結膜囊ヲ作ルベシ
2. 先天性小眼球又ハ 瞼裂縮小 結膜囊短縮等ノ原因ニヨリテ 裝用セル義眼ガ 健側ヨリモ著シク小ナル時ハ 患眼ニ 4-10 デオプトリーノ凸鏡ヲ裝用シテ健側トノ均衡ヲ圖リ得(河本氏)
3. 義眼裝用後猶ホ眼球陷没シ上眼瞼ガ眼窩縁ニ皺襞ヲ成形スルモノニハ上皮ヲ除去シタル皮膚辨ヲ眼瞼皮膚下ニ挿入シ醜形ヲ矯正シ得(河本氏)

裝用後ノ注意 義眼ハ眼窩ニ對シ異物ヲ挿填セルモノナルガ故ニ 假令ヨク眼窩ニ適合セルモノニテモ多少組織ヲ刺戟スルヲ免レズ 殊ニ裝用ノ初メニハ結膜ノ分泌ヲ増シ 眼球殘存セルモノニテハ 其ノ充血ヲ來スヲ常トス 之ヲ顧慮シテ初メテ義眼ヲ裝フモノニハ眼

内緊満 疼痛ノ有無ヲ問ヒ 少シニテモ其ノ感アラバ之ヲ
避ケ 稍小ナル義眼ヲ以テ満足シ 眼高組織ノ慣性ヲ得タ
ル後 適宜大ナルモノト更新スルヲ可トス 同ジ意味ニ
テ裝用時間モ初メハ1日數時間トシ 漸次延長シテ全日
ニ亘ルモ 夜間ハ必ず取り出シテ持續的ニ 結膜ヲ刺戟ス
ルヲ避クベシ 取り出シタル義眼ハ淨水 2% 硼酸水ニ
漬ケ置クカ或ハ綿花ニ包ミ置クベシ

裝用後結膜ノ分泌増加セルモノニハ1日1-2回取り出
シ2%硼酸水冷罨法ヲ行フ 萎縮眼ニシテ義眼裝用後充
血著明トナリ疼痛ヲ生セバ 速ニ裝用ヲ廢シテ 温罨法ヲ
行ヒ 全ク消炎スルヲ待チ注意シテ 再ビ裝填スベシ

義眼裝用久シキニ亘レバ 其ノ表面光澤ヲ失ヒ 漸次粗
糙トナル 滑澤ナラザル義眼ニテ結膜ヲ摩擦スル時ハ慢
性結膜炎次デ 其ノ萎縮ヲ來シ 義眼裝用ニ堪ヘザラシム
故ニ裝用中結膜炎起ラバ速ニ此點ニ注意シテ義眼ヲ更新
スルコトヲ怠ルベカラズ 通常故障ノ有無ニ拘ラズ 1-2
年毎ニ更新スルヲ可トス 本邦製セルロイド義眼ハ數月
ニシテ光澤ヲ失ヒ 1-2年ニシテ磯貝ノ如ク腐蝕ス 斯ク
ノ如キモノヲ裝用スルノ害知ルベキナリ

義眼ニヨリテ起レル慢性結膜炎ニハ 硝酸銀水 硫酸
亞鉛水ノ如キ 收斂劑點眼 硼酸水罨法ヲ行ヒ チオ

フォルム末撒布 ヘブラ氏膏塗布ヲ試ムベシ

XXVII. 光線療法

日光ニ醫療的効果ノ存スルコトハ古クヨリ知ラレタル
ガ 其ノ効果アルハ主トシテ紫外線ニ因ルモノニシテ 可
視線ニハ大ナル意義ナシ 故ニ光線療法ト稱スルモノハ
紫外線療法ニ外ナラズ 紫外線ハ太陽及人工光源中ニ含
ムル

可視線即チ色線ハ屈折最モ弱キ赤線(波長 760 $\mu\mu$)ヨ
リ 屈折最モ強キ紫線(波長 397 $\mu\mu$)ニ亘ルモノニシテ
醫療トシテ特記スベキモノナキモ 往時所調暗黒療法
Dunkelkur ト稱シテ 白内障手術患者 虹彩 毛様體 眼底
ノ疾患ヲ暗キ病室ニ收メ 光線ノ眼ニ入ルヲ防ギタル
ガ 徒ラニ居住者ヲ陰鬱ニシ 空氣ノ流通ヲ妨ゲテ健康ヲ
阻害スルヲ以テ 今日全ク廢セラレ 若シ其必要アラバ繻
帶 保護眼鏡ニテ光線ヲ遮リ 室内ハ却テ光線ノ射入ヲ充

分ニシ 通氣ノ完全ヲ圖リ 加之花卉 盆栽ヲ備ヘテ 患者
ヲ慰安シ 健康ノ増進ヲ努ムルニ至レリ

線内障及ビ之ニ傾ケル眼ニハ殊ニ室内ノ採光ヲ充分ニ
シ 夜間ハ燭光ヲ強クスベシ 既ニ線内障ヲ發セルモノ
ニテハ殊ニ然リトス コレ充分ナル採光ノ下ニテ 線内
障ノ發作ヲ防ギ或ハ之ヲ輕減シ得ルヲ以テナリ

紫外線療法

1. 紫外線ハ波長 $394 \mu\mu$ 以下ノ短波線ニテ 肉眼ニテ見
エザルコトハ赤外線ニ等シキモ 赤外線トハ反對ニ
少シモ熱作用ナク却テ化學的變化ヲ惹起スルモノニ
シテ 化學線 Chemische Strahlen ノ名ヲ有シ 殺菌
作用アリ 赤外線ノ深達性アルニ反シ紫外線ハ表在
性ニ作用シ 皮膚ニテハ僅ニ 0.5 ミリメートルノ深
サニ達スニ 過ギザルノミナラズ 波長短キモノホド
猶ホ更ニ淺在性ニ作用ス
2. 紫外線ノ皮膚ニ作用スルヤ 射照時何等ノ感覺ナキ
モ 次デ温感ヲ自覺シ 猶ホ強ク射照スレバ灼熱感ヲ
來シテ 紅斑ヲ生ジ 甚シキ時ハ水泡ヲ作ル 此ノ水
泡ハ淺在性ニシテ 上皮層ノ上層ニ止マリ 何等痕跡
ヲ殘サズシテ治癒スルモノニシテ 彼ノ レントゲン
射照ニヨルモノノ如ク深行シテ潰瘍ヲ作ルコトナ
シ
3. 眼組織ニ及ボス影響ハ Schanz u. Stockhausen 氏等
ニ據レバ 紫外線中 $360 \mu\mu$ マデノ比較的長キ波ニ屬
スルモノハ全然角膜ヲ透過シ ソレヨリ短キ波長線

ハ一部角膜ニ吸收セラレ 波長 $300 \mu\mu$ 以下ノ短波線
ニ至リテハ全ク角膜ニ吸收セラル 吸收セラレタル
紫外線ハ角膜ヲ刺戟シテ 細胞ノ分核像ヲ認メ 羞明
流淚 充血 異物感アリテ 所謂 光線加答兒 Lichtkat-
arrh ヲ發シ 作用強キトキハ細胞ノ壞死ヲ招キテ
雪盲 電氣性眼炎等ノ劇症ヲ發ス 角膜ヲ透過セル
殘餘ノ紫外線ハ 虹彩及水晶體ニテ吸收セラレ 水晶
體ニテハ其一部ヲ $400-370 \mu\mu$ ノ長波線ニ變ジテ螢
光ヲ放タシム水晶體ハ紫外線ニ對シテハ從來著明ノ
障礙ナキモノトセラレタルガ ジャンツ・ヘス氏等ニ
據レバ 強キ紫外線放射ニヨリテハ水晶體上皮細胞
ノ壞死ヲ招キテ白内障ヲ生ズトイフ 加之網膜ニモ
障礙ヲ及ボスモノノ如ク ビルヒ・ヒルシュフェルド
氏ハ網膜神經節細胞ノ變性ヲ アクセンフェルド・ベ
ール氏等ハ網膜ニ於ケル暗應調障礙ヲ證セリ而シテ
紫外線中以上ノ如ク 角膜 結膜ニ作用シテ 其ノ刺戟
ヲ惹起スル 波長 $300 \mu\mu$ 以下ノ短波線ヲ 刺戟線 又ハ
外紫外線 Reizstrahlen od. äussere Ultraviolettenstr-
ahlen トイヒ $300 \mu\mu$ 以上ノ長波線ヲ 透過線 又ハ 内紫
外線 Penetrierende Strahlen od. innere Ultraviolet-
enstrahlen トイフ

4. 是等紫外線ニ據ル眼障病ヲ防グニハ保護眼鏡ヲ用キ
(保護眼鏡) 既ニ發症セルモノニハ 刺戟藥ヲ使用ス
ルコトナクシテ 生理食鹽水又ハ 硼酸水ニテ類同器
法シ 硼砂水 稀薄コカイン水(0.2%) 點眼 ノボカイ
ンワセリン點入等ニテ刺戟症狀ヲ緩和シ 炎症ノ消
退スルヲ待ツベシ 此種眼症ハ細菌性炎ト反對ニ夜
間ハ却テ輕快ヲ感ズルモノナリ

紫外線ハ其ノ化學的作用ト殺菌性能力トヲ利用シ 局

所及全身的ニ應用ス

局所的應用

日光ノ治療的效果アルコトハ希臘羅馬時代ヨリ知ラレ我國ニテモ痘瘡患者ニ紅衣ヲ纏ハシメシ古例アリ 1893年 Finsen 氏學術的ニ光線療法ヲ研究シ日光ヲ以テセル日光療法 電氣炭素弧光燈ヲ以テセルフィンゼン療法ヲ創按シ 其後鐵光燈 Eisenlichtlampe ウヴィオール燈 Uviolampe 水銀石英燈 Quecksilberquarzlampe 等續出スルニ至レリ

日光ニテモ人工光線ニテモ紫外線ガ治療的效果ヲ奏スルハ 紫外線中該組織ニ吸收セラル、波長ノモノガ組織ヲ刺戟スルニ因ル 例ヘバ 300 μ 以下ノ短波線ハ悉ク角膜ニテ吸收セラル、ガ故ニ 結膜及角膜ニ作用セシメントセバカ、ル紫外線ヲ多量ニ含ムモノヲ用キ 又タ虹彩ニ作用セシメントセバ 300 μ 以上ノ長波線ヲ用ウルヲ要ス 而シテ是等吸收セラレタル紫外線ハ健康組織ニ作用スルニ 先チ 病的細胞ニ對シ特ニ破壞作用ヲ呈スルモノニシテ 此ノ特長ヲ利用シテ病竈ノ再生ヲ促シ 治療轉歸ヲ促進スルモノトス

1. 日光療法

日光ノ殺菌 熱作用ヲ利用シテ 皮膚病殊ニ皮膚結核

ノ療法ヲ試ミタルモノニ Thayer, Otterbein, Mehl 氏等アリ Finsen 氏ニ至リ初メテ學問的ニ研究シテ其療法ヲ完全セシメタリ

フィンゼン氏日光療法ハ集光鏡ト 壓迫板トヨリ成ル 集光鏡ハ直徑 20センチメートルノ 2枚ノ硝子鏡ヲ 5センチメートル隔テ、置キ 一方ノ硝子鏡ハ兩平面 他方ノ硝子鏡ハ球面トシ 兩鏡ノ間ニ アンモニア性硫酸銅水ヲ盛リテ 赤線及赤外線ヲ吸收セシメ 鏡ヲ廻轉式ニシテ臺上ニ裝置シ 太陽ノ方向ニ垂直ニ鏡ヲ据ユレバ 70センチメートルノ距離ニ焦點ヲ結ブベシ

壓迫板ハ紫外線ヲ通過セシムル水晶ニテ作り 局所ヲ壓迫シテ血液ヲ驅逐シテ貧血状態ニ在ラシムルニ用ウ コレ血液ハ紫外線ヲ吸收シ去ルガタメ出來ルダケ局所ヲ貧血セシメンガタメナリ

アンモニア性硫酸銅水ハ硫酸銅 1.0 アンモニア 0.5 蒸留水 3000.0 ヨリ成ル 若シ射照シテ灼熱ノ感アラバ 2%硫酸銅水ヲ滴下シテ着色ノ度ヲ増スベシ アンモニア缺乏スル時ハ乳濁ス 此ノ時ハ 4%アンモニア水ヲ滴下シ 液ヲシテ常ニ清澄ナラシムベシ

本法ハ主トシテ 結膜結核ニ適用シ 又タ頑固ナル 眼瞼緣炎 眼瞼皮膚結核ニモ試ミラル 局所ニ起ル反應状態ハ 地上ニ達スル 紫外線ノ分量ニヨリテ一定ナラザルガ故ニ 任意ニ加減シ 第2回射照ハ前回ノ反應性炎症ノ消

退ヲ待チテ行ヒ 反復持續スルモノトス

太陽中ノ紫外線ハ大氣中ニテ大部分吸收セラレ 殊ニ塵埃多キ都市及ビ光力弱キ冬期 又ハ北國ニテハ其ノ量ニ乏シク 又タ曇天 夜間ハ全然本法ヲ行ヒ難キ不便アリ 然レ共 用法簡易ナルガ故ニ 光力强ク晴天多キ地方ニテハ應用シテ可ナルベシ

2. フィンゼン氏炭素弧光燈 Finsen'sche Kohlenbogenlampe.

本法ハ直流50 ボルト50 アンペアノ電流ヲ 特製ノ炭素弧光燈ニ通ジ 其ノ發散スル光線ヲ4個ノ集光管ニ集束シ 水晶ノ壓迫器ヲ以テ局所ノ血液ヲ驅逐シツ、局部ニ集中セシムルナリ 其ノ光線ハ青・紫線及紫外線ヨリ成リ 其ノ紫外線ハ殊ニ長波線ニ富ムガ故ニ深達性ヲ有ス 本装置ハ規模大ニ過ギ 且ツ多量ノ電流ヲ要シ 實地醫家ニハ適用シ難キニヨリ フィンゼン氏ハ別ニ A. Reyn 氏ト共ニ 55 ボルト 20 アンペアノ電流ヲ以テスル小装置所謂 フィンゼン・ライン燈 Finsen-Reynlampe ヲ作レリ

フィンゼン・ライン燈ハ自働調節ニテ互ニ直角ニ對向セル炭素棒ヨリ發スル弧光ヲ 水晶ノレンズニテ作レル集光管ニ收メ 管中ニ水室ヲ設ケテ光源ヨリスル熱線ヲ

吸收シ 冷水ヲ灌注スル装置ヲ附シテ レンズノ破碎ヲ豫防ス 局所ノ貧血ヲ惹起セシムルタメ 水晶板ヨリ成レル壓迫器ヲ用ウ

フィンゼン燈ハ專ラ皮膚狼瘡ニ使用セラレ 其効力レントゲン線ヨリモ遙カニ卓越ス フィンゼン・ライン燈ノ用途モ之ニ等シ 眼科ニテハ Lundsgard 氏初メテ結膜結核ニ適用シテ效果ヲ認メタリ 照射ハ無痛ニシテ數時間後限局セル潮紅ヲ來シ 24 時間ニテ極度ニ達シ 數日ニシテ全ク消炎ス 射照強キ時ハ水泡次デ痂皮ヲ作ルモ表在性ニシテ癩痕ヲ殘スコトナシ 第2回照射ハ前回ノ反應消退ヲ待チテ行ヒ反復ス

本法ノ適應ハ皮膚狼瘡 結膜結核ニアリ 匐行性角膜潰瘍 トラホームニモ用ヒテ相當ノ效果アルモノノ如シ

3. 水銀石英燈 Quecksilberquarzlampe.

1892年 Arons 氏初メテ水銀蒸氣光ヲ發見シテ 赤・青・紫線ノ外ニ 多量ノ紫外線ヲ含ムコトヲ認メ Küch 氏ハ堪熱性ニシテ且ツ紫外線ヲ悉ク通過セシムル石英管ヲ考案シ Kromayer 氏ハ之ニ冷却装置ヲ附シテ熱線ヲ吸收セシメ 以テ廣ク治療用ニ供シ得ルモノニ改良セリ クロマイエル氏水銀石英燈之レナリ

クロマイエル氏水銀石英燈ハ發光管ト 金屬匣トヨリ

成リ 水道ヨリ水ヲ導キテ 發光管ヲ冷却スルナリ コレニ青窓 壓抵器等ヲ附屬ス 直流 100-250 ボルト 3-4 アンペアノ電流ヲ用ウ

1. 發光管 Leuchtrohr ハ電壓及水壓ニ堪ヘ得ルタメ 二重ノ水晶管ヨリ成リ 其ノ下方ニハ 兩極管アリテ水銀ヲ盛り 器械ヲ傾クレバ水銀ハ發光管ニ流入ス 兩極管ノ一端ニハ電流ヲ通ズ
2. 金屬匣 Metallgehäuse ハ發光管ヲ包ミ 前面ニ水晶ノ窓ヲ有シ 下部ニ 2 個ノ導管ヲ備ヘテ水流ノ出入ヲ司リ 發光管ヲ冷却ス
3. 青窓 Blauscheibe ハ スコット氏紫外線硝子 (Schottisches Ultravioletglas) ニテ作り 青・紫線及紫外線中ノ長波線ヲ通過シ 熱線及紫外線中ノ 280 μ 以下ノ短波線ヲ吸收スルガ故ニ 照射ニヨル 局所ノ刺激ヲ減ジ得
4. 壓抵器ハ局所ヲ壓迫シテ貧血ヲ起サシムルモノニシテ 石英ニテ作り 大小種々ノ圓板 圓環ヨリ成ル

石英燈ヲ使用スルニハ水道ヨリ水流ヲ通ジテ發光管ヲ冷却シ 次ニ電流ヲ通ジ 水銀燈ヲ前ニ傾ケ 以テ水銀ヲ發光管中ニ流入シテ 左右ノ水銀柱ヲ相接觸セシメ 然ル後再ビ器械ヲ原位置ニ復歸セシムレバ 接觸シタル水銀柱ハ再ビ左右ニ分ルハト共ニ 其ノ空間ニ生ジタル水銀蒸氣ニ發光スベシ コレヲ 5-20 センチメートルヨリ病竈ニ照射シ 或ハ壓抵器ヲ裝置シテ直接局所ヲ壓迫シ 照射スルナリ

本法ハフィンゼン燈ヨリモ其ノ用途廣シ

眼瞼瘰癧 表皮癬 血管腫ニハ壓抵照射ヲ用キ 10-60 分間照射ス 照射時何等ノ反應ナケレトモ 1-3 日ヲ經テ 局所ノ發赤 腫脹 疼痛ヲ來シ 3-5 日ノ極期ヲ經テ 1-3 週後治癒ス 時トシテ水泡ヲ形成スルコトアルモ 癬痕ナク治癒ス 要スレバ局所ニラッサル氏膏 亞鉛華イヒチオール膏ヲ貼用スルハ可ナルモ 強キ刺激劑ハ決シテ用ウベカラズ コレ却テ治癒ヲ遷延スルコトアレバナリ

眼瞼濕疹 潰瘍性眼瞼緣炎ニハ 5-10 センチメートルノ遠隔照射ニテ 眼瞼ヲ閉ヂサセテ行フ 照射時間ハ 5-30 分トシ 2-4 日ノ間隔ニテ反復ス 反應ハ 24 時間後極期ニ達シ 發赤 疼痛ヲ伴ヒ 2-3 日ニシテ消退ス 癬 麥粒腫 潰瘍モ亦之ニ準ジテ行フベシ

潰瘍性眼瞼緣炎ニテハ眼瞼ヲ翻轉シ行ヒ得 霰粒腫ノ結膜ニ自潰セントスルモノニハ眼瞼ヲ翻轉シ 壓抵シテ血管ヲ驅逐シテ作用セシムベシ

睫毛禿ニハ 壓定又ハ遠隔照射シ 卓効ヲ奏ス

結膜結核ニハ眼瞼ヲ翻轉シ 壓抵器ニテ血管ヲ驅逐シ 20-60 分間照射スベシ 反應トシテ強キ眼瞼及結膜浮腫ヲ生ズルモ 2-3 週ニテ消退ス 反復照射シ奏効ス 角膜 鞏膜及虹彩ノ結核ニモ適用シテ効アリ 眼球ニ照射スル時ハ其時間ヲ短クシ (5-15 分) 病竈以外ヲ 濕ホヘル綿花

ニテ覆フベシ トラホームニハ他ノ療法(結膜按摩 搔爬)ト混用シテ効アルモ 本療法ノミニテハ奏効顯著ナラズ 其他慢性結膜炎ニシテ治癒シ難キモノ 及ビ匱行性角膜潰瘍ニモ効アリ 但シ匱行性角膜潰瘍ニ對シテハオプトヒンノ卓効アルニ如カズ 蠶食性角膜潰瘍ニハ諸家ノ成績一致セズ 角膜實質炎ニハ効ナク 急性腫脹性結膜炎ニハ 症狀却テ不良トナル

全身的应用

病後ノ恢復期 腺病性體質者 結核病者ガ海岸 高山ニ滞在シテ能ク全身状態ヲ佳良ナラシムル原因ノ一ハ太陽ヨリ放射スル紫外線ノ全身ニ影響スル結果ニシテ眼科的ニハ腺病性及結核性眼疾患者ニ試ミテ常ニ好良ノ成績ヲ收ムル所ナリ 然レ共太陽ガ常ニ照ラザルト又其ノ紫外線ノ大部分ガ地上ニ達スルマデニ大氣中ニテ吸收シ去ラル、タメ 治療用トシテハ不完全ナルヲ免レザルニヨリ隨所ニ任意ノ紫外線ヲ得ベキ人工高山太陽 Künstliche Höhensonne ヲ案出シ以テ治療ニ便ニセリ (Bach, Nagelschmidt 1913 年) コノ装置ハ全身ヲ照射スル外ニ猶ホ局所的ニ廣キ體表ヲ照射スルニモ用キラル

人工高山太陽 Künstliche Höhensonne.

發光管ト圓蓋トヨリ成リ天井ヨリ器械ヲ吊リ下グルカ又ハ特殊ノ臺ニ備付ケ 直流 110-140 ボルト 4-12 アンペア 又ハ 200-240 ボルト 2.5-9 アンペアノ電流ヲ用ウ

1. 發光管ハ 110-140 ボルトノ電流ノモノニテハ 其ノ長サ 6.5 センチメートル 200-240 ボルトノ電流ノモノニテハ 12 センチメートルヲ有シ 中ニ水銀ヲ盛り兩端ニ電流ノ兩極ヲ通ズ 電流ノ強サト熱ノ放散ヲ調節スベキ金屬製冷却装置ヲ附屬ス
2. 圓蓋ハ アルミニウムノ上下兩半球ヨリ成リ 上半球ニハ發光管ヲ取り付ケ 下半球ハ上半球ヘノ閉鎖用トシテ 任意開口ノ度ヲ加減ス 下半球ヲ全閉鎖スル時ハ 圓窓アリテコレヨリ紫外線ノ放出セラル、装置トナレリ

使用法ハ圓蓋ニ附屬セル槓杆ヲ以テ發光管ヲ傾ケ兩極ノ水銀ヲ管ノ中央ニテ接觸セシメ 更ニ原位置ニ復歸セシムルコト恰モ水銀石英燈ノ原理ニ同ジ 全身ヲ照射スルニハ圓蓋ヲ全開シ 體表ノ一部ヲ照射スルニハ其ノ幾分ヲ開キ 又ハ全閉鎖シ 圓窓ノミニテ照射ス 電流ヲ通ジテ約 5 分ヲ經過スレバ 平等ノ光力ヲ以テ照射セラル、モノトス

全身的ニ用ウル場合ハ患者ニ保護眼鏡ヲ裝用セシメ又ハ 5 メートル以内ノ者ナラバ術者モ助手モ保護眼鏡ヲ裝

フヲヨシトス コレ發光管ヨリ放射セル紫外線ガ周圍ノ
物體ニ中リ 反射シ來ルヲ防グタメニシテ 輕キ光線加答
兒ヲ起ス限アレバナリ

全身ヲ照射スルニハ 初メ 全身ノ前半面 次デ後半面ヲ
照射ス 燈ト射照面トノ距離ハ 最初1メートルトシ 3
分間照射シ 第2回以後ハ每常 10センチメートル宛ヲ短
縮シテ 50センチメートルニ至リテ 其マ、持續ス 照
射時間モ漸次延長シ 30分ニ至リテ持續ス 照射ノ間隔
ハ2-4日ヲ常規トスルモ 皮膚ノ抵抗強キモノニハ 日々
行ヒテ可ナリ 通常 12-15回ノ照射ニテ一時中止シ 3-4
週間ノ休療期ヲ置キテ更ニ最初ノ如ク照射ヲ反復シ數月
乃至數年ニ及ブ

廣キ體表ヲ局所的ニ照射スルニハ 初メ 50センチメ
ートルノ距離ヨリ開始シ 漸次近接シテ 20センチメ
ートルニ及ブモ 之レヨリ近ヅクル時ハ 熱線ノ刺戟
強クナリテ火傷ヲ生ズベシ 照射時間ハ 3分ヨリ始
メ 次回ヨリ 3-5分間宛ヲ延長シ 30分間ニ及ンデ持
續ス 局所的ニ起ル反應ハ 皮膚ノ充血ニシテ 照射
後數時間ニテ起リ 後ニハ反應セザルニ至ル 皮膚
反應生ゼザルニ至ラバ 日々照射シ 然ラザレバ 2-4
日ノ間隔ヲ置キテ行フベシ

全身照射中患者ハ安靜 自適ノ感ヲ生ジ 睡眠ヲ催シ
呼吸深ク 脈搏充實スルモ 其ノ脈數ニハ變化ナシ 照射

終リテ後ハ精神爽快トナリ 熟睡シ 食慾亢進ス マタ血
壓降下シ 尿量増加ス 是等ハ全身ノ酸化及還元作用ノ
亢進スル結果トセラル 通常第1回照射後反應ガ最モ著
シク起リ 漸次ニ 皮膚ノ褐變スルト、モニ 上記反應ヲ自
覺セザルニ至ルモ 効果ハ猶ホ存スルモノナリ 15回以
上照射シテ 皮膚ノ着色著明トナルニ至リテハ 紫外線ノ
作用ヲ阻害シ 效果不十分トナルガ故ニ 暫時休療シテ皮
膚褐變ノ褪色スルヲ待チ 然ル後再ビ行ヘバ最初ノ反應
ヲ復タ惹起スルモノナリ 此ノ休療期ハ 3-4週トス 本
法ハ腺病性體質ニヨル眼疾患 内因性眼結核症ニ用キテ
効アリ 場合ニヨリ全身照射ト局所照射トヲ混用スルコ
トアリ (Passow) Stock 氏ハ全身照射ノ際患者ニ保護眼
鏡ヲ裝用セシメズシテ 水胞性結膜角膜炎ヲ治療セリ

パッソー (1921年) 氏ガ 100例ノ小兒ノ腺病眼ニ行
ヒタル成績ニ據レバ 其3分1ハ 1回ノ照射ニテ佳
良トナリ 他ハ 2-3回乃至ソレ以上ノ照射ニテ 輕快
セリトイフ

XXVIII. レントゲン療法

1895年 Röntgen 氏 エックス線ヲ発見シ 1896年 Freund 氏始メテ治療上ニ之ヲ應用セリ

エックス線ハ真空管ニ電氣ヲ通ジタル時生ズル陰極線ガ管内ニ設ケタル金屬板又ハ管壁ニ申リテ熱ト共ニ生ズル新線ノ謂ニシテ 紫外線ノ如ク眼ニ見ヘズ 陰極線ノ如ク直線的ニ進行シ 硝子其他ノ物質ヲ層ノ厚薄 分子量ノ輕重ニ從ヒテ透過シ 化學作用 寫眞作用 電離作用等ヲ有ス

レントゲン装置ハ電流感應器 電流斷續器 レントゲン球管ノ主要装置ノ外ニ アンペアメーター ミリアンペアメーター 竝列閃光器 クアリメーター 前列閃光器等ノ 附屬器具ヨリ成ル

1. 電流感應器 Induktor 又ハ 感應コイルハ 電源ヨリ導キタル電流(直流 110-220 ボルト)ヲ 高壓ノモノニ變ズルガタメニシテ 鐵心ニ太キ針金ヲ短ク捲キタル 第一次線ト 更ニ細キ針金ヲ長ク捲キタル 第二次線トノ内外 2 個ノ圓環ヨリ成リ 第一次線ニ電源ヲ繋ギ 電流斷續器ニテ電流ヲ斷續スル時ハ 其ノ感應ニヨリ 第二次線ニ 高壓ノ 第二次電流ヲ生ズ 第二次電流ノ強サハ 第一次電流ノ強サ 圓環ニ捲ケル 第二次線ノ數ニ關係シ 第二次線ノ兩極間ノ閃光距離 Funkenstrecke ニヨリテ 其機能ノ強弱ヲ定ム 通常治療用トシテハ閃光距離約 30 センチメートルノ中

等度ノモノニテ可ナリ

2. 電流斷續器 Unterbrecher ハ第一次線ノ電流ヲ斷續スルモノニシテ 電解斷續器 elektrolytische Unterbrecher 水銀斷續器 Quecksilberunterbrecher 等アリテ治療上ニハ後者ヲ稱用シ 電動機ニヨリ迅速ニ回轉スル 容器内ノ水銀ガ 導體及非導體ニ觸レテ電流ヲ斷續スルモノナリ 近時交流ヲ以テスル グリソナトール Grissonator レントゲン理想裝置 Röntgenidealapparat 等 電流斷續器ヲ要セザル 高壓電流裝置アリ
3. レントゲン球管 Röntgenröhre ハ概シテ球形ヲナシ 陽極 Anode 陰極 Kathode 對陰極 Antikathode ノ 3 個ノ管狀突起ヲ有シ 陰陽兩極ハ相對向シ 陽極ト對陰極トハ球外ニテ電線ニヨリ相通ズ 對陰極ハ白金 イリヂウム タングステンノ如キ融點高キ金屬ヨリ成リ 陰極ノ凹鏡ヨリ放射集束スル 陰極線ヲ其ノ表面ニ受ケテレントゲン線トスルモノナリ
4. レントゲン管ハ其ノ内ニ含マル、氣體ノ量ニヨリテ軟管ト硬管トヲ分チ 氣體多キモノハ電氣ノ全量悉ク管内ニテ平均シ 透過力弱キレントゲン線ヲ生ジ(軟管) 氣體ノ含量稀薄ナルモノハ電流ノ一部管内ヲ通過シ 之ニヨリテ透過力大ナルレントゲン線ヲ生ジ(硬管) 甚シキハ全ク管内ヲ通ゼズシテ悉ク管外ヲ迂曲シレントゲン線ヲ生ゼズ(過硬管) 管球ノ硬軟ヲ知ルニハ硬度計 Härtemesser アリ
5. 管球ハ使用中漸次硬度ヲ増スガ故ニ 之ヲ調節スルタメ滲透調節 瓦斯放散調節 空氣送入調節法等ヲ行ヒ 又タ硬度ヲ一定ナラシムルタメ水冷球管 氣冷球管等アリ
6. 附屬器中 アンペアメーターハ第一次電流ノ強サヲ

知ルニ ミリアンペアメーターハ 第二次電流ノ強サヲ測定スルニ用ウ ミリアンペアメーターハ 球管ノ硬度ヲ知り得ルモノニシテ 其ノ指數少キホド管ハ硬キモノトス クアリメーター Qualimeter ハ感應コイルノ陰極ニ連続セシメ 第二次電流ノ電壓ニヨリテ球管ノ硬度ヲ示スモノナリ 竝列閃光器 Parallele Funkenstercke ハ感應コイルノ閃光距離ヲ測定シ 球管ノ硬度ヲ概測スルニ用キ 前列閃光器 Vorschaltfunkenstrecke ハ第二次線ニ生ズル閉鎖電流ヲ防禦ス(閉鎖電流トハ本電流ニ逆行シテ 陰極ヲ陽極トシテ 對陰極ヨリ陰極ニ向ヒ 遂ニ陰極線ヲ發シ 對陰極ヨリ白金ノ粉末ヲ管内ニ飛散シテ 硝子壁ヲ黒褐色ニ變ジ 管内瓦斯ヲ少ナクシ管ヲ硬化セシムルモノナリ) ベンチール管 Ventilrohre ノ用途ハ前列閃光器ニ同ジ

7. 此ノ外 治療用ニハ硬度計 Härtemesser 及光量計 Dosimeter 診臺 含鉛護謨布等ヲ必要トス 硬度計ハ球管ノ硬度ヲ測定スルモノニシテ ウェーネルトブノア ワルテル クリステン パウエル氏等ノ硬度計アリ

8. 光量計ハ皮膚ニ放射セルレントゲン線ノ量ヲ測定スルモノニシテ サブロー・ノアレ氏光量計 Radiometer n. Sabouraud u. Noire ホルツクネヒト氏光量計 Chromoradiometer n. Holzknicht. キーンベック氏光量計 Quantimeter n. Kienböck. シュワルツ氏沈降光量計 Fällungsradiometer n. Schwarz. ケーレル氏測熱法 Wärmemessmethode n. Köhler 等アリ 而シテレントゲン線ノ單位ニハホルツクネヒト Holzknicht 氏單位(IH)ト キーンベック Kienböck 氏單位(IX)トアリテ IH ハ壯年者ノ顔面皮膚ニ著明ノ反應ヲ生ズル

放射量ノ3分1量 IX ハ IH ノ2分1量ニ當ル 又タ紅斑量 Erythemdosis (E. D) トハ皮膚ニ輕度ノ紅斑ト輕微ノ脱毛トヲ生ズル放射量ニシテ 又之ヲ全量 Volldosis トモ云ヒ 5H 又ハ 10X ニ相當ス 光量計ハ各特殊ノ方法ニヨリテ IH IX 又ハ E. D ヲ表示スルナリ

レントゲン装置ヲ操作スルニハ 球管ヲ支持器ニ納メ 感應コイルノ電極ヲ球管ノ同名極ト連結シ 電動器開閉器ヲ閉鎖シテ 電流斷續器ヲ廻轉シ 之ニ附屬セル抵抗器ニテ 斷續回數ヲ加減シ 感應コイル 開閉器ヲ閉鎖シテ 第一次電流ヲ起シ アンペアメーターニテ 電流ノ強サヲ調節シ ミリアンペアメーター 竝列閃光器 クアリメーターニテ球管ノ硬度ヲ調節シ 全操作中球管ノ硬度ヲ不變ナラシムルコトヲ要ス

レントゲン療法ハ其ノ目的ニヨリテ 表層放射 Oberflächenbestrahlung ト 深達放射 Tiefenbestrahlung トヲ區別ス 表層放射ハ中等硬度(5-7 Wehnelt)ノ球管ヲ以テ $\frac{1}{2}$ E. D ヲ放射シ 約2週後同量ヲ行フカ 或ハ先ヅ $\frac{1}{3}$ E. D 8日後同量ヲ再射シ 若シ少シク深達セシメントセバ 硬度ヲ進ムベシ マタ初メヨリ深達作用ヲ目的トスル時ハ 硬管ヲ用キ アルミニウム濾過器ニテ放線ヲ濾過シ 又ハ皮膚貧血ヲ起サシメテ局所ノ透過力ヲ増進セシメ行フベシ

1. アルミニウムノ厚サ3ミリメートルノモノハ深達作用最モ大ナリ コレ皮膚ヲ刺戟スル軟線ヲ吸收シ硬線ヲ透過シ且ツ硬キ第二次線ヲ發生スルニヨル
2. 皮膚貧血ヲ起スニハ局所ヲ壓迫スルカ或ハアドレナリン注射ヲ行フ

レントゲン線ノ局所的反應ハ一定ノ潜伏期ヲ經テ紅斑色素沈着 脱毛 水泡及潰瘍形成ヲ營ミ 後ニ皮膚ノ角化及萎縮 癩痕 白斑等ヲ續發ス 而シテ レントゲン量ガ多ケレバ本潜伏期ハ短クシテ強ク 少ケレバ長クシテ弱ク 大抵數日乃至3週ニ亘ル 病的細胞殊ニ腫瘍細胞ハ感受性强ク 健常細胞ノ未ダ何等ノ變化ヲ呈セザル中ニ 容易ニ壞死ス 人體組織中最モ過敏ナルハ睾丸 卵巢 脾臟 白血病及假性白血病組織 脂漏性濕疹ニシテ 小兒顔面皮膚 汗腺 皮腺 肥大攝護腺 肉腫 上皮腫 結核性淋巴腺等之ニ次ギ 感受性普通ナルハ皮膚ニシテ 遲鈍ナルハ結締織 筋肉 軟骨 萎縮セル皮膚 脂肪腫等ナリ 殺菌作用ハ極メテ微弱ニシテ 組織ヲ壞死セシムル 程度ニテ初メテ現ハルモノナリ

眼組織ニ對スルレントゲン線ノ作用ハ皮膚ニ比シテ特ニ過敏ナリト認メ難ク(C. Müller 1921年)從テ紅斑量ヲ越ヘザル程度ニテ適用スルコトヲ得 但シシュワルツ氏法則 Schwarz's Gesetzニヨリ レントゲン線ノ感受性ハ主

トシテ組織ノ流血量ニヨルモノナルガ故ニ 充血著明ナルモノニテハ健眼ヨリモ20-40%過敏ナルヲ免レズ 而シテ紅斑量マデノ放射ニテハ 水晶體 網膜ニ何等ノ變化ナク 放射後1-3週ニシテ眼瞼充血 流涙 結膜炎 時トシテ角膜上皮剝離ヲ來シ 反復放射ニヨリ眼瞼皮下組織弛緩シテ上眼瞼下垂シ 眼瞼皮膚褐變 睫毛禿 結膜血管ノ充盈 角膜表層潤濁及ビ知覺減退 稀ニ潰瘍形成等ヲ來シ 水晶體 網膜ニハ異狀ナシ 眼各部ノ感受性ニ就テハミルレル氏ハ皮膚ノ紅斑量ヲ100%トスレバ 結膜 鞏膜ニテハ100%角膜ニテハ120-130%水晶體ハ90-100%ナリトシ スツンプ氏(1921年)ハ眼瞼皮膚100%以上 結膜120-150% 睫毛75% 角膜120-150% 眼ノ其他ノ部分100%以上トセリ

適應症 眼球及其附屬器ニ於ケル良性及惡性腫瘍ニシテ 眼球以外ノ部分ヲ放射スルニハ角膜ヲ防護スルタメ 鉛ノ皿ニテ角膜ヲ覆フカ 若クハ含鉛義眼ヲ裝用ス 眼瞼 眼窩ノ腫瘍ニシテ 猶ホ小サクバ 其儘之ヲ行ヒ 大ナルモノハ外科的所置ノ後再發ヲ防グ目的ニ施スベシ 眼球ノ腫瘍(虹彩 脈絡膜肉腫 網膜膠腫)ニハ其ノ位置ニヨリ或ハ角膜ヲ覆ヒ 或ハ曝露シテ照射ス 而シテ皮膚紅斑量ヲ100%トシ 癌ヲ110%肉腫ヲ60%トセバ 眼

球及眼高内ノ是等腫瘍ヲ治療スルニ 眼球ヲ周匝シテ各方面ヨリ紅斑量ヲ超過セザル程度ノ放射ニテ目的ヲ達スルコトヲ得ベシ 此際球管ハ硬キモノヲ用キ 3.0-3.5 ミリメートルノ アルミニウム板ヲ以テ濾過シ 深達作用ヲ充分ナラシムルコト必要ナリ

腫瘍以外ノ眼疾患ニハ効力顯著ナラズ 眼瞼 眼球ノ結核ニハ學者ノ賛否相半シ 効績一定セズ トラホーム 角膜實質炎ニ 輕ク照射シテ 反應性充血ヲ催サシメ効アリトイフモ 特ニレントゲン療法ヲ撰ム必要ナク 他ノ刺戟ヲ以テ代ヘ得ベシ 春季加答兒 鞏膜炎 虹彩毛様體炎 硝子體潤濁 角膜翳ニ於ケル成績モ亦之ニ準ス Seefelder 氏ハ交感性眼炎 重キ腺病性角膜炎ニ用キテ効アリトシ Jendralski, Koster, Hessberg 氏等ニ據レバ 出血性緑内障ニ深達療法ヲ行ヒテ効アリトイフ

XXIX. ラヂウム療法

1898 年 Curie 夫妻ノ發見セル元素ニシテ 之レヨリ放射スルベクレル線ヲ以テ醫療ニ用キントスルニアリ

1. ベクレル線トハ佛人 Becquerel (1896 年) 氏ガ ウラニウム鹽ヨリ寫眞作用アル放射線ヲ發見セルニ始マリ 其後トリウム ラヂウム アクチニウム イオニウムノ如キ螢光體ニハ總テ同様ナル一種個有ノ放射線アルコトヲ認メ 是等元素ヲ放射性物質 radioaktive Substanz ト命名セリ ベクレル線ハ α , β , γ 線ヨリ成リ α 線ハ其分量最多クシテ 90% ヲ占メ 陽電氣ヲ帶ビ 透過力弱ク 約7センチメートルノ空氣層ニテ全ク吸收セラレ β 線ハ約 9% ヲ含ミテ陰電氣ヲ帶ビ α 線ヨリモ透過力強ク コレニ硬線ト軟線ヲ區別ス β 硬線ハ5ミリメートル鉛板ヲ β 軟線ハ2ミリメートルノ鉛板ヲ透過シ組織ヲ刺戟スルコト α 線ヨリモ弱シ γ 線ハ ラヂウム放射線ノ約 1% ヲ成シ α , β 線ガ磁力ニヨリ振レヲ生ジテ彎曲スルニ拘ラズ 少シモ 其ノ影響ヲ受ケズニ直線的ニ進行スルコトレントゲン線ノ如キモ 透過力ハレントゲン線ヨリモ遙カニ強シ 故ニ α , β 線ハ表在性刺戟ヲ與ヘ γ 線ハ深達作用ヲ組織ニ及ボシ 組織ヲ刺戟スルコト最少シ

2. 放射性物質ハ漸次ニ分割壞變シテ他ノ原子ヲ生ムモノニシテ 放射線ハ 其分割崩壞ノ際射出スルモノナリ 斯クノ如クニシテ終ニ一ノ放射性族 radioaktive Familie ヲ作り ウラニウム族 アクチニウム族 トリウム族ハ其ノ著明ナルモノナリ 壞變ニヨリ生ズル物質ノ運命ハ衰耗率 radioaktive Konstante ニ從ヒテ 放射能ヲ減耗スルモノニシテ 通常最初ノ放射能ヲ半減ニ至ル時期即半減期 Halbirungszeit ヲ以テ之レヲ示ス 之ニ據レバ ラヂウムハ 2000 年 ウラニウムハ 6 年 10 月 トリウムハ 3 年 10 月ヲ經テ漸次他ノ放射性族ニ移行ス 例ヘバ ラヂウムヨリラ

ヂウム A. B. C. D. E. F. G 等ノ放射性物質ヲ生ズルガ如シ 而シテ ラヂウムノ半減期ガ 他ニ比シテ著シク長キハ 治療用ニ供セラルル所以ナレ共 價ノ不廉ナルハ缺點ナリ

3. ラヂウム製品ニハ筒入 箱入 漆製等數種アリ

ラヂウムヲ使用スルニハ α , β , γ 線ノ性能ニ從ヒ α , β 線ハ淺在性疾患ニ γ 線ハ深在性症ニ用キ 又タ此ノ 3 線ノラヂウム放射線ニ含マル、比率ニ從ヒテ α 及 β 軟線ノ適應ニハ少量ノラヂウムヲ短時間行ヒ γ 及 β 硬線ヲ用ウルニハ 多量ノラヂウムヲ長時間適用セザルベカラズ 斯クノ如キハ濾過法ニヨリテ任意調節シ得ルモノトス

濾過法 Filtration der Strahlen ハ α , β , γ 線ノ透過力ニ相違アルヲ利用スルモノニシテ α , β 軟線ノ一部ヲ濾過スルニハ紙 護謨紙 護謨管又ハ厚サ 100 分 1 乃至 10 分 1 ミリメートルノ アルミニウム板ヲ以テシ γ 及 β 硬線ノミヲ通過セシムルニハ厚サ 10 分 1 5 分 1 2 分 1 乃至 2 ミリメートルノ鉛板ヲ使用ス 猶ホ局所ニハ薄キ綿花ノ層ヲ以テ蔽ヒ 皮膚ノ褐變スルヲ防グヲヨシトス

使用法ハ其ノ目的ニ從ヒ ラヂウムヲ患部ニ直接貼用シ 絆創膏又ハ繃帶ニテ固定シ 或ハ十字火法 Feu Croiséニヨリ數個ノラヂウムヲ局所ノ前後左右ニ貼スルカ 又ハ鉛ノ圓筒ニ ラヂウムヲ吊シ 護謨紙ニテ包ミ ラヂウ

ムヲ局所ヨリ 1-5 センチメートル隔テ、遠隔放射ヲ行フ (Byet) 深在性ノ悪性腫瘍ニハ 創口ヨリ ラヂウムヲ刺入シテ効アリ

貼用時間ハ表在性疾患ニハ 弱キ濾過法ヲ用キ 5 分乃至 2-3 時間 深在性症ニハ強キ濾過法ニ據リ數時間乃至數日間持續ス 概シテ患部深ケレバ貼用時間ヲ長クスルモノニシテ 實際表在性刺戟ヲ除クタメ 濾過法ヲ必ず行フベキモノトス 腫瘍ニ刺入スル場合ニハ 十數日ヲ持續スルコトアルモ 之ガ爲メニ 全身ニ何等ノ副作用ナキモノトス

1. ラヂウム貼用後數日乃至 2-3 週ヲ經テ紅斑ヲ作り 表皮脱落 褐色痂皮ヲ形成シ 甚シキ時ハ壞疽トナリ潰瘍ヲ作り 癩痕トナリ治癒ス 然レ共 レントゲン 皮膚炎ノ如ク深在性ナラズ 若シ之ヲ生ゼバラッサル氏膏 亞鉛華軟膏ヲ貼用スベシ
2. ラヂウム放射線中 α 線及 β 軟線ハ專ラ組織ノ破壊ヲ營ミ γ 線及 β 硬線ハ變質及融化作用ヲ行フ (Dominici, Barcat) 皮膚ニ貼用シテ起ル反應ハ 主トシテ α 及 β 軟線ノ作用ニヨルモノトス
3. 場合ニヨリ紫外線 レントゲン 線療法ト合併シテ行フコトアリ

適應症 眼瞼 結膜 角膜ノ良性及悪性腫瘍(上皮癌 肉腫 乳嘴腫 母斑 血管腫 疣贅 黄色腫等)ニシテ 小ナルモノニハ 常ニ確實ニ奏功シ 腫瘍大ニシテ 外科的治療

ヲ施セルモノニハ 再發ヲ豫防スル 目的ニ貼用シテ功アリ 結膜 鞏膜及虹彩結核ニハ 紫外線療法ト併用シテ奏功一層顯著ニシテ パリノー 氏結膜炎ニモ 同様ノ成績ナリ 然レ共眼窩深部ノ腫瘍ニハ功薄ク (Krückmann, Plocher) 網膜膠腫 脈絡膜肉腫ニハ 一時其ノ退行スルヲ認ムルモ 永久的治癒ハ困難ナリ (Axenfeld) 此ノ外 Hertel, Flemming 氏等ニ據レバ頑固ナル角膜潰瘍 匱行性角膜潰瘍及慢性結膜炎 春期加答兒ニハ 好影響ヲ與ヘトラホーム及バンヌスニハ多少治癒ヲ早ムルモ 特ニ著効ヲ認メ難ク 腺病性結膜炎及角膜炎 角膜實質炎 鞏膜炎ニハ効ナク 虹彩及毛様體炎ニハ鎮痛ノ功ハアレ共 主病ニハ影響ナシトイフ

悪性腫瘍ニハ長期ニ亘リ 反復放射療法ヲ行ヒ 腫瘍消失後モ再發豫防ノ目的ニテ時々反復スベシ 結膜結核ニハ時トシテ 腐蝕 搔爬法等ヲ併用シテ奏功顯著ナルコトアリ 母斑ニハ潰瘍ヲ生ゼザル程度ニ輕ク長期ニ亘リ使用スベシ

メソトリウム Mesothorium.

1907年 O. Hahn 氏ノ發見セルトリウムノ第一次變質物質ニシテ 更ニラヂオトリウム Radiothorium, トリウム・エツキス Thorium X トリウム・ユマナチオン Thorium-Emanation, トリウム A. B. C₁.

C₂, D 等ニ逐次變質ス 其半減期ハ五年ナレ共逐次變質スルニヨリ 猶ホ多少有効年限ヲ延長シ得ベシ 市賣ノメソトリウムハ約25%ノ放射能ヲ有スルラヂウムヲ夾雜シ 15-20年間使用ニ堪ヘ得 其ノ透過力ハ遙ニラヂウムニ及バザレ共破壊作用ヲ主眼トスル場合ニ用キテ可ナリ コレ本品ガ比較的 α 及 β 軟線ニ富メルヲ以テナリ

エマナチオン Emanation.

ラヂウムトリウム アクチニウムガ變質ノ際生ズルモノニシテ 其半減期ハラヂウムノ3日ヲ最長トシトリウムニテハ53秒 アクチニウムニテハ3秒ニ過ギズ 何レモ α 線ヲ放射シ 内科的ニ内服 注射 吸入シ或ハ浴治法ニ用キテ 神經痛 關節炎 糖尿病 脂肪過多症ニ功アリトス 温泉中ニハ多少常ニ之ヲ含有スルモノナリ

ラヂウム絆創膏 Radiumpflaster ラヂオゲン・シユラツム Radiogenschlamm 其他ラヂウムノ名稱ヲ附シテ販賣セル製劑ハラヂウムノ痕跡ヲ含有スル礦泉ノ泥土 鉛礦 土石ヨリ成ルモノニシテ 神經痛 レウマチスニ局所ニ貼用シ或ハ浴槽ニ混ジテ用キ多少ノ功アリ

XXX. 免疫療法

免疫 = 自動免疫法ト他働免疫法トアリ

自動免疫療法

原則 菌體又ハ其毒素ヲ人體ニ輸入シテ 免疫體ヲ 産出セシメ 以テ組織内細菌ノ撲滅ヲ企圖スルモノナリ 總テ 免疫原ヲ注入スル時ハ 既存セル受納體ハ 免疫原ト 結合シテ 消費セラル、ガ故ニ 注射後 1-2 日間ハ 免疫體 ノ分量減少シテ所謂陰性期ヲ作り 後漸次増量シ 7-10 日ニシテ 最高免疫値ニ達シ 漸次亦一程度マデ減少ス 故ニ 自動免疫療法ヲ行ハントセバ 常ニ此ノ原則ニ準據シ 前回注射後約 7-10 日ヲ經テ 最高免疫値ヲ有スル 陽性期ニ於テ次回ノ注射ヲ行ヒ 因テ生ズル陰性期ノタメニ 體内免疫體ノ甚シク減少スルコトヲ避クベシ 若シ注射間隔ヲ 1-2 日トセバ 陰性期ニ對シ更ニ陰性期ヲ重ネテ 免疫體ハ更ニ減少シ 却テ病原菌ノ感受性ヲ高メ 治療ノ効ヲ失フニ至ル

自動免疫療法上猶ホ 疾病ノ 狀況 體質 榮養 反應等ヲ 考慮セザルベカラズ

1. 疾病ノ狀況 初期ホド奏功確實ナリ 以テ病竈ノ進行ヲ防止シ 治癒ヲ促進シ得 疾病一程度マデ進行セルモノ及ビ其末期ニテハ効果充分ナラズ 故ニ自動免疫ヲ行ハントセバ出來得ルダケ早期ヲ撰ムベシ

2. 體質 胸腺淋巴性體質ハ自動免疫法ヲ試ムモ抗體ノ發生多クハ不充分ニシテ治療的效果ニ乏シキノミナラズ 時トシテ全然効ヲ奏セザルコトアリ 此種體質者ハ往々アナフィラキシー様症狀ヲ呈スルコトアリ 免疫原注射後ノ局所及全身反應ハ 疾病ノ狀況ニヨルコト多キモ亦體質ニヨリ左右セラル 故ニ初メヨリ大量ヲ注射スルコトナク 初量ヲ少クシテ其ノ反應狀態ヲ檢シ 次デ漸進的ニ所望ノ量ヲ注射スルヲ安全ナリトス

3. 榮養 ハ免疫體ノ發生上最モ重要ナル關係ヲ有シ 衰弱 貧血 高齢 有熱者等ニシテ一般組織ノ活力衰退セル場合ハ 尤トモ免疫原ヲ送ルモ 之ニ相當スル免疫體ヲ發生スルコト困難ニシテ 徒ラニ患者ヲ苦マシムルニ過ギズ 同様ニ注射後過勞 睡眠不足等ニテ 身體ヲ衰弱セシムル原因ヲ作ル時ハ 免疫體ノ發生從テ 不完全ナルモノトス 故ニ注射後數日間即チ免疫體ノ最モ發生セラルベキ期間ハ 出來ルダケ 心身ノ安靜 榮養亢進ヲ圖リ 以テ所望ノ治療的效果ヲ擧グルコトニ努メザルベカラズ

又タ 飲酒ハ免疫體ノ發生ヲ阻害シ 甚シキハ全ク其ノ成
生ヲ見ザルモノナリ 故ニ 酒客ハ本療法中其酒量ヲ平素
ノ $\frac{1}{10}$ 量 止ムヲ得ザレバ $\frac{1}{5}$ 量ニ減ズベシ

4. 反應 局所反應 全身反應 及病竈反應ヲ區別ス 局
所反應ハ 注射部位ニ起ル 反應ニシテ 皮内注射最モ反應
強ク 皮下 筋肉注射逐次之ニ亞グ 靜脈内注射ハ局所反
應ヲ缺クモ 強キ全身反應ヲ生ズ 局所反應ハ注射後 1-
2 日ニシテ起リ 反應ノ強弱ニヨリ 數日乃至十數日ヲ持
續シ後漸次消退ス

全身反應ハ皮内注射最モ弱ク 皮下 筋肉注射之ニ次ギ
反應強ク起ルモ 靜脈内注射ノ強烈ナルニ比スレバ 猶ホ
遙カニ微弱ナリ 靜脈内注射ニヨリテハ 惡寒 戰慄 高熱
關節痛 困憊等ノ症ヲ呈シ 稀ニアナフィラキシー様症狀
ニ陥ルコトアリ 斯クノ如ク強烈ナル全身反應ヲ伴フト
雖 免疫體ノ發生ハ此ノ場合毎常確實ニシテ 體格榮養佳
良ナルモノニテハ能ク 1 回乃至數回ノ靜脈内注射ニヨリ
テ十數回ノ皮下及筋肉内注射ニ匹敵スベキ免疫力ヲ獲得
ス然レ共多數ノ患者ハ之ヲ嫌忌スルガ故ニ 寧ロ 全身症
狀ノ輕微ナル皮下及筋肉内注射ニテ満足ス

病竈反應ハ注射後病竈ニ生ズル反應ニシテ多少ノ炎症
ヲ發シ症狀一時不長トナルモノニシテ 2-3 日乃至十數日

ヲ經テ免疫力ノ亢進ト共ニ症狀輕快スルモノナリ

治療的ニハ 出來ルダケ 局所及全身反應ヲ避ケテ 病竈
反應ヲ適當ニ發揮シ得ルモノヲ可トス

種 類 及 方 法

眼科の療法トシテ用キラル、自働免疫療法次ノ如シ

1. 葡萄狀球菌ワクチン 葡萄狀球菌病即チ眼瞼濕疹
潰瘍性眼瞼 絲炎 麥粒腫 癰 膿瘍 皮下蜂窩織炎 眼窩蜂
窩織炎 小兒ノ 頭部及顔面濕疹等ニ 適用ス 市賣ノ多價
葡萄狀球菌ワクチンヲ 使用シ得ルモ 効力顯著ナルハ 自
家ワクチンナリ 即チ 病竈ヨリ 葡萄狀球菌ヲ採取シ 培
養分離シテ菌液ヲ作り 60°Cニ 1 時間加熱シ 更ニ該菌
液ノ一部ヲ寒天斜面ニ塗布シ 37°Cノ 孵槽ニ 24 時間培
養シテ其ノ死滅ヲ確メタル後 0.5% 石炭酸水ヲ以テ作レ
ル生理食鹽水ニテ稀釋スルナリ

注射部位ハナルベク病竈ニ近ク行ヒテ全身免疫ト共ニ
局所免疫ヲ發生セシムルヲ可トスルモ 顔面殊ニ 眼部附
近ニハ 之ヲ行ヒ 難キガ故ニ 肩胛間部 胸部 上膊等ニ皮
下又ハ 筋肉内注射スベシ 筋肉内注射ヲ行フ時ニハ 刺
入セル注射針ノ 先端ガ 小血管内ニ 存在セザルコトヲ確
ムベシ 數日ノ 間隔ヲ置キテ漸次其ノ量ヲ増シツ、數回
反復ス

1. 葡萄狀球菌ニヨル自働免疫力ハ其持續長カラズ 注射ニヨリ一旦病竈ハ治癒スルモ 1-2 箇月ニシテ免疫力ヲ減ジ再發スルコトアリ 故ニ慢性ノ葡萄狀球菌病ニハ 1-2 箇月ノ間隔ヲ置キテ クールヲ反復セザルベカラズ
2. 葡萄狀球菌ワクチンハ製造後約半歳ヲ經レバ著シク効力ヲ減ズ 1 箇年ヲ經タルモノハ用ヲ爲サズ
3. ヒストピンハ葡萄狀菌ノ毒素ヲ配合セル塗布藥ニシテ局所ニ塗布シテ局所免疫ヲ賦與セントスルモノナリ 疾病ノ初期及治癒期ニハ多少効アルモ極期ニハ効力顯著ナラズ

2. 連鎖狀球菌ワクチン・丹毒治療液 連鎖狀球菌病即連鎖狀球菌ニ因ル義膜性結膜炎及眼部丹毒ニ對シテ用ウ自家ワクチン卓効アルモ 急ヲ要スル時ハ市賣ノモノヲ使用スベシ 葡萄狀球菌 ワクチンノ如ク ナルベク病竈ニ近ク 加之丹毒ノ進行線ニ接シテ 病竈ヲ圍繞スル 如ク少量宛 2-3 箇所ニ分注シ 全身免疫ト共ニ 局所免疫ヲモ賦與スルヲヨシトス 病竈反應及ビ全身反應殊ニ發熱ノ狀況ヲ觀察シツ、數日ノ間隔ニテ反復増量的ニ注射スベシ

1. 調製後半年以上ヲ經過シタルモノハ効力著シク減弱ス
2. 丹毒ニハ自働免疫療法ノ外ニ連鎖狀球菌血清アリ
3. 淋菌ワクチン 淋菌ワクチンノ眼科ノ價値ハ顯著ナラズ 何トナンバ之ヲ注射スルモ角膜潰瘍ノ進行ヲ毫モ

停止シ得ザルガタメナリ コレ角膜ハ血管ヲ缺クヲ以テ抗體ヲ此部ニ輸入スルコト不十分ニシテ其ノ量殆ド痕跡ニ過ギザル 程度ニ止マリ 到底病機ヲ一轉スルヲ得ザルガタメナリ 然レ共血管ニ富メル眼瞼及ビ結膜ノ症狀ハ之ニヨリテ症狀ヲ輕快シ 浮腫ヲ去リ 充血ヲ減小セシムルコトハ確實ニシテ 之ニ因テ一般所置ヲ容易ニシ 藥物的治効ヲ發揮セシメ得ルモノトス 加之他眼病ホ侵サレザルモノニハ 多少豫防的効果ヲ擧ゲ得ルガ故ニ 場合ニヨリ試ムヲヨシトス 奏効ハ自家ワクチンノ顯著ナルニ如カズ 即結膜分泌物ヲ血液寒天又ハ血清斜面ニ塗布シ 24-48 時間 37°C ノ孵槽ニ納メ 0.5% 石炭酸水ニテ稀釋セル生理食鹽水ニテ菌液ヲ作り 50°C 1 時間滅菌シ更ニ菌ノ死滅ヲ確メタル後皮下注射ス 市賣淋菌ワクチンヲ用キントセバ ナルベク新鮮ナルモノヲ撰ムベシ

4. ツベルクリン 結核菌ワクチン 結核ノ自働免疫療法ハコッホ氏以來多數ノ學者ニヨリ 多種多様ノ研究ヲ經タレ共 猶ホ未ダ完全ナル域ニ達セズ 而シテ當面セル眼症狀ガ内因性ニセヨ 若クハ外因性ニセヨ 兎ニ角結核ナリト 診定スルタメニハ 單ニ視診上ノミニテハ困難ヲ感ズル 場合少カラザルモノニシテ 此ノ際免疫ノ原理ニ基キテ豫メ 診斷ヲ確立スル必要アリ 次ニ現今此ノ目

的ニ用キラル、方法ノ一般ヲ記載シ 次ニ治療法ニ及ブ
ベシ

1. ビルクエー氏皮膚反應 上膊ヲ酒精ニテ清拭シ 種痘針ニテ眞皮ニ達スル程度ノ表在性十字切創ヲ加ヘ 舊ツベルクリン液ヲ此部ニ塗布ス 切創ハ4個所ニ加ヘ 舊ツベルクリン原液 $1/10$ 液 $1/100$ 液ノ外ニ 對照トシテ生理食鹽水 (或ハ全ク之ヲ塗布セズ) ヲ塗布ス 種痘針ノ代リニ種痘圓鋸ヲ用ユルモ可ナリ 創ハ強ク出血スベカラズ 又各創傷ノ程度ハ何レモ同ジ程度トシテ對比試驗ニ誤ナカラシムベシ 1-2日以内ニ 5-20 ミリメートルノ赤暈ガ創部ニ現ハル、モノハ 結核反應陽性ト認ムト雖 本法ハ 活動性及非活動性結核ノ何レニモ反應シ 20 歳以上ノ者ニハ殆ド常ニ 陽性成績ヲ示スガ故ニ 若年者ニアラザル 限り診斷的價値ニ乏シ 非活動性結核ハ接種後多クハ 24 時以後遅ク發症スルモノナリ
2. 結膜反應或ハ眼反應 Wolf-Eisner 及ビ Calmttte 氏ノ考案ニ成リ 舊ツベルクリンヲ點眼シ 結膜充血ノ發スルヤ 否ヤニヨリ 診斷ヲ求ムル方法ナレ共 眼結核殊ニ眼球前部ノ結核ニハ局所反應ノ爲メニ症狀ヲ不長ナラシムル惧アルヲ以テ 眼科的ニハ推賞スベキ方法ニアラス
3. ツベルクリン軟膏反應 Moro 氏ノ方法ニシテ 舊ツベルクリン 10.0 無水ラノリン 10.0 ノ膏劑ヲ作り 胸・腹部皮膚ニ大豆大ノ膏劑ヲ $1/2$ -1 分間 約5センチメートル直徑ノ部分ニ亘リ擦入ス 特ニ繃帶ヲ加フル必要ナシ 塗擦面ニ 2-10-100 個以上ノ赤キ結節ヲ生ズ 2-10 個ハ弱反應 100 個以上ハ強反應 其中間ニ位スルモノハ中等度ノ反應トス 體温上騰ヲ

伴ハズ

4. 動物試驗 病竈ヨリ無菌的ニ病的組織ノ小部分ヲ切除シ 家兎角膜ヲ穿刺シテ 其ノ前房内ニ該組織ヲ錐子ニテ挿入ス 挿入後 1-7 日間ハ反應トシテ結膜浮腫 充血 前房潤濁 虹彩炎ヲ來スモ 後漸次ニ消退シテ常態ニ復シ 更ニ 3-4 週後ニ至リテ 再ビ虹彩ニ炎症ヲ來シ 之ヲ精見スルニ虹彩ニ結核ヲ認ムベシ 病的組織ガ若シ液狀ノモノナラバ 稍太キ注射針ヲブラワッツ氏注射器ニ裝ヒテ組織液ヲ家兎前房ニ注入スベシ 本法ハ 比較的確實ナル 診斷法ニ屬スルモ 定型的結核ヲ家兎虹彩ニ發スルマデニ 長キ時日ヲ要シ 治療的時期ヲ逸スル嫌アルヲ遺憾トス
5. 皮内注射 舊ツベルクリンヲ上膊表皮下ニ注射スルモノニシテビルクエー氏反應ヨリモ遙カニ鋭敏ナルモ 活動性及非活動性結核ノ何レニモ反應スルコトビルクエー氏反應ニ同ジ 其ノ法 舊ツベルクリンヲ纖細ナル注射針ニテ其 $1/1000 \cdot 000$ 又ハ $1/100 \cdot 000$ 或ハ $1/10 \cdot 000$ ミリグラムヲ皮内ニ注射スルモノニシテ 局所ノ皮膚ハ黃白色ニ變ズ 針先若シ皮下組織ニ達セバ 黃白色トナルコトナシ 成績陽性ナラバ 2-5 日ヲ經テ注射部ハ發赤腫脹スベシ
6. 舊ツベルクリン試驗的注射 2-3 日前ヨリ 2 時間毎ニ (或ハ 3 時間毎ニ) 體温ヲ測定シテ $37^{\circ}8$ 以上ノ發熱アラバ 注射ヲ見合ハセ ソレ以下ノ場合ハ體温動搖ノ狀況ヲ豫メ精査シ置クヲ要ス 次ニ朝舊ツベルクリン 1 ミリグラムヲ肩胛間部ノ筋肉内ニ注射ス 小兒 虛弱者ニハ注射量ヲ猶ホ適宜減少スベシ 注射後ハ注射前ノ如ク依然 2 時間或ハ 3 時間毎ニ體温測定ヲ持續シテ觀察スルニ注射後 5-10 時間ヲ經 稀

ニ猶ホ後レテ 15-30 時間ニシテ反應現ハルベシ 即チ全身反應トシテ體温 0.5 度以上昇リ 全身倦怠 頭痛ヲ伴ヒ且ツ病竈反應ヲ呈ス 病竈反應ハ虹彩ノ結核ナラバ毛様充血増加シ 虹彩ノ炎症増進シ プレチビタート 前房溜濁 稀ニ前房蓄血等ヲ來スベシ 體温上昇セザルカ 或ハ警令上昇スルモ 0.5 度以下ニ過ギズシテ 病竈反應モ亦從テ著明ナラザレバ 3 日後ニ再ビ初回量ト同一ノ分量ヲ注射ス 通常第 2 回ノ反應ハ第 1 回ノ時ヨリモ強ク現ハルモノトス 斯クノ如キ所見ヲ得バ結核ト診斷シテ可ナリ 若シ第 2 回注射モ 陰性ニ終ラバ ソレヨリ 3 日ヲ經テ更ニ第 3 回トシテ 2 ミリグラムヲ注射シ 猶ホ成績陰性ナラバ又タ 3 日ヲ經テ第 4 回 3 ミリグラムヲ注射シ ソレニテモ 成績學ガラザレバ 第 5 回 3 ミリグラムヲ注射シ 愈々反應ナケレバ結核ヲ否定ス

本法ハ活動性結核ノ診斷法トシテ確實ヲ期シ得ルモノトス 其ノ禁忌スベキハ 37.08 以上ノ發熱アル場合ノ外ニ 心臟病 腎臟疾患 癲癩 糖尿病 高度ノ動脈硬化症 高度ノ肺結核 粟粉結核ノ疑アルモノ等トス

以上ノ如キ方法ニヨリ結核ノ診斷ヲ確立セバ之レガ免疫療法トシテ次ノ如キ方法ヲ講ズベシ 而シテ其ノ何レヲ適用ストモ 常ニ全身反應(頭痛 發熱 全身倦怠等)及病竈反應(發炎ノ状態ニシテ疼痛 發赤 浮腫 滲出物増進等)ヲ顧慮シテ 過度ノ反應ノタメニ全身ヲ衰弱セシメ病竈ヲ増悪セシメザルコトニ注意スルコト必要ナリ 全身衰弱スレバ輸入セラレタル免疫原ノ量ニ相當スル抗體ヲ

産出スル能力ヲ缺キ 病竈ノ反應強ケレバ 爲メニ症状ヲ一時甚シク 不良ナラシム 殊ニ 虹彩及毛様體ノ結核 網膜及脈絡膜ノ結核ニシテ視力ト關係深キ部分ニ占居スル結核性病竈ニ對シテハ反應ノ爲メ生ズル炎症ヲ可及的輕カラシメテ依テ生ズル視障ヲ輕減スルコトニ留意セザルベカラズ ソレガタメニハ免疫原ノ量ヲ少量宛漸進的ニ長期ニ亘リ輸入スルヲヨシトス

1. 不注意ナル治療ニヨリ強キ病竈反應ノタメニ結核菌ヲ血行中ニ送リ一擧シテ粟粒結核ヲ發スルコトアリ
2. 個人的體質ニヨリ此ノ反應状態ハ甚ダ區々ナリ 注意シツ、反應ヲ避ケテ行フベシ

舊ツベルクリンニヨル療法

(イ)ツベルクリン軟膏 1-50% 舊ツベルクリン軟膏ヲ用ウル方法ニシテ 初メ 1% ヨリシ 全身及病竈反應ヲ顧慮シツ、漸次ニ其ノ%ヲ高ム 軟膏ノ處方次ノ如シ

舊ツベルクリン	1.0
テレピン油	20.0
無水ラノリン	80.0

本軟膏ヲ初メ 大豆大 漸次増量シテ 拇指頭大ニ至ルマデ上膊ノ皮膚ニ 5-10 分間充分ニ擦入シ 輕キ乾燥綿帶ヲ加フ 1 週 1 回トシ 反應ヲ顧慮シツ、病竈ノ消炎ヲ俟テ擦入ヲ反復ス

(ロ)ポンドルフ氏皮内接種法 上膊ヲ酒精 ベンチン等ニテ清拭シ 亂切刀又ハ圓刃刀ニテ 出血セザル程度ノ多數ノ淺在性切創ヲ作ル 切創ハ互ニ平行シ其間隔ハ約1ミリメートルトシ 創ノ範圍ヲ約5センチメートル直径ノ圓トナル如クスベシ 次ニ舊ツベルクリン液1滴ヲ切創面ニ滴下シ 消毒セル眼科用硝子棒ニテ丁寧ニ之ヲ切創面ニ塗り其ノ乾燥ヲ待テ輕ク乾燥綿帶ヲ加フ 翌日創部ヲ檢スルニ ツベルクリン過敏性患者ハ創部發赤シ次ニ切創部ニ水泡ヲ形成シ 爾後創面全般ニ亘ル廣汎性水泡ヲ形成シ終ニ潰瘍ヲ作ルニ至ルコトアリ 或ハカクノ如ク強烈ナラズシテ單ニ局部ノ發赤ニ止マルコトアリ 全身反應トシテ時トシテ發熱ヲ伴ヒ 病竈ニモ強弱種々ナル反應ヲ呈ス 第2回接種ハ局部ノ消炎(多クハ1週乃至10日以内潰瘍形成セルモノニテハ時トシテ3-4週或ハ猶ホ以上ノ日子ヲ要ス)セル後 前法ヲ反復シ 接種部位ノ反應全ク起ラザルニ至リテ止ムベシ

1. 本法ハビルクエー氏反應ヲモ同時ニ兼ナルガ故ニ其反應状態ニヨリテ診斷的根據ヲモ得ベシ
2. 滴下スベキ舊ツベルクリンハ原液ヲ用ウルヲ通則トスルモ 患者ノ體質 疾病ノ狀況ヲ見テ 豫メ接種反應ノ強烈ナルベキコトヲ想ハバ $1/10$, $1/100$ 稀釋液ヲ用キテ 接種部位ノ甚シキ反應ヲ避ケ 漸次ニ液ヲ濃厚ニシテ終ニ原液ニ移ルヲ可トス

無蛋白ツベルクリン皮下注射

2-3日間體温ヲ3時間毎ニ測定シテ患者ノ平常體温ヲ確メタル後 無蛋白ツベルクリン $1/10$ ミリグラムヲ肩胛間部又ハ上膊ノ皮下ニ注射シ前記體温測定ヲ繼續ス 若シ體温上昇セザルカ 若クハ0.5度以下ノ上昇ニ止マラバ1週後 $2/10$ ミリグラムヲ注射ス 斯クノ如クニシテ毎週1回 $1/10$ ミリグラム宛ヲ増量シ 永ク持續注射ス 最終注射量ハ一定シ難キモ 管沼氏ハ注射總量2デシグラムニ達セバ暫ク療法ヲ中止シテ經過ヲ觀察スベシトイフ 注射中0.5度以上ノ發熱 全身倦怠等アラバ次回ノ注射ハ増量セズシテ 前回量ニ止ムルカ 若シ反應ニシテ比較的強カラバ前回量ヨリモ猶ホ $1/10$ 量ヲ減ジテ注射スルモノトス

場合ニヨリ2-3個月ヲ經テクールヲ反復スベシ

結核菌ワクチン(志賀)

注射開始前ノ注意ハ無蛋白ツベルクリン注射時ニ同ジ本劑ハI-VI號液ヨリ成リ 初メI號ヨリシ漸進的ニ増量シテVI號液ニ達スルモノトス 余ハ之ヲ次ノ如ク行ヘリ

I(號液) 0.1 0.3 0.5(cc)

II " " " " " "

III	”	”	”	
IV	”	”	”	
V	”	”	”	
VI	”	”	”	0.7

各注射間隔ハ7-14日トシ 全身及病竈反應ヲ顧慮シテ増量シ 若シ反應強ク起ラバ 前同量若シクハ 前々同量ヲ繰リ返シ注射スルコト無蛋白ツベルクリン注射時ノ注意ニ同ジ 終量ハ VI 號液 0.5 乃至 0.7 トシテ一旦休療シ 經過ヲ觀察ス小兒ハ年齢ニ應ジ用量ヲ加減スベシ

1. 皮内ニ注射スル時ハ 硬結ヲ生ジ 又タ餘リ皮下淺ク注射スル時ハ膿瘍ヲ作ルコトアリ 寧ロ深ク筋層ニ達スル程度ニ注射スルヲヨシトス
2. クールヲ反復スル場合ハ 2-3 個月ヲ經テ行フベシ 此ノ際ノ最終量ハ 前クールノ終量ヨリモ多クス 例ヘバ前クールノ終量 VI 號液 0.7 ナラバ 第2回クールノ終量ハ VI 號液 0.8-1.0 トスルガ如シ

他働免疫療法

馬 牛 羊等ニ自働免疫法ヲ行ヒテ抗毒性又ハ抗菌性免疫ヲ賦與シタルモノノ血液ヨリ血清ヲ採リ 之ヲ人體ニ注入シテ直ニ免疫性ヲ與フル方法ニシテ血清療法トシテ治療並ニ豫防ノ目的ニ行フ 血清療法ハ原則トシテ總テ疾病ノ初期ニ適用シ ナルベク 1 回ニ多量ヲ用ウルモノトス 既ニ毒素ガ組織ト結合シ 細菌盛ニ繁殖セル後

ニ行ヒテハ 其効顯著ナラザルカ 或ハ全ク無効ナリ

1. 免疫血清ノミナラズ 一般ニ動物血清ヲ人體ニ輸入スル時ハ 異種蛋白ナルガタメ血清病ヲ發ス 血清病ハ注射後8-12日ノ潜伏期ヲ經テ發熱 蕁麻疹 淋巴腺腫脹 關節炎 蛋白尿等ヲ來スモノニシテ人ニヨリ輕重アルモ 概シテ重篤ナラズシテ 2-3 日ニテ治癒ス 又タ第1回注射後約10日ヲ經過シテ第2回注射ヲ行フ時ハ 直チニ急劇ナル過敏症ヲ惹起シ 往々虚脱死ニ陥ルコトアリテ之ヲ即時反應トイフ 即時反應ハ第1回注射後半年乃至4年ヲ經ルモ猶ホ之ヲ見ルト雖 概シテ40日以後ナラバ輕微ナリ 即時反應ヲ避クルニハ第2回ノ注射ヲ行フニ先チ豫メ 0.5-1.0 cc ノ血清ヲ注射シテ過敏状態ヲ見 何等變化ナクバ3-4時間ヲ經テ全量ヲ注射スベシ
2. 過敏症ハ血清ノ場合ニ最モ顯著ナレ共 細菌 毒素其他各種ノ蛋白體ニヨリテモ經驗セラル
3. 過敏症ヲ豫防スルニハ注射ノ日ヨリ 2-3 日間 クロールカルシウム 1.0 1日3回分服セシムルヲヨシトス

1. **デフテリー血清** 結膜及眼瞼皮膚ノデフテリーニ用ウ 用量ハ局所及全身症状ヲ顧慮シテ其ノ輕キモノニハ 1500-2000 免疫單位 重症ニハ 3000 免疫單位ヲ1回量トシテ注射ス 注射部位ハ大腿ノ外側 又ハ下腹部皮下ヲ撰ム 注射後其部ヲ按摩スベカラズ 經過ヲ觀察シ狀況ニ應ジテ前量ヲ1週以内ニ反復注射スベシ

1. 注射後12-24時間ニシテ體温降下シ結膜ノ義膜ハ脆軟トナリ 分割線ヲ生ジ 圓邊ヨリ漸次剥脱シ3-5日

ニシテ消失スルヲ常トス コレヨリ日ヲ經ルモ猶ホ
經過佳良ナラザレバ 第2回注射ヲ行フベシ

2. 眼部デフテリーハ多クハ鼻咽腔ノ デフテリーヲ伴
フ 其ノ方面ノ検査ヲ行フヲ要ス

3. 豫防ノ目的ニ注射スルニハ 200-500 免疫單位ヲ皮下
注射ス 約3週間有効ナリ

2. 破傷風血清 外傷ニテ創部ガ土砂 塵埃等ニテ汚染
セルモノニハ 豫防ノ目的ニ本血清ヲ注射スルコトアリ
通常 20 免疫單位ヲ皮下ニ注射シテ確實ニ奏功ス 既ニ
發病セルモノニハ 100-200 單位ヲ 1日 1-2回 反復スルモ
奏功ニ常確カナルコトヲ得ザルモノトス

3. 連鎖狀球菌血清 激シキ義膜性結膜炎ニシテ本菌ヲ
證明セバ試ムルヲ可トス 初量 20 cc 1-2日ヲ經テ更ニ
10 cc ヲ大腿外側ノ皮下ニ注射ス 但シ角膜潰瘍ニハ功
奏セズ (淋菌ワクチン参照)

4. 肺炎菌血清 肺炎菌ニヨル義膜性及急性結膜炎ニハ
奏功スルモ 匱行性角膜潰瘍ニハ効ナシ コレ角膜組織
ニ抗体ノ進入量甚ダ僅微ナルガタメ 充分抗菌性能力ヲ
發揮シ得ザルニ因ル

XXXI. 屈折異常ノ矯正

屈折異常ヲ矯正スルニハ 先ヅ裸眼視力ヲ測ル

1. 視力ヲ測ルニハ 試視力表ヲ室内ノ明ルキ壁上ニ 概
ネ眼ノ高サニ掲ゲ之ヲ5メートルノ距離ヨリ 兩眼
交互ニ見サセ 其ノ見得ル最小ナル視標ノ號數ヲ以
テ其眼ノ視力トス

視力表ニ當タル光線ハ日光ヲ以テスルトキハ 天候
ノ晴陰ニヨリ其照度ヲ異ニスルヲ以テコノ弊害ヲ除
クタメ人工光線ヲ以テ視力表ヲ照輝セシムルロート
氏照輝装置 草間氏照輝装置アリ コレ等ノ装置ハ
光力一定セルヲ以テ天候ノ影響 晝夜ノ別ヲ設ケザ
ルガ故ニ視力測定上甚ダ有利ナリ

2. 視力表ニハ國際試視力表 石原式日本試視力表 其他
數氏ノ試視力表アリ 何レモ 0.1ヨリ 2.0ニ至ル視
標ヲ有ス

③ 3. 視標 0.1ヲモ見得ザルモノハ 標視 0.1ヲ目標トシ
テ漸次患者ヲ之ニ接近セシメ 其ノ始メテ見得タル
距離ヲ測ル 而シテ視力ハ概ネ測定距離ニ正比例ス
ルヲ以テ 今 5メートルニテ見得ベキ 0.1ノ視標ヲ
3メートルニテ見得タリトセバ 其人ノ視力ハ 0.1
ノ $\frac{3}{5}$ 即 0.06ナリ 表記スレバ下ノ如シ

メートル	視力
5	0.1
4.5	0.09
4	0.08
3.5	0.07

3	0.06
2.5	0.05
2	0.04
1.5	0.03
1	0.02
0.5	0.01

視標 0.1 ヲ用ウル代リニ指數ヲ以テ検査スル方法ハ指ノ大小 長短ニヨリ成績一様ナラザルガ故ニ前法ニ比シテ成績不確實ナリ

健常眼ノ視力ハ 1.2-1.5 トス 而シテ近視眼ハ常ニ視力不長ニシテ遠視眼ハ理論的ニハ健常視力ヲ現ハスベキ筈ナルモ調節機ノ過勞ニ基ク結果屢々視力不長ナルコトアリ 亂視眼ハ一定ノ方向ニ向テハ視瞻明カナレ共之ト反對ノ方向ニハ朦朧ナリ 故ニ試視力表中同列ノ視標ニテモ見得ルモノト見得ザルモノトアリ 斯クノ如キ者ハ亂視表ヲ見サスレバ亂視ノ存在ヲ確メ得、

故ニ視力ヲ測リテ 1.2-1.5 ヲ見得トモソハ正視眼トスルヲ得ズ 遠視モ含マルレバナリ 又タ視力ガ少クモ 1.2 ヲ得ザルモノハ近視カ亂視カ若クハ遠視アルベシ

屈折機ノ検査ヲ行フニハ 自覺的検査法ト 他覺的検査法トアリ

自覺的検査法トハ 5 メートルノ距離ヨリ視力表及亂視表ニ向テ矯正レンズヲ装用セシメテ其屈折異常ノ度ヲ定

ムル方法ニシテ 他覺的検査法トハ 屈折検査用器械ヲ以テ屈折異常ノ度ヲ定ムルモノナリ 吾人ハ通常此ノ兩者ヲ併用シテ眼鏡ノ度ヲ定ム

1. 初メヨリ自覺的検査法ニノミ據リテ眼鏡ヲ定ムルコトハ其ノ屈折異常ノ種類及程度ガ分明ナラザルタメコレガ矯正ニハ多クノ勞力ヲ要ス 故ニ初メ他覺的検査法ニ據テ其眼ノ屈折状態ヲ検査シ之ニ據テ得タル成績ヲ根據トシテ他覺的検査法ニ移ルヲ簡便トス
2. 他覺的検査法トシテ行ハルモノニ 直像法 檢影法アリ 殊ニ檢影法ハ簡單ニシテ比較的正確ナル成績ヲ得ルヲ以テ廣ク適用セラル 角膜亂視ヲ精檢スルニハ ジャワル・シエツ 氏角膜計アリ 最近ツァイス及其他ノ會社ヨリ發賣セル屈折計 Refractometer アレ共何レモ高價ニシテ實地醫家ニ汎用セラレズ

近視眼ノ矯正

試視力表ノ前方 5 メートルノ距離ニ立チテ裸眼視力ヲ測リ 亂視ノ有無及其主徑線ノ方向ヲ亂視表ニ就テ確メ次ニ患者ヲ暗室ニ導キテ檢影法其他ノ他覺的検査法ヲ試ミ其ノ成績ニ據リテ再ビ試視力ニ向ヒ各眼ノ矯正ヲ行フ 即チ他覺的検査成績ニヨリ得タル近視ノ度ヨリ弱キ凹レンズヲ各眼ツヅニ装用シ 漸次凹レンズノ度ヲ高メテ其ノ初メテ 1.2-1.5 ノ視標ヲ見得タル時ノ凹レンズノ度ヲ以テ近視眼ノ度トス

1. 例	装用レンズ(D)	視力
	1.5	0.6
	2.0	1.0
	2.5	1.2
	3.0	1.2
	3.5	1.2
	4.0	1.0
	5.0	0.7

コノ例ニテ 1.5 Dノ凹レンズヨリ始メテ漸進的ニ其度ヲ高メ 2.5 Dニ至リテ初メテ 健常視力ニ達シ 猶ホ レンズノ度ヲ高メテ 3.5 Dニ達スルマデハ健常視力ヲ得トモ 1.2ヲ示セルモノ、中ニテ最モ低キ 2.5 Dヲ以テ其ノ眼ノ近視ノ度トナスナリ

2. 近視眼ハ其ノ遠點常ニ無限内ニアリ 例ヘバ 5 Dノ近視眼ナラバ遠點 20 センチメートルニ在リ 今コレニ 5 Dヨリモ弱キ凹レンズヨリ始メテ漸次其ノ度ヲ高ムレバ遠點ハ次第ニ眼ヨリ遠ザカリ 終ニ其眼ノ近視ノ度ト等シキ凹レンズヲ装用スルニ至リテ初メテ遠點無限大ニ達シ 正視眼ニ於ケルト通光状態等シクナル コレ全矯正セラレタル近視眼ノ度ナリ

今コノ全矯正セラレタル近視眼ニ漸進的ニ一層強キ凹レンズヲ装用セシムルモ患者ハ猶ホヨク健常視力ヲ示スベシ カク猶ホ健常視力ヲ現ハス理由ハ患者ガ調節スルタメニシテ 近視眼ノ調節力ハ正視眼ノソレト等シキガ故ニ 若年者ホド全矯正眼鏡ヨリモ遙カニ強キ眼鏡ヲ装用シテ猶ホヨク 1.2-1.5ノ視力ヲ示スベシ コレ少青年者ガ實際有スル近視眼ノ度ヨリモ強キ凹レンズヲ装ヒ得ル理ニシテ 亦粗雑ナル自覺的検査法ニノミニ據リテ實際有スル近視ノ

度ヨリモ強キ眼鏡ヲ處方スル誤アル原因ナリ 但シ年齢 50 歳以上ニ達シ調節力減退セルモノニテハ斯クノ如キ誤謬ニ陥ルコトナシ

近視眼ノ矯正ハ全矯正スルヲ以テ原則トス 通常弱度ノ近視眼ニテハ故障ナク全矯正ヲ行ヒ得ト雖 強度ノ近視眼ヲ全矯正スル時ハ調節及輻輳ニ急劇ナル變化ヲ與ヘ爲メニ眼精疲労ヲ起シテ長時ノ眼鏡装用ニ堪ヘザルコトアリ 殊ニ少青年期ニ過ギテ初メテ眼鏡ヲ装用スルモノニ於テ然リトス 此ノ場合ニハ眼精疲労ヲ起サマル程度ノ弱度ノ眼鏡ヲ與ヘテ眼ヲ慣ラシ數月ヲ經テ眼鏡ノ度ヲ高メ斯クノ如クニシテ 終ニ全矯正若シクハ殆ド之ニ近キモノトナスベシ

① 強キ近視眼ニテハ前記方法ニヨリテ弱度ノ凹レンズヨリ漸進的ニ眼鏡ノ度ヲ高ムトモ 眼精疲労ヲ防ギ得ザルコトアリ コノ場合ニハ遠用ニハ全矯正ノ眼鏡ヲ與ヘ近用ニハ全矯正ノ度ヨリ約 3 Dヲ減ジタルモノヲ與ヘ讀書距離ニ其眼ノ遠點ヲ近ケ以テ眼精疲労ヲ除クコトヲ得 例ヘバ 10 Dノ近視眼アリトスルニ 遠用ニハ全矯正シテ 10 Dノ眼鏡ヲ與ヘ 讀書用ニハ 3 Dヲ減ジテ 7 Dノ近視眼鏡ヲ與フレバ 患者ハ猶ホ 3 Dノ近視ヲ存スルヲ以テ 概ネ讀書距離ニ遠點ヲ有シ 調節機ノ過勞ヲ

防ギ眼精疲勞ノ煩ナキヲ得ベシ

1. 18-20 D ノ近視眼ハ水晶體ヲ摘出シ正視眼ト同ジ屈折状態トナスコトヲ得 然レ共水晶體缺乏セバ調節機能ヲ失フガ故ニ 近業ニハ 其距離ニ相當スル凸レンズヲ裝用セザルベカラズ
2. 近視眼手術ニヨリ往々網膜剝離ヲ生ズ 然レ共水晶體摘出ヲ要スルガ如キ高度ノ近視ニテハ 假令手術ヲ行ハズトモ網膜剝離ヲ來シ易キモノナルガ故ニ 網膜剝離ノ原因ガ 手術ニ因ルモノトノミ 斷定スルコト能ハズ

不同視眼即左右屈折異常ノ差ガ 2D 以上ノ時ハ 眼鏡裝用ニ堪ヘザル場合多シ コレ レンズノ 中心外ヨリ見ルトキ レンズノ プリズマ様作用ガ眼球ノ運動ニ伴ヒテ起リ 爲メニ 筋性眼精疲勞ヲ生ズルニ因ル (石原教授) 故ニ 近視ノ 眼鏡ノ 度ガ左右 2D 以内ノモノハ 全矯正シテ 差支ナキモ 2D 以上ノモノニテハ 左右何レカ視力好キ方ノ眼ヲ全矯正シ 他眼ハ全矯正セル方ノ眼ノ度ト等シクスルカ 若シクハコレヨリモ 2D 以内ノ差アル レンズヲ與ヘ 以テ眼精疲勞ノ發生ヲ防グベシ

1. 左右眼鏡ノ度 2D 以上ノ時生ズル眼精疲勞ハ レンズノプリズマ様作用ニ基クモノナルガ故ニ 遠用眼鏡ノ場合即チ眼球ノ運動甚シキ場合ニ殊ニ 障碍トナル 故ニ 遠用眼鏡ヲ處方スルニ際シテハ特ニ 此ノ注意ヲ必要トス
2. 之ニ反シ 近用眼鏡ヲ裝用スル場合 即チ眼球ノ運動

甚ダシカラザル場合ハ 比較的レンズノ中央ヨリ見ルガ故ニ レンズノ プリズマ様作用少ク 從テ眼精疲勞ヲ起スコト少キカ又ハ全ク之ヲ發セズ 故ニ 近用眼鏡ニ對シテハ 左右眼鏡ノ度ヲ 2D 以上ノ差アルモノトスルモ 患者多クハ之ニ堪ニ 殊ニ一點ヲ注視シテ精密ナル仕事ヲナスモノノ類 (彫刻 刺繍等)ニテ然リトス (石原教授)

3. 左右眼鏡ノ度 2D 以上ノ差アルモノノ 近用眼鏡ヲ處方スルニハ 左右ヲ別々ニ矯正シテ 近點ヲ同一ニスルカ 又ハ一方ノ眼ハ近用ニ矯正シ 他方ノ眼ハ遠用ニ矯正スルモ可ナリ 概シテ精密ナル細カキ仕事ヲ營ム者ニハ 前者ヲ適當トシ 又タ 日常ノ讀書或ハ机上用ニハ 後者ノ方具合ヨシ (石原教授)

右ノ如クニシテ 左右眼鏡ノ度ヲ定メナバ 其ノレンズヲ掛梓ニ排ケ 瞳孔距離ヲ定メテ患者ニ裝用セシメ 近用及遠用ノ試験ヲ行ヒテ眼鏡ノ適否ヲ確ムベシ 近用試験ニハ讀書セシメ 遠用試験ニハ室内又ハ戶外ヲ歩マシム 斯クノ如クニシテ 毫モ異狀ヲ認メザレバ初メテ眼鏡ヲ處方ス

近視眼矯正上ノ其他ノ注意

1. 小學校又ハ中學校程度ノ年齢ノ者ニテ 故意ニ眼鏡ヲ裝用セントスルモノアリ 而シテ 此ノ年齢ニテハ 調節力大ナルヲ以テ 能ク數デオプトリーノ凹レンズヲ裝用シテ猶ホヨク健常視力ヲ示スモノナルガ故ニ 誤テ近視眼鏡ヲ與フルコトアリ 他覺的検査ヲ行ヒテ屈折異常

ヲ認メザレバ 平面鏡又ハ凸凹相殺ノ2枚ノ レンズヲ装
用セシメテ視力ヲ検査スベシ

Hess 氏ハ此種ノ所謂近視ガ 學校近視 Schulmyopie
ト稱スルモノ、中ニ點カラズ存在スルコトヲ注意セ
リ

2. 若年者ノ輕度ノ遠視眼ニシテ 視力減退セルモノニ
輕度ノ凹レンズヲ 裝用セシムル時ハ 裝用時却テ視力ヲ
増スコトアリ コレ調節機ニ一過性衝動ヲ與ヘテ 衰弱
セル調節機能ガ一時興奮セラル、タメナリ コレヲ誤テ
近視眼トシテ 近視眼鏡ヲ與フル時ハ 暫クシテ 患者ハ眼
鏡裝用ニヨリテ 一層眼精疲勞ヲ起スベシ コレ既ニ存
スル遠視ノ爲メニ 調節機ノ過勞ヲ招キ居ルモノガ 近視
眼鏡ノ 裝用ニヨリテ 一層調節機ニ過度ノ負擔ヲ與フル
ガ爲メナリ 而シテ此種若年者ニ於ケル輕度ノ遠視ハ
大部分潜伏セルヲ以テ他覺的検査ニテ僅ニ其ノ痕跡ヲ認
メ得ルニ過ギザルカ 或ハ全ク之ヲ證明シ得ザルノミナ
ラズ 時トシテ 近視性ノ成績ヲ示スモノナルヲ以テ疑ハ
シキ時ハ試視力表ニ對シテ先ヅ 0.25-0.5 D ノ凸レンズ
ヲ裝用セシメテ視力ヲ檢シ輕度ノ遠視ノ有無ヲ確カシメ
全ク其ノ存在ヲ否定シ得タル後 近視ノ検査ニ移ルヲ確
實トス

3. 近視眼ニシテ同時ニ亂視ヲ伴フモノ、矯正法ニ就テ
ハ亂視ノ矯正参照

4. 近視眼モ老視眼ニナリ得 コレ近視眼ハ遠點ノ近接
スルニ因ルモノニシテ 老視眼ハ近點ノ遠隔スルニ因リ
二者其ノ發生ノ因ヲ異ニスレバナリ 然レ共近視眼ノ度
4D 以上ノ強キモノニテハ 遠點25センチメートル以内
ニアルガ故ニ譬令老年ニ達シテ 近點遠隔ストモ 老視ニ
煩ハサル、コトナシ

4D 以上ノ近視眼ニテモ近視眼鏡ヲ裝用スレバ老視ニ
煩ハサル、コト勿論ナリ

近視眼ニ於ケル老視ノ眼鏡處方ニ就テハ老視眼鏡ノ處
方参照

④ 5. 近視眼ニシテ其度約 5D 以上ノモノハ 眼底殊ニ視
神經乳頭ト 黃班部トニ亘ル附近ニ變化ヲ來シ(萎縮班
強キ豹紋狀眼底等) 視力ヲ損ズ コノ種ノ近視眼ニ好長
ナル視力ヲ得難キハ勿論ナリ コーヌスノ存否ハ視力ト
何等ノ交渉ナキモ コーヌスガ乳頭ノ下方又ハ下側方ニ
在ルモノニテハ 譬令黃班部附近ニ何等ノ異狀ヲ認メザ
ルモノニテモ 好長ナル視力ヲ得難キ場合多シ 此種ノ
近視眼ハ同時ニ亂視ヲ伴フモノニシテ 恐ラク近視眼ニ
因ル眼底ノ彎曲異常ニ基クモノナラン(今西氏)

6. 過度=近業=精勵シ 若クハ ヒステリー 虹彩毛様體疾患 外傷等ニテ 從來 正視眼 ナリシモノガ 屈折性近視トナルコトアリ 此種ノ 近視眼ニハ 一時近視眼鏡ヲ 與フレバー程度マデ視力ヲ増スモ 主病ノ 輕快ト共ニ近視消失シ視力ヲ恢復スルモノトス

7. 近視眼ハ輻輳ノ度ガ常ニ調節ノ度ヨリモ強キモノナリ 故ニ近視ノ度ガ強クナルニ從テ 調節ト輻輳トノ差強クナリ タメニ輻輳不全ヲ來シテ 潜伏性外斜視トナリ 終ニハ外斜視眼トナル 此ノ種ノ輻輳不全症ハプリズムヲ併用シテ除クコトヲ得 プリズムヲ併用スル代リニ 眼鏡ノ左右レンズノ中心ヲ少シク外方ニ偏位セシメテ プリズムノ作用ヲ行ハシメ得 レンズガ其偏位ニヨリテ 生ズル光線屈折ノ度次表ノ如シ (Worth-Maddox)

	2 mm	4 mm	5 mm	6 mm
2. D	14'	24'	35'	41'
4. D	27'	55'	1°10'	1°22'
6. D	41'	1°22'	1°43'	2° 4'
8. D	55'	1°50'	2°19'	2°45'

例ヘバ左右 6 D ノ近視眼アルトキ 左右レンズノ中心ヲ各々5ミリメートル宛外方ニ偏位セシムレバ 1°43' X

2 = 3°26' ノ外視斜ヲ矯正スルニ足リ 約 7° ノプリズムヲ裝用セルモノト其價値ヲ等クスルガ如シ

近視眼ノ豫防

近視ハ 文化生活ニ伴フ 體質ノ變化ト 近業トガ主ナル原因トセラル 從テ文化生活ノ人ガ 之ヲ豫防スルニハ ナルベク 此ノ意ヲ體シテ 文化ニ逆行スル如ク 體質ヲ慣ラシ 且ツ 近業ノ精勵ヲ制限スルニ如カズ コレガタメニハ努メテ戶外運動ヲ行ヒ 各種競技 旅行 登山 狩獵ノ如キ類ヲ推稱ス 近業ハ ナルベク 25 センチメートル以上ノ距離ニテ行ヒ 採光ヲ充分ニシ 過小ナル物體 不鮮明ナル印刷物等ヲ避ケベシ

近視眼ノ發生年齡ハ 學齡頃ヨリシ 成熟時期ニ迅速ニ進行シ 約 25 歳ヲ經レバ停止スルモノナルガ故ニ 少年者ニ於テハ殊ニ前記ノ注意ヲ必要トス

近視眼ハ遺傳的關係アルガ故ニ 此種ノモノハ一層早く注意シテ豫防ニ努ムルヲ要ス

既ニ近視ヲ發セバ ナルベク全矯正眼鏡ヲ裝ヒ 毎年少クモ 1 回宛検査シテ 常ニ全矯正ヲ保タシムベシ 屋外運動ノ獎勵 近業ノ距離及時間ノ制限ヲ守リ 以テ出來得ルダケ其ノ進行ヲ阻止スルコトニ勉ムベシ

Handwritten notes: 33, 25, 1043' x 2 = 2086', 86, 60

遠視眼ノ矯正

視力 1.2-1.5 アルモノニハ正視眼ノ外ニ猶ホ遠視眼アリ 故ニ正視眼ト遠視眼トヲ鑑別スル必要アリ 之ヲ行フニハ被檢者ノ眼前ニ 0.25-0.5 D ノ凸レンズヲ裝用セシムベシ 檢眼若シ正視ナラバ凸レンズニヨリテ視力明瞭トナルモ遠視アラバ少クトモ視力ヲ減ゼザルカ或ハ却テ視瞻鮮明トナル

遠視眼ハ遠點無限大以外ニアリテ視力ニハ前記ノ如ク支障ナルベキ筈ナルモ調節機ノ過勞ニ基キ眼精疲労ト共ニ視力ヲ減ズルコトアリ 故ニ遠視ハ必ズシモ健常視力ヲ有スルモノニアラズ

遠視眼ハ無限大ヲ見ルニモ調節機ノ働ヲ要求スルガ故ニ望遠見近共ニ常ニ調節機ヲ働カシ殊ニ近業ヲ持續スル場合ハ正視眼ヨリモ一層調節機ノ努力ヲ要求ス 故ニ近業精勵ニヨリテ往々調節性眼精疲労ヲ來シ頭痛眩暈眼痛ヲ催スモノナリ 此ノ眼精疲労ハ若年者ニシテ調節力ノ充分ナルモノニハ發スルコト少キモ神經過敏ナルモノ及ビ壯年期以上ノ年齢ノ者ニテハ近業ニ際シテ眼精疲労ヲ來ス 斯クノ如キ眼精疲労ノ状態ハ其狀神經衰弱症ヨリスル神經性眼精疲労ト相似タルモ遠視眼ニヨル眼精疲労ハ適當セル矯正眼鏡ノ裝用ニヨリテ即時ニ頭痛眼痛眩暈等ノ症狀ヲ除キ得ルモノニシテ以テ兩者ヲ區別シ得カク遠視性眼精疲労ト神經性

眼精疲労トハ其發生原因ヲ異ニスルモノニシテ兩者ノ間ニ相互的關係ナク遠視眼ガ神經衰弱ノ原因トナルモノニアラズ然レ共神經衰弱アルモノガ遠視性眼精疲労ヲ生ゼバ其ノ煩ハシキ症狀ハ亦以テ神經衰弱症ヲ助長セシムル原因トハナリ得ベシ

遠視眼ハ先天的ニ存在スルモノニシテ近視眼ノ如ク中途ヨリ發生スルコトナク又タ進行性ナシ 幼少年期ニ認メザリシ輕キ遠視ガ青年期ニ至リテ認知スルハ遠視ガ此ノ時期ニ至リテ發生セルニアラズシテ性來存在セシ遠視ガ幼少年期ニハ調節力ノ旺盛ナルタメ能ク其ノ存スル遠視ノ度ヲ越ヘ調節シ毫モ視瞻ニ支障ナキモ年齢ノ進ムニ從ヒ調節力ノ減退スルト共ニ遠視ノ度ヲ越エテ自由ニ調節ヲ營ミ得難ク終ニ眼精疲労ヲ來シテ初メテ遠視ノ存在ヲ認知スルニヨル

角膜翳外傷糖尿病網膜及脈絡膜ノ炎症等ニヨリテ後天的ニ屈折性遠視ヲ生ズルコトアリ又正視眼ノ者ニテモ年齢 45 歳ヲ過グレバ老人性遠視ヲ發ス老人性遠視ハ恐ラク水晶體ノ硬化ト關係ス

他覺的檢査ニテハ遠視眼ハアトロピンヲ點眼シテ調節機ヲ全ク麻痺セシメザル限リ現在遠視ヲ定量スルニ止マルモノトス加之被檢者ヲシテ能ク調節ヲ廢セシムルコトノ困難ナルタメ現在遠視スラ其ノ一部ノミヲ窺ヒ得ルニ過ギザル場合少カラズ

日常ノ診療ニ際シ吾人ハ通常他覺的ニ現在遠視ノ測定ヲ以テ満足セザルベカラザル事情ニアリ アトロピンヲ點眼シ調節機ヲ麻痺セシメテ全遠視ヲ測定スルガ如キハ特別ノ場合ニ屬シ患者ノ多クハアトロピン點眼後 7-10 日ニ亘ル視力障礙ヲ嫌ヒテ之レガ實施ヲ肯セズ

自覺的及他覺的検査ニテ遠視眼ノ存在ヲ知ラバ之レガ矯正ヲ行フ 遠視眼ノ矯正法ニ二様アリ

其一ハ他覺的検査ニテ得タル遠視ノ度ヨリモ強キ凸レンズヲ與ヘテ試視力表ニ向ハシメ漸次其度ヲ減ジテ初メテ健常視力ニ達シタル時ノ凸レンズノ度ヲ以テ其ノ眼ノ遠視ノ度トス

例	装用凸レンズ(D)	視力
	4.0	0.3
	3.5	0.6
	3.0	0.8
	2.5	0.9
	2.0	1.0
	1.75	1.5
	1.5	1.5
	1.0	1.5
	0.5	1.5

コノ例ニテ 4.0 D ヨリ漸次其度ヲ減ジテ 1.75 D ニ至リ初メテ最大視力ニ達シタリトスレバ 1.5 D ヲ以テ其眼ノ遠視ノ度トス

其二ハ他覺的検査ニテ得タル遠視ノ度ヨリモ弱キ凸

レンズヲ装ヒ漸次其ノ度ヲ増シテ健常視力ヲ損セザル限リノ強キ凸レンズヲ以テ其ノ眼ノ遠視ノ度トス

例	装用凸レンズ(D)	視力
	0.5	1.5
	0.75	1.5
	1.0	1.5
	1.5	1.5
	1.75	1.2
	2.0	1.0
	2.5	0.8

コノ例ニ於テ 1.5 D マデハ視力 1.5 ヲ得ルモソレヨリ強キ凸レンズニテハ視力ヲ減ズトセバ 1.5 D ヲ以テ其眼ノ遠視ノ度トス

斯クノ如クニシテ各眼ノ遠視ノ度ヲ得ナバ掛棒ニ其ノレンズヲ装ヒ瞳孔距離ヲ定メテ遠用及近用ノ試験ヲ行フコト近視眼ニ於ケルト同ジ然レ共遠視眼ノ故障ハ主トシテ近用ニ際シ發スルモノナルガ故ニ近用試験ヲ長クシテナルベク細カキ文字ヲ讀マシメ眼精疲労ノ生ズルヤ否ヤヲ確ムベシ若シ試験中多少タリトモ眼精疲労ヲ發スルガ如キ傾向アラバ速ニ再ビ試視力表ニ向ハシメテ矯正ヲ再行スベシ而シテ斯ク眼精疲労ノ起ルハ遠視ノ矯正猶ホ不充分ナルガタメニ起ルモノナルガ故ニ今迄ノレンズヨリモ少シク強キ凸レンズニ代ヘ再ビ近用試験ヲ行フベシ

1. 長時間ノ近用試験ニヨリテ 最初得タル遠視ノ度ヨリモ猶強キ遠視ノ度ヲ得ルコト屢々ナリ
2. 若年者ノ遠視ハ 現在遠視ノ度少ク 潜伏遠視ノ度多キヲ以テ 初メヨリ少シク強キ凸レンズヲ装ヒテ 長時間近用試験ヲ行フ時ハ 比較的正確ナル遠視ノ度ヲ得
3. 40 歳以上ノ者ニテハ 潜伏遠視ハ殆ド零ニシテ 現在遠視ノミトナリ 直チニ全遠視ノ度ヲ現ハスガ故ニ 近用試験ハ若年者ニ於ケルガ如ク長時間ヲ費ス必要ナシ

遠視眼矯正上ノ其他ノ注意

1. 遠視眼ノ矯正ハ 若年者ホド注意ヲ要ス コレ年齢幼弱ナルホド遠視ノ潜伏スル量多キガ故ニ 近業精勵ノ程度 身體ノ健康状態等ニヨリテ 多少遠視ノ潜伏量ニ相違ヲ生ズ 例ヘバ學校ノ試験ニ際シテ 過度ノ讀書ニ從事シ 調節機ノ衰弱ヲ招キタル時ノ遠視ノ度ハ 試験終リテ近業ノ精勵ヲ止メタル時ヨリモ稍強キ成績ヲ示スガ如キ 又タ病後全身衰弱シテ 調節機ノ衰弱ヲ招キタル時裝用セル遠視眼鏡ガ 身體ノ恢復ト共ニ 其ノ要ヲ見ザルニ至ルガ如キハ其類ナリ カク遠視ノ出沒スルハ年齢若キモノホド著シキモノニシテ 40 歳以上ノ人ニハ見ルコトナシ

2. 遠視眼ヲ有スル 若年者ガ 近視眼鏡ニヨリテ一時的ニ視力ヲ恢復スルコトアリ 近視眼ト誤ルコトナキヲ要ス

(近視矯正上ノ注意参照)

3. 中等度以上ノ遠視眼ニテハ他覺的検査ニテ得タル遠視ノ度ヨリモ弱キ凸レンズニアラザレハ却テ視力ヲ損ズルコトアリ コノ場合ニハ 其ノ最大視力ヲ得ルニ要スル凸レンズヲ與ヘ 數月ヲ經テ更ニ矯正ヲ反復シ 漸次凸レンズノ度ヲ高ムベシ

4. 遠視眼ハ 調節ノ度ガ 輻輳ノ度ヨリモ常ニ強ク 遠視強ケレバ ソレニ從テ調節ト輻輳トノ差モ大トナリ 終ニ調節ニ伴フ輻輳ノ共働作用ノタメニ 潜伏性内斜視 次デ内斜視ヲ生ズ 潜伏性内斜視 又ハ内斜視ヲ除クタメニハ プリズムヲ併用スルヲ可トスルモ 眼鏡裝用ノ際左右レンズノ中心ヲ 内方ニ變位セシメテ プリズムニ代用セシメ得 其變位ノ程度ニ就テハ 近視眼鏡裝用上ノ注意ヲ参照スベシ

5. 兩眼遠視ノ度 2D 以上ノモノノ眼鏡ヲ處方スル上ノ注意ハ 近視眼矯正ノ同條下ヲ参照スベシ

6. 遠視眼ニ亂視ヲ兼ネタルモノノ眼鏡處方ハ 亂視眼ノ矯正参照

7. 遠視眼ハ正視眼ニ比シテ老視ヲ發スルコト早シ 其ノ眼鏡處方ニ就テハ 老視ノ眼鏡處方参照

亂視眼ノ矯正

試視力表ニ向テ視力ヲ檢シ 次ニ亂視表ニ向テ放射線ノ何レノ方向ガ最モ濃ク 何レノ方向ガ最モ淡キヤヲ問ヒ 自覺的ニ亂視ノ存否及其主徑線ノ方向ヲ定ム

次ニ暗室ニ患者ヲ伴ヒテ 他覺的檢査ヲ行ヒ 亂視ノ種類 程度 主徑線ノ方向ヲ定性的及定量的ニ測定ス 普通檢影法ヲ以テ 簡單ニ之ヲ測リ得 要スレバ ジャワル・シエツ 氏角膜計 屈折計等ヲ用ウ

是ニ於テ再ビ 患者ヲ試視力表ニ向ハシメ 上記自覺的檢査ノ成績ヲ根據トシ レンズヲ裝ヒテ 亂視ノ矯正ヲ行フ 矯正法ハ亂視ノ種類ニヨリテ多少異ナル

1. 單性近視性亂視又ハ單性遠視性亂視ニテ 一方ノ主徑線ノミニ屈折異常アルモノハ 放射線中最濃ク見ユル線ノ方向ガ亂視ノ主徑線ノ方向ナル故 凹又凸圓柱レンズノ軸ヲ之ト直角ノ方向(即チ最モ淡ク見ユル線ノ方向)ニ持チ行クベシ 矯正レンズハ他覺的檢査ニテ得タル成績ノ度ヲ根據トシテ亂視表ガ各方向トモ全ク平等ノ濃サトナルマデ圓柱レンズノ度ヲ加減スベシ 放射線ノ濃度各方向トモ一様トナリタル時ハ亂視ハ完全ニ矯正セラレタル證據ナル故 試視力表ニテ視力ヲ檢ス

レバ常ニ健常視力ヲ得ルモノトス

1. 例ヘバ亂視表ノ縦ノ方向ノ線ガ最モ濃ク 横ノ方向ノ線ガ最モ淡ク見ユルナラバ 圓柱レンズノ軸ヲ横ノ方向ニシテ裝用セシメ 圓柱レンズノ度ヲ換ヘテ 縱横共ニ線ガ等シキ濃サトナル如クスルナリ

2. 若年者ノ輕キ單性亂視ニテハ 亂視表ヲ見テ現ハル濃淡ノ方向ガ 上記ト全ク反對ノ成績ヲ示スコトアリ 或ハ亂視表ヲ見居ル中 濃淡ノ方向ガ交互變換スルコトアリ コレ被檢眼ガ調節ニヨリ 自ラ亂視ヲ矯正セントシテ 水晶體ノ彎曲ヲ變ジ生ズルタメニシテ 亂視ノ度強キカ 又ハ壯年期ヲ過ギタル者ニハ斯ノ如キコトヲ見ズ

2. 近視又ハ遠視ニ 亂視ヲ合併セルモノ(複性近視性亂視又ハ複性遠視性亂視)ニテハ 他覺的檢査ノ成績ヲ根據トシテ 先ツ試視力表ニ向ヒテ 近視又ハ遠視ヲ矯正シテ 球面レンズニヨル最大視力ヲ得シメ 次ニ亂視表ニ向テ放射線ノ濃淡ノ方向ヲ問フコト 1.ニ於ケルガ如クス 然ルトキハ 其最モ濃ク見ユル線ノ向キハ 比較的不完全ニ矯正セラレタル 主徑線ノ方向ニテ 最モ淡ク見ユル線ノ方向ハ比較的完全ニ矯正セラレタル 主徑線ノ向キナルガ故ニ 豫メ他覺的檢査ニテ得タル 兩主徑線上ノ屈折力ノ差ニ相當スル 凹又ハ凸圓柱レンズノ軸ヲ 最淡ク見ユル線ノ方向ト一致セシメ 凹又ハ凸球面レンズト共ニ亂視標ヲ見シメ 線ノ各方向共ニ平等ノ濃サニ至ルマデ圓

柱レンズヲ換ニベシ

カクシテ更ニ試視力表ヲ見シメ 凹又ハ凸レンズヲ少シク加減シテ健常視力ヲ得ルマデ矯正スベシ

1. 例ヘバ他覺的検査ニテ縦 3D 横 2D ノ複性近視性亂視眼ヲ證シナバ 先ヅ試視力表ニ向ヒ凹レンズノミヲ以テ最大視力ヲ得ルマデ矯正シテ 2D ノ凹レンズヲ得バ コノ球面レンズヲ裝用セルマニテ亂視表ヲ見シメ 其最モ濃ク見ユル縦ノ方向ト直角ヲナセル最モ淡キ横ノ方向ニ 1D ノ凹圆柱レンズノ軸ヲ持チ行キテ 亂視ヲ矯正シ 縦横ノ線ガ平等ニ濃ク見ユルマデ圆柱レンズヲ加減シ 再ビ試視力表ニ向ヒテ凹面レンズヲ加減シ 最大視力ヲ得ルマデ矯正ス
2. 若年者ノ輕キ複性遠視性亂視ニテハ放射線ノ濃淡ガ交互變換スルコトアルハ 單性亂視ニ於ケルト同ジ
3. 若年者ノ複性近視性亂視ハ 近視眼ニ於ケルガ如ク 誤リテ矯正ノ度ヲ強クスル傾アリ 注意スベシ
3. 混合性亂視眼 即チ遠視性亂視ト 近視性亂視ト互ニ直交シツ、混合セルモノニハ 二者ノ何レカ 最モ強キ方ノ亂視ヲ圆柱レンズニテ先ヅ矯正シ 次ニ弱キ方ノ亂視ヲ他ノ圆柱レンズニテ矯正スベシ

例ヘバ縦ノ方向ニ $-1D$ 横ノ方向ニ $+0.5D$ ノ亂視ヲ他覺的ニ證明セバ 先ヅ $1D$ ノ凹圆柱レンズニテ縦ノ方向ノ近視性亂視ヲ矯正シ 次ニ 0.5 ノ凸圆柱レンズニテ横ノ方向ノ遠視性亂視ヲ矯正スルナリ

凹凸圆柱レンズヲ 2 枚用ウル代リニ 凹凸圆柱レンズノ何レカヲ凹凸球面レンズノ何レカニテ代用シ得 而シテ其際併用スル圆柱レンズノ度ハ各主徑線上ノ亂視ノ度ヲ加ヘタル度ヲ以テス

例ヘバ縦ノ方向ニ $-1D$ 横ノ方向ニ $+0.5D$ ノ混合性亂視アリトスルニ コレニ $1D$ 凹面レンズヲ裝用セシムレバ 縦ノ方向ノ亂視ハ矯正セラル 然レ共コノタメ 横ノ方向ニハ $1D$ ノ屈折ヲ増ス 故ニ横ノ方向ノ亂視ヲ矯正スルタメニハ球面レンズニヨリテ増加セル $1.0D$ ヲ加ヘタル $1.5D$ ノ凸圆柱レンズヲ 其軸ヲ縦ニシテ裝ハシメザレバコノ方向ノ亂視ハ矯正セラレズ

以上ノ如クニシテ矯正終ラバ 掛棹ニレンズヲ裝用シ 瞳孔距離ヲ定メ 遠用及近用試験ヲ行ヒ 若シ支障アラバ 更ニ矯正ヲ反復シ 全ク故障ナキヲ 確メテ 後眼鏡ヲ處方スベシ

亂視眼矯正上ノ其他ノ注意

1. 遠視性亂視ハ單性亂視ニテモ 複性亂視ニテモ 共ニ眼精疲労ヲ生ジ易ク 殊ニ顛倒性亂視眼 即横ノ方向ニ屈折強キモノニ然リ 近視性亂視ニテハ 正規性亂視ナラバカナリ 其程度強クトモ 視力障礙ノミニテ 眼精疲労ヲ訴フルコト 稀ナレ共 顛倒性亂視眼ニテハ 著明ノ視力障礙ヲ起サマル 程度ノ輕キモノニテモ 眼精疲労ヲ發シ易

キモノナリ 斜亂視ニテモ 屈折力强キ方ノ 主徑線ガ 横ニ傾クホド 眼精疲労ヲ生ズル傾アリ 故ニ正規性近視性亂視ハ 視力障碍ヲ伴ハザル限リ 強テ之ヲ矯正スル必要ナキモ 遠視性亂視及ビ顛倒性亂視ハ 其程度輕クトモ之ヲ矯正シテ 眼精疲労ノ發生ヲ防グヲヨシトス

2. 亂視ハ多クハ 其度ヲ變ゼザレ共 往々出沒其度ヲ變ズルコトアリ 又タ主徑線ノ方向ニモ變化ヲ來スコトアリ 斯クノ如キハ 近業ニ精勵スル 若年者ニ屢々遭遇スルモノナリ

3. 亂視ノ主徑線ガ斜方向ニ 直交スルモノハ 偏眼ニテハ異狀ナケレ共 兩眼ニテ見ルトキハ 物體前方 又ハ後方ニ傾キテ見ユ 例ヘバ兩眼 45° ノ方向ニ $-1.0D$ ノ亂視アリトスルニ 一眼ニテ見レバ 異狀ナキモ 兩眼ニテ見レバ 物體後方ニ傾キテ見ヘ 又タ兩眼 135° ノ方向ニ $-0.5D$ ノ亂視アリトスレバ 兩眼ニテ望メバ 物體前方ニ傾キテ見ユルガ如シ 多クノ場合 1-2 個月乃至數月ニシテ 此ノ不快感ハ 漸次消失スルモ 亦全ク然ラザルモノアリ 或ハ初メヨリ之ヲ感覺セザルモノアリ 此ノ傾キヲ除クニハ 兩眼主徑線ノ方向ヲ同ジ向キニスレバ可ナリ 例ヘバ前例ニ於テ 兩眼ノ主徑線ヲ 90° 又ハ 180° ニシテ 互ニ平行セシムレバ 兩眼ニテ見テモ 物體ニ傾キヲ生ゼ

ズ 然レ共コノタメニ 視力ノ減ゼラルハ 免レズ

4. 左右亂視ノ度ニ 差アル時 偏眼ニテ見レバ 故障ナキモ 兩眼ニテハ 往々物體右又ハ左ニ傾キテ見ユ 要スレバ 傾キヲ生ゼザル程度ニ 左右亂視ノ度ヲ 近ヅカシムベシ

5. 二重亂視ヲ唱フルモノアリ 即チ角膜亂視ノ外ニ 水晶體亂視ノ混合セルモノトナスナリ 然レ共圓柱レンズノ軸ヲ如何ナル角度ニ 交叉セシメ 又タ如何ニ組合ハストモ 其ノ結果ハ 1 個ノアル球面レンズト 1 個ノアル圓柱レンズトヲ組合セタルト 同ジ結果ヲ生ズルモノニシテ 角膜及水晶體ニ 主徑線ノ斜ニ 交叉スル 亂視アリトモ 眼全體ノ屈折トシテハ 1 個ノ亂視眼ヲ呈スルノミ (今西氏)

6. 亂視眼ハ 遠視眼又ハ近視眼ト異リ 望遠ニモ見近ニモ共ニ 視力障碍アルモノナリ 故ニ眼鏡ハ 遠用ニモ 近用ニモ 之ヲ矯正セルモノヲ用ウルヲ要ス

7. 不正亂視ハ 角膜表面ノ凹凸不平ニ 因ルモノモ 最多ク 眼鏡ニヨリテ矯正シ得ズ

8. 白内障手術 虹彩切除 其他角膜 水晶體ノ手術ニヨリテ生ズル 亂視ハ 大部分矯正シ得ルモノナリ 網膜脈絡膜疾患(中心性網膜炎其他)ニヨル 亂視ハ 疾病ノ輕快ト

共ニ消失スルモ コレ亦眼鏡ニヨリテ一程度マデ矯正シ得

老 視 眼

老視ハ吾人年齢ノ加ハルト共ニ水晶體ノ硬化ニ基ク調節力ノ減退ニヨリ發スルモノニシテ 屈折機異常ニアラズ 老視ハ近視眼ニテハ遅ク 遠視眼ニテハ早く起ル

若年者ホド水晶體ハ液狀ヲナシテ 弾力性ニ富ミ 調節力ハ從テ大ナリ 今年齡ト調節力トノ關係ヲ示セバ次ノ如シ(石原教授)

年齢(歳)	調節力(D)
10	12
20	8
30	7
40	4
50	1
60	0.5

老視眼ハ調節力減ジテ 近點漸次ニ眼ヨリ 遠ザカリ終ニ近點ガ近業距離外ニ出デ近所ノ物體ニ調節シ能ハザルタメ生ズル視力障礙ヲイフ 例ヘバ 30 センチメートルニテ讀書スル人アリトスルニ 文字ヲ明視スルタメニハ 3.3 Dノ調節ヲ營ムヲ要スベシ 然ルニ其人 45 歳ニ達シ若シ正視眼ナラバ 其人ノ調節力ハ 2.5 Dニシテ 40 センチメートルニ近點ヲ有ス 即チ其人ノ近點ハ讀書距離

30 センチメートル以外ニ在ルヲ以テ 文字ハ不鮮明ナルヲ免レズ 而シテコレヲ明視セシムルタメニハ少クトモ 3.3 - 2.5 = 0.8 Dノ凸レンズヲ裝用シ 調節力ノ不足ヲ補フコトヲ要ス

斯クノ如ク老視ハ其人ノ近業障礙ヲ起スニ於テ初メテ意義アルモノナレ共 近業ハ人ノ職業ニヨリテ 毎常必ズシモ一様ナラズ 例ヘバ大工ガ斧ヲ振フニ要スル距離ハ机上ニ讀書スルモノノ距離ヨリモ大ナルガ如シ 故ニ老視眼鏡ノ處方ニ當テハ 必ズ其人ノ職業及近業ノ種類ヲ問ヒ 其人ノ所要ノ距離ニ相當スル眼鏡ヲ與ヘザルベカラズ 例ヘバ前例ニ於テ大工ニ讀書距離ノ老視眼鏡ヲ與ヘナバ 却テ視瞻ヲ害シ眼鏡ノ用ヲ爲サザルガ如シ

一般ニ近用距離トハ讀書距離ヲ通稱ス 讀書距離ハ通常 30 センチメートル内外ナリ 故ニ年齢約 43 歳ヲ過グレバ 近點讀書距離ヲ遠カリテ近業障礙ヲ來ス

老視眼鏡ヲ處方スルニハ 豫メ其眼ノ屈折状態ヲ検査スベシ 即チ5メートルノ距離ヨリ試視力表ニ向ヒテ視力ヲ検査シ 更ニ暗室ニ導キテ他覺的検査ヲ行ヒ 若シ異常アラバ 再ビ試視力表ニ向ハセテ 遠視 近視又ハ亂視ヲ各眼ゴトニ矯正シテ其通光状態ヲ正視眼ト等シクス

次ニ以上ノ矯正レンズヲ 掛枠ニ裝用セシメテ 近用眼

鏡ヲ處方ス 即チ患者ノ職業及近業ノ種類ヲ問ヒテ 所要ノ近用距離ニ相當スル凸レンズヲ上記矯正レンズニ加フルナリ 近距離ノ視力ヲ検査スルタメニハ 石原氏近點検査表ヲ用ウベシ 本表ハ讀書距離ニテ見シムルモノニシテ 0.1 ヨリ 2.0 マデノ細字及ランドルト氏環ヲ備フ 若シ患者ノ矯正視力 1.2 アラバ 本表ヲ 30 センチメートルニ保タセ 凸レンズヲ加減シテ表中ノ 1.2 ガ明視シテ何等ノ苦楚ヲ訴ヘザル 如クスレバ 即チ 讀書距離ニ於ケル老視ノ度ヲ得ベシ 若シ患者ノ近業ガ讀書距離ヨリモ遠ケレバ 其所要距離ニ印刷物其他ノ目標ヲ置キ 其距離ニ相當スル凸レンズヲ求ムレバ可ナリ

1. 精密ナル 近業ニ從事スルモノハ 25-30 センチメートルノ距離ニ於テスルヲ普通トス 此ノ種ノモノニハ 前記 石原氏 近點検査表最モ適當ス 讀書距離ヨリモ遠キ距離ノ近業ニ從事スルモノハ 其業務多クハ精密ヲ要セザルモノナルガ故ニ 検査用視標ハ 検査者ノ眼ト比較シテ適宜ノ目標ヲ撰擇シ行フベシ
2. 求ムル老視ノ度ハ 患者ノ年齢ト 近業距離トヨリ計算シ得ルモ 便宜上諸家ノ老視表アリ 次ノ如シ 但シ 其年齢ハ實際ノ經年數ニシテ かぞへ年ニアラズ

ハイネ氏老視表(距離 30-40 cm)

年 齡	45	50	55	60	70	80
D(+)	0.75	1.5	2.25	3.0	4.0	5.0

カッツ氏老視表(讀書距離)

年 齡	40	45	50	55	60	65	70
D(+)	0.75	1.5	2.0	2.5	3.0	3.25	3.5

ホルツ氏老視表(讀書距離)

年 齡	40	45	50	55	60	65	70	75	80
D(+)	0.75	1.5	2.0	2.5	3.0	3.25	3.5	3.5	3.5

アダム氏老視表(距離 25 cm)

年 齡	45	50	55	60	65	70	75	80
D(+)	0.75	1.0	2.25	3.0	3.5	4.0	4.0	4.0

即本表ニヨリ患者ノ年齢ニ相當スル老視ノ度ヲ求メ 近業距離ヲ參酌シテ其度ヲ加減シ最モ適當セル老視ノ度ヲ求ムルナリ

3. 老視ノ度ハ同ジ年齢ニテモ人ニヨリテ相違アリ 石原教授ニ據レバ 一般ニ年齢ニ比シテ若ク見ユル人ハ 老視ノ度モ平均値ヨリ少ク 年齢ニ比シテ老ヒテ見ユル人ハ 老視ノ度平均値ヨリハ大ナリトイフ 故ニ前記老視表ハ唯 其概要ヲ知ルニ止マリ 實際ハ各人ニ就テ精査スルコトヲ必要トス

遠視眼ハ 其近點正視眼ヨリモ遠ク 從テ 老視ニ陥ルコトモ正視眼者ヨリモ早シ 遠視ノ者ノ老視眼鏡ヲ求ムルニハ先ヅ老視ヲ矯正シ 其ノ矯正レンズ度ニ 年齢及所要

距離=相當スル凸レンズヲ加フベシ

近視眼ハ其近點正視眼ヨリモ近ク從テ老視=陥ルコト正視眼ヨリモ遅シ而シテ4D以上ノ近視眼ニテハ其遠點25センチメートル以内ニアルヲ以テ終生老視ノ煩ヲ受クルコトナシ然レ共コレヨリモ輕キ近視眼ニテハ老視=煩ハサルヲ以テ此種ノモノノ老視眼鏡ノ處方ハ全矯正セル近視ノ度=其人ノ年齢及所要ノ近業距離=相當スル凸レンズノ度ヲ相殺シテ與フ

亂視眼モ遠視眼及近視眼ノ如ク豫メ亂視ヲ矯正シタル後其年齢及所要ノ近業距離=相當スル凸レンズヲ亂視ノ度=加ヘ處方ス

例ヘバ45歳ノ人-1.0 cyl 90°ノ亂視アリテ讀書距離=於ケル老視眼鏡ヲ求メ1D凸レンズヲ要ストスレバ亂視ノ度ト相殺シテ1Dノ凸圓柱レンズヲ軸180°トシテ處方スルガ如シ

以上ノ如クニシテ老視ノ度ヲ定メナバ掛棒ニレンズヲ裝ヒ瞳孔距離ヲ定メ所要ノ距離=就テ眼鏡ノ適否ヲ試ミ故障ノ有無ヲ確ムベシ

眼鏡ノ處方及撰擇

以上ノ如クニシテ適當セルレンズヲ得バ眼鏡ヲ處方ス眼鏡ヲ處方スル際行フベキコト次ノ如シ

1. 瞳孔距離ノ測定 瞳孔距離ハ遠用ト近用トニ分チ測定ス成人ノ其平均値ハ62ミリメートルナレ共人ヨリテ廣狹アリ又若年者ニテハ成人ヨリモ狹シ常ニ各人ニ就テ實測スルヲ要ス

瞳孔距離ヲ測ルニハ石原式萬能距離計草間式瞳孔距離計鹿兒島式瞳孔距離計井上式瞳孔距離計等ノ外ニホルストマン氏瞳孔距離計米國式瞳孔距離計其他種々アリ測り方ハ右眼ノ角膜右縁ト左眼ノ角膜右縁トヲ標準トスレバ容易ナルモ瞳孔ノ位置ハ人ニヨリテ必ズシモ角膜ノ中央ニ位セザルガ故ニ正確ニ測定スルニハ左右瞳孔ノ邊緣ヲ目標トスルヲヨシトス而シテ近用ニハ檢者ノ眼ヲ見サセ遠用ニハ窗外ノ遠キ物體ヲ見サシム望遠ト見近(讀書距離)トニテ瞳孔距離ハ4ミリメートルノ差アリ故ニ遠用ニハ見近ノ瞳孔距離=4ミリメートルヲ加ヘタルモノヲ處スベシツァイス氏眼距離計ハ器械ニ附セル一點ヲ注視セシメテ遠用及近用ノ瞳孔距離ヲ同時ニ測定シ得ルモノニシテ簡便ナリ

2. 眼鏡ト眼トノ距離 レンズヲ角膜頂點ヨリ約1.3センチメートルニ置ク時ハ眼ノ前燒點トレンズノ第二主要點ト一致シ光學的ニ支障ヲ生ゼズ然レ共斯クノ如クレンズト角膜頂點トノ距離ヲ精測スルコトハ煩ハ

シキガ故ニ實地醫家ニハ睫毛ガレンズニ觸レザル程度ニレンズヲ眼ニ近ヅクル如クスレバ可ナリ

完全ニ矯正セラレタル近視眼鏡ヲ裝用シテ物體ガ裸眼ヨリ小サク見ユルハ眼鏡ト眼球トノ距離ガ眼ノ前燒點ヨリモ前方ニ位スル爲ナリ更ニ眼鏡ヲ眼ニ近ヅケテ眼ノ前燒點ト一致セシムレバ小サク見ルコトナシ

3.眼鏡ガ眼トナス傾キ 遠用ニテハ10度近用ニテハ25度遠近兩用ニテハ15-20度トスコノ傾キハレンズノ面ガ眼軸ト垂直ヲナス面トノ間ニ生ズル傾斜ナリ

4.レンズト瞳孔トノ關係 レンズノ中心ハ瞳孔ノ中心ニ對シテ少シク下方ニ位スル如クスベシ即チ遠用ニテハ1-2ミリメートル近用ニテハ2-3ミリメートル下位ニアル如クス

5.兩レンズ間ノ傾キ 兩眼視線ノ輻輳スル關係上兩レンズ間ノ傾キハ互ニ約170度ノ角ヲナシテ内方ニ相交ル如クスベシ

粗雑ニ眼鏡ヲ裝用スル時ハ眼鏡ノ弦ノ彈力ニテト反射ニ外方ニ左右レンズガ傾斜スルコトアリセルロイド製眼鏡枠ニテハ體温ニテ自然ニ外ニ傾ク若シ特ニセルロイド製枠ヲ希望スルモノニハ金屬ヲ心トセルセルロイド枠ヲ用キサスベシ

6.特殊レンズ フランクリン氏レンズハ一ノ眼鏡ニ

テ遠近兩用ヲ兼ネシメタルモノニシテ遠用ヲ上ニ近用ヲ下ニシ2個ノ燒點ヲ有セシメタルモノナリ上下ノレンズノ間ハ直線又ハ曲線ヲナシテ界スマタ屈折ヲ異ニセル2枚ノレンズノ接合部ヲ熔融シテ上下ノ接ギ目ヲ目立タヌヨウニセルモノアリ其度稍強キモノハ色收差ヲ生ジ彩視症ヲ呈スル嫌アリメニスクスハレンズノ一面凸他面凹ナル貝殻狀ヲナセルモノニシテ凹凸何レカノ面ガ勝ルニヨリテ凹レンズ又ハ凸面レンズノ作用ヲナス度弱ケレバ用キ得ルモ度強キ時ハ重量加ハル缺點アリ此種ノモノニツアイス製ブクタルグラスアリ

7.眼鏡ノ枠 強固ニシテレンズヲ正シキ位置ニ保持セシムルモノヲ要ス此ノ點ニテ金屬製枠ヲ推稱スセルロイド製枠ハ温熱ニ逢ヒテ歪ミヲ生ズル嫌アリ

亂視眼ノ眼鏡枠ハ必ズ金屬ニテ確實ニレンズヲ保持シ亂視軸ノ方向ニ變化ヲ來サザル如クスベシ此種ノモノニセルロイド製枠ノ不可ナルコトハ前記ノ如シ又タレンズノ兩端ヲ金屬製ノ弦ノ一端ニテ摘ミタルモノハレンズ動キテ亂視軸ノ方向ニ變化ヲ來ス惧アリ圓形レンズハ亂視軸ノ變化ヲ來セル際レンズヲ廻轉シテ又タ用キ得ラル、便益アルコトアリ

第二編 藥物

I. 散瞳藥

硫酸アトロピン

Atropinum sulfuricum.

アトロピンハ アトロパ・ベラドンナ *Atropa Belladonna* ノ葉根果實等ニ存スル アルカロイドニシテ 我國ノ莨菪 *Scopolia japonica* 曼陀羅華 *Datura alba* モ同屬ナリ

作用 硫酸アトロピンハ 有効ナル 散瞳藥ニシテ 其 點眼ニヨリテ散瞳及調節機麻痺ヲ來ス 是等ノ作用ハ動 眼神輕ノ虹彩括約筋及毛様筋ニ終レル神經終末ヲ麻痺セ シムルニヨリ起ルモノナリ 散瞳作用ハ年齢ニヨリテ異 リ 弱年者ホド著明ニ且ツ早く現ハレ 老人ホド抵抗ス 0.5%液1滴ヲ點眼スレバ 平均約14分ニシテ散瞳始マ リ 36分ニシテ極度ニ達シ 25-30分ニシテ光線反應消 失シ 5-7日ニシテ常態ニ復ス 調節機麻痺ハ 0.5%液 1滴點眼後平均23分ニシテ始マリ 2時15分乃至 2 時30分ニシテ完全ニ麻痺シ 18時間ヲ持續シ 後漸次

機能ヲ恢復シ 2-5日ニシテ常態ニ歸ル

中毒症狀 中毒症狀ハ 人ニテハ 口腔咽喉ノ乾燥 喝嚔下困難 聲音嘶啞 散瞳 脈搏頻數 皮膚乾燥及灼熱 猩紅熱様紅疹 倦怠 歩行不確實 眩暈 精神發揚 不安 舞 踏病様運動 譫語 躁暴等ニシテ 重症ニテハ 神經中樞ノ 麻痺症狀ヲモ呈シテ 酩酊狀態 歩行困難 痴呆狀態 幻覺 譫妄 嗜眠 昏睡ニ死ス

解毒劑 ハ 成人ナラバ 鹽酸モルヒネ 0.01-0.03ヲ皮下 注射シ 小兒ニハ モルヒネヲ用キズシテ 1%鹽酸ピロカ ルピン液 $\frac{1}{4}$ - $\frac{1}{2}$ 筒ヲ皮下注射スベシ

アトロピンニ因ル眼障

1. 綠内障 *Atropin-glaucom.* 散瞳藥ハ一般ニ眼壓ヲ 亢進セシムルモノナルガ アトロピンニ於テ殊ニ著シ 年齢性ハ發生上無關係ニシテ 小兒モ亦能ク罹患ス ア トロピンノ濃度亦關係ナシ 綠内障ヲ經過セルモノ 又 ハ綠内障素因アルモノニハ使用スベカラズ

2. 結膜炎 *Atropin-Conjunktivitis.* アトロピンノ 持續點眼ニヨリテ發生スルモノニシテ 三種ヲ區別ス

イ、加答兒性結膜炎 緩急種々ナルモノアリ 輕キ 慢性炎症ヲ呈シテ充血 流淚 刺戟感ニ止マルモノヨリ 強キ發赤 羞明等ヲ伴フ急性加答兒性炎症ノ像ヲ呈ス

ロ、濾胞性結膜炎 殊ニ下眼瞼結膜移行皺襞ヨリ下眼瞼縁ニ及ビテ發スルモノニシテ 結膜一般ニ強ク發赤シ 帶黃不透明ノ濾胞密ニ發生シ 時トシテ恰モ肉芽狀ヲ呈シ 刺戟症狀アリ

3. 眼瞼炎 Atropin-blepharitis. 多クハ結膜炎ト合併シ 眼瞼浮腫シ 癢痒感ヲ伴ヒ 或ハ皮膚炎 濕疹ヲ惹起シ 結膜炎ノ症狀之ニ合併ス 時トシテ眼瞼丹毒ノ如キ症狀ヲ呈シテ 眼瞼腫張シ 結膜ノ浮腫 發赤 疼痛ヲ伴フコトアリ

是等諸症ハ アトロピン 點眼ノ持續ニヨリテ 症狀増悪シ 之ヲ休止スレバ輕快スルモノトス

本症狀ノ成因ニ就テハ全ク明ナラズ 恐ラク アトロピンニ對スル特異質ニ因ルベシ 然レ共多數患者ニ同時ニ發生セル場合ハアトロピンノ分解產物(殊ニ遊離硫酸)ノ刺戟作用 黴菌ニヨル汚染ヲモ疑フベシ アトロピン液ノ濃度ハ本症ノ發生ニ無關係ナリ アトロピンノ使用ヲ止メ スコポラミンヲ代用スベシ

硫酸アトロピンハ白色結晶性ノ粉末ニシテ 1分ノ水ニ溶ケ(100%) 中性反應ヲ呈ス 光ヲ遮リテ貯フベシ 極量 1回 0.001 1日 0.003

處方及其適用

點眼水 1. 硫酸アトロピン 0.05

蒸餾水 10.0

虹彩及毛様體ニ炎症アルモノニ散瞳ノ目的ニテ 1滴點眼シ 涙道ヨリ咽腔ニ流入スルヲ防グタメ 數分間綿花ニテ涙囊部ヲ指壓スベシ 0.5%アトロピン水 1滴ハ 略ボ 1回極量ノ 3分 1ニ相當ス 小兒ハ中毒シ易キガ故ニ 特ニ注意シ 要スレバ硝子棒端ニ アトロピン水ヲ漬ケ 結膜囊ニ塗布スベシ

虹彩毛様體炎等ノ病的組織ニテハ アトロピンノ作用 健康眼ノ如ク發揮セザルガ故ニ 反復點眼スベシ 此際特ニ中毒ヲ豫防スルコトヲ忘ルベカラズ

2. 硫酸アトロピン 0.1

鹽酸コカイン 0.2

蒸餾水 10.0

適用前ニ同ジキモ 1ニヨリテ 散瞳シ難キモノニヨシ 猶ホ アドレナリンヲ數回點眼スレバ 散瞳作用ヲ助長ス カクシテモ散瞳セザレバ 瀉血ヲ顳額部ニ試ミ(瀉血參照)且ツ強ク發汗セシメ 兼ネテ下劑ヲ投ズベシ(發汗參照)

3. 硫酸アトロピン 0.05

酸化青酸汞 0.001

クロールナトリウム 0.1

蒸餾水 10.0

煮沸滅菌 外傷 手術眼ニ用ウ

4. 硫酸アトロピン 0.05

	デオニン	0.2
	蒸餾水	10.0
	虹彩及毛様體炎ニテ疼痛アルモノニヨシ	
膏劑	硫酸アトロピン	0.1
	5. 米國製白色ワセリン	10.0
	適用1ノ如シ 點眼水ヨリモ効力長ク持續スルガ故ニ奏効確實ナリ	
	6. 硫酸アトロピン	0.1
	鹽酸コカイン	0.2
	米國製白色ワセリン	10.0
	適用5ノ如キモ散瞳作用猶ホ強シ	
	7. 硫酸アトロピン	0.1
	酸化青酸汞	0.001
	米國製白色ワセリン	10.0
	蒸氣滅菌シ外傷 手術眼ニ適用	
	8. 硫酸アトロピン	0.1
	デオニン	0.2-0.5
	米國製白色ワセリン	10.0
	適用4ノ如シ 効力長ク持續ス	

アトロピン軟膏ハ 10歳以下ノ小兒ニハ1%ノモノヲ1日1回トシ 2回マデヲ注意シツ、用キ得 5歳以下ノ小兒ニハ 0.5-1%ノモノヲ1日1回注意シテ行ヒ 皮膚發赤 咽喉乾燥等ノ中毒症狀起ラベ1%鹽酸ピロカルピン $\frac{1}{4}$ - $\frac{1}{2}$ 筒ヲ皮下注射スベシ

アローム水素酸スコボラミン

Scopolaminum hydrobromicum.

スコボラミンハ ヒヨス 曼陀羅華 莨菪中ニ存スルアルカロイドニシテ アトロピント概ネ同様ノ作用

ヲ有ス ヒヨスチン Hyoscin ヅボイジン Duboisin ハコレト同一物質ナリ

作用 アローム水素酸スコボラミンハ 無色稜柱狀ノ結晶又ハ結晶性粉末ニシテ 水及酒精ニ容易ニ溶解シテ弱酸性ノ反應ヲ呈ス 硫酸アトロピント概ネ類似ノ作用アルモ 中樞神經ニ對シテハ 初メヨリ麻痺作用ヲ呈シ 鎮靜 催眠劑トシテ用キラル 點眼ニヨリテ約8分ニシテ散瞳及調節機麻痺ヲ起シ 45分ニシテ極度ニ達シ 3-4日ヲ持續ス アトロピンヨリモ約10倍作用強ク 内壓ヲ高ムル力弱シ 點眼上ノ注意アトロピンニ同ジク 中毒症狀及其所置亦アトロピンニ準ス 極量1回 0.0005 1日 0.0015

處方及其適用

- 點眼水 1. アローム水素酸スコボラミン 0.05
蒸餾水 10.0
アトロピンニヨル眼障 (結膜炎 眼瞼炎等)ニ際シ代用
2. 硫酸アトロピンノ如ク 鹽酸コカイン デオニン 其他ノ藥劑ト伍用シ得 硫酸アトロピン参照
- 膏劑 3. アローム水素酸スコボラミン 0.05-0.1
米國製白色ワセリン 5.0
含水ラノリン 5.0
硫酸アトロピン適應症ニ代用

- 注射料**
- | | |
|-------------------------|--------|
| 4. プロム水素酸スコポラミン | 0.0003 |
| 鹽酸モルヒネ | 0.01 |
| 蒸留水 | 1.0 |
| 滅菌シ手術前 30 分乃至 1.5 時皮下注射 | |
| 5. プロム水素酸スコポラミン | 0.0003 |
| パントボン | 0.02 |
| 滅菌シ適用 4 = 同ジ | |

オイスコポール Euscopol 化學的純粹ノ プロム水素酸スコポラミンナリ 0.4% 液トシテ アトロピン眼障碍(結膜炎 眼瞼炎等) = 代用ス

フロム水素酸ホマトロピン

Homatropium hydrobromicum.

作用 白色結晶性ノ粉末ニシテ 容易ニ水ニ溶解ス アトロピンヨリモ効力早く現ハレ 短時間ニシテ消失ス 人ニ於ケル散瞳作用ハ 0.5% 液ヲ點眼シタル場合ハ 平均 19 分ニシテ散瞳ヲ始メ 30 分乃至 1 時 30 分ニテ其ノ頂點ニ達シ 18 時間乃至 2 日平均 24 時間ニテ常態ニ復歸ス 調節機麻痺ハ 散瞳症ト同時ニ始マリ 1 時 30 分乃至 2 時間ニテ 遠點近點相一致シ 約 24 時間ニテ常態ニ復ス スク アトロピンヨリモ作用弱キガ故ニ 強キ調節機痙攣ヲ緩解シ得ザレ共 診斷上 散瞳藥トシテ廣ク用キラル 綠内障 結膜炎等ノ眼障碍ヲ起スコト アトロ

ピンニ同ジ 極量 1 回 0.001 1 日 0.003

- 點眼水**
- | | |
|--------------------------|------|
| プロム水素酸ホマトロピン | 0.05 |
| 蒸留水 | 10.0 |
| 診斷用散瞳劑 點眼上ノ注意ハ硫酸アトロピンニ準ズ | |

鹽酸エフェドリン

Ephedrinum hydrochloricum.

麻黃 *Ephedra vulgaris* 中ノ アルカロイドニシテ 無色ノ結晶ナリ 水ニ溶解ス 其散瞳作用ハ アトロピント異リ 交感神經ヲ刺戟スルニアリ 10% 液ヲ點眼スレバ 40 分乃至 1 時間後ニ散瞳シ 5-20 時間持續ス ホマトロピンノ代用トシテ 診斷用ニ供セラル

點眼水 5% 溶液トシテ ホマトロピンニ代用シ 診斷用散瞳劑トス

ミドリ

Mydrin.

ブローム水素酸ホマトロピン 1 分 鹽酸エフェドリン 10 分トヲ混和セルモノ 無色ノ結晶ニシテ水ニ溶解ス

點眼水 5% 溶液トシテ ホマトロピンニ代用シ 診斷用散瞳劑トス

ミドリアチン

Mydriatin.

長井博士創製ノ人工的合成劑ニシテ エフェドリン

ニ類ス 白色ノ結晶ニシテ水ニ溶解ス 刺激性ナク
調節機ヲ麻痺セシメズ

點眼水 5-10% 溶液トシテ ホマトロピンニ代用シ
診断用散瞳劑トス

鹽酸オイフタルミン

Euphthalmium hydrochloricum.

アトロピン屬ノ人工的製劑ナリ 無色結晶性粉末ニ
シテ 水ニ溶解ス 作用アトロピンヨリモ速ニ經過
シ 點眼後 20-30 分ニシテ散瞳起リ 2-3 時間ヲ持
續シ 視力ニ著シキ障碍ヲ來スコトナシ

點眼水 1% 液トシテ ホマトロピンニ代用シ 診断
用ニ供ス

オイミドリン

Eumydrin "Bayer".

硝酸メチール・アトロピンニテ 作用弱ク 約 12 時
間ニテ散瞳作用消失ス

點眼水 1% 溶液トシテ ホマトロピンニ代用

II. 縮瞳薬

サリチール酸フィゾスチグミン
(サリチール酸エゼリン)

Physostigminum salicylicum.
(*Eserium salicylicum.*)

フィゾスチグマ・ヴェノーズム *Physostigma venosum*
ノ實カラバル豆中ニ存スルアルカロイドニシテ
有力ナル縮瞳薬ナリ

作用 エゼリンハ横紋筋及滑平筋ニ分布スル神經終
末装置ヲ直接興奮セシムルモノニシテ アトロピン點眼
ニヨリテ動眼神經末梢ノ麻痺シテ生ゼル散瞳症(瞳孔括
約筋麻痺)ハ エゼリンニヨリテ 該筋ヘノ神經終末装置
ガ刺激セラル、タメ 能ク縮瞳セシメ得ベシ 此ノ際ビ
ロカルピンヲ點眼スルモ縮瞳セザルハ ビロカルピンガ
動眼神經末梢ヲ刺激スルモノナルヲ以テ 既ニ麻痺セル
該神經ハ毫モ反應スル理ナキニ因ル 眼科的ニハ縮瞳
調節機痙攣 眼壓降減ヲ主ナル目的トス 縮瞳作用ハ瞳
孔括約筋ガ瞳孔開大筋ヨリモ 量ニ於テ優レルガ故ニ開
大筋ノ作用ニ打テ勝チ 縮瞳作用ヲ現ハシ得ルニヨルモ

ノニシテ人ニアリテハ其1%液1滴ヲ點眼スレバ數分後既ニ縮瞳ヲ始メ15分ニシテ極度ニ達シ72時間後ニ常態ニ復歸ス調節機痙攣ハ1%液1滴點眼後約5分ニシテ眼内緊張感ト共ニ現ハレ約20分後ニ最高ニ達シ10-15分間ヲ持續シ後徐々ニ緩解シテ1時30分乃至2時間ニシテ常態ニ歸ル眼壓降減ハ虹彩切除セルモノ無虹彩ニテモ起リ縮瞳ト無關係ナリコレ眼内血管ノ平滑筋ヲ刺戟シテ之ヲ收縮セシムルニ因ルベシ而シテ瞳孔縮小スレバフォンタナ氏腔開大スルガ故ニ點眼直後一過性眼壓亢進アルモ後能ク持續的眼壓降減ヲ來スモノトセララル(熊谷氏)

中毒症狀 全身的中毒症狀ハ諸般ノ興奮及痙攣症狀嘔吐下痢放尿墮胎次デ中樞性麻痺狀態ニ移リ死亡ス

點眼ニヨリテハ屢々數分ニシテ惡心嘔吐ヲ來シ猶ホ眼内緊張感眼輪匝筋搐搦頭痛(殊ニ點眼側ノ偏頭痛)ヲ來スコトアリ

解毒劑 是等ノ中毒症狀ニ對シテハ硫酸アトロピン0.001以內ヲ皮下注射スベシ

エゼリン點眼ニ因ル眼障礙

1. 眼筋平衡障礙 屢々潜伏性外斜視ヲ見ル 内直筋

ソノモノノ障礙ニ因ルニアラズシテ調節機痙攣ニヨリ内直筋ノ緊張ヲ要スルコト少キ爲メトセララル

2. 眼輪匝筋搐搦 眼内緊張感頭痛惡心嘔吐等ノ症狀ハ點眼後屢々數分ニシテ來ルコト前記ノ如シ

3. 結膜炎 アトロピン結膜炎類似ノ結膜炎症狀アルコトアリ(アトロピン結膜炎參照)

サリチール酸エゼリンハ白色ノ結晶ニシテ85分ノ水ニ溶解シテ(約1.2%)中性反應ヲ呈シ其ノ水溶液ハ暗所ニ在リテモ少時間ノ後類赤色ヲ呈シ時日ノ經過ト共ニ赤色乃至赤褐色ヲ呈スルモ効力ニハ著シキ減弱ナシ4%硼酸水又ハエゼリン水10ccニ亞硫酸1-2滴ヲ加フレバ溶液ノ變色ヲ防ギ得極量1回0.0011日0.003

處方及其適用

點眼水

1. サリチール酸エゼリン	0.05
蒸餾水	10.0

急性綠内障及縮瞳ヲ目的トスル場合ニ用ウ(慢性綠内障ニハピロカルピンヨシ)0.5%液1滴ハ1回ノ極量ノ約3分1ニ相當ス小兒ニハ硝子棒端ニ着ケテ結膜囊ニ移スベシ中毒ヲ豫防スルタメ點眼後ハ綿花ニテ淚囊部ニ指壓ヲ加ヘ咽腔ニ流入スルヲ防グベシ

2. サリチール酸エゼリン	0.05
硼酸	0.4
蒸留水	10.0
適用1ノ如シ 溶液ノ變色ヲ防ギ得	
3. サリチール酸エゼリン	0.05
亞硫酸	2滴
蒸留水	10.0
適用2ノ如シ	
4. サリチール酸エゼリン	0.05
酸化青酸汞	0.001
蒸留水	10.0
煮沸滅菌シ外傷及手術眼ニ用ウ	
5. サリチール酸エゼリン	0.01
鹽酸ピロカルピン	0.2
鹽化アドレナリン液	1.0
蒸留水	10.0
緑内障ニ1日2回點眼 (Silex)	
6. サリチール酸エゼリン	0.01
鹽酸ピロカルピン	0.2
鹽酸コカイン	0.1
鹽化アドレナリン液	1.0
蒸留水	10.0
輕キ反復性緑内障ニ用ウ (Silex)	
7. サリチール酸エゼリン	0.01
鹽酸ピロカルピン	0.2
鹽酸コカイン	0.1
蒸留水	10.0
緑内障ニ用ウ (Peters)	
膏劑 8. サリチール酸エゼリン	0.1
米國製白色ワゼリン	10.0

緑内障ニ1日3回點入	
油劑 9. サリチール酸エゼリン	0.1
ホレーフ油	10.0
緑内障ニ用キテ水溶液ヨリモ効力長ク持續シ又タ膏劑ノ如ク角膜ニ膠着シテ視力ヲ害スルコトナシ 持長點眼スルモ結膜炎ヲ起スコトナシ	
フィゾストール Phystol, "Riedel" ハ極メテ純粹ナルエゼリンヲ100倍ノ純オレーフ油ニ溶解滅菌セルモノナリ	

鹽酸ピロカルピン

Pilocarpinum hydrochloricum.

ピロカルピンハ ヤボランチ葉 Folia jaborandi ニ存スル アルカロイドニシテ 直接副交感神經末端ヲ興奮セシメ 縮瞳 調節機痙攣ヲ來ス

作用 ピロカルピンニヨル 縮瞳作用ハ ピロカルピンガ瞳孔括約筋ニ分布セル動眼神經末梢ヲ刺戟スル結果ニシテ アトロピンニヨリテ之ヲ除キ得 然レ共 アトロピンニテ 散瞳セルモノヲ ピロカルピンニテ 縮瞳セシメ得ズ 縮瞳作用ハ1%液ナラバ10-15分2%ナラバ10分ニシテ起リ 20-30分ニテ極度ニ達シ 常態ニ復歸スルハ2%液1滴ニテハ2-3時間ヲ要ス 縮瞳作用ノ終熄スルト共ニ 多クハ之ニ繼發スル一過性散瞳ヲ來シ 1-24時間ヲ持續スルモノナリ 此ノ繼發性散瞳症ノ起ル理由ハ

明ナラズ 調節機痙攣ハ1%液ヲ數回點眼セルモノニテハ10-25分ニテ始マリ20-35分ニテ極度ニ達シ1時間乃至1時25分ニテ常態ニ歸ル 眼壓ノ變化ハ點眼後約30分ノ不定期ヲ經テ除々ニ降減ス 此ノ不定期ニハ時トシテ中等度ノ眼壓亢進ヲ示シ 全身違和 興奮ヲ見ルコトアリ 瞳孔ノ散大ハ眼壓關係ト原因ノ交渉ナシ

中毒症狀 全身の中毒症狀ハ少量ニテハ末梢臓器ニ分布スル 神經末梢ヲ刺戟シテ 機能興奮ヲ來シ 大量ニテハ中樞神經ヲ侵ス 即チ心臟ニテハ迷走神經末梢ノ心臟制止裝置ヲ刺戟シテ 其搏動ヲ緩徐ニシ 終ニ擴張性靜止ヲ來シ 泌尿生殖器ニテハ膀胱 子宮ヲ收縮セシメ 眼ニテハ動眼神經末梢刺戟セラル 而シテ種々ノ腺 消化器系統ノ臓器ニ對シテハ 唯刺戟作用ノミ 現ハレテ麻痺ヲ來サズ 從テ本劑ノ中毒ニヨリ現ハル、著明ナル現象ハ 消化管平滑筋ノ痙攣ニ基ク嘔吐 下痢 種々ナル腺興奮ニ因ル分泌物ノ増加(流涎 發汗 流淚 其他)ニシテ 妊婦ニハ流産ヲ來ス 解毒劑ハ 硫酸アトロピンニシテ 其皮下注射(1回極量 0.001)ニヨリテ消失ス

ピロカルピンニ因ル眼障碼中舉グベキモノハ網膜剝離及ビ漿液性脈絡膜炎兼網膜剝離アルモノニ皮下注射シテ時トシテ白內障形成ヲ見ルコトナリ コレ網

膜剝離又ハ葡萄膜炎ニハ白內障ヲ合併スルコトアルヲ以テ ピロカルピンニ因リ 眼内液ノ急劇ナル變調ヲ來サバ 其副作用トシテ 或ハ白內障形成ヲ易カラシメ得ルナラン

鹽酸ピロカルピンハ白色ノ結晶ニシテ 大氣中ニテ溶解ス 容易ニ水ニ溶ケテ弱酸性ノ反應ヲ呈ス 極量1回 0.02 1日 0.04

處方及其適用

- 點眼水**
- | | |
|-------------|--------------|
| 1. 鹽酸ピロカルピン | 0.05-0.1-0.2 |
| 蒸餾水 | 10.0 |
- 綠內障殊ニ其慢性症ニヨシ エゼリンノ如ク副作用ナク 變敗ノ惧ナキガ故ニ 患者ノ自宅用トシ得 但シ自宅用ニハ 0.5%液ヲ與ヘ 1日3回點眼セシメ 効ナキ時ハ 1-2%液ヲ與フベシ 妊婦 心臟病者ニハ 注意シテ用ウベキモ エゼリンノ如ク有害ナラズ
- 注射料**
- | | |
|----------------------------------|-------|
| 2. エゼリント伍用セル處方ニ就テハ エゼリンノ條下ヲ参照スベシ | |
| 3. 鹽酸ピロカルピン | 0.2 |
| 酸化青酸汞 | 0.001 |
| 蒸餾水 | 10.0 |
| 煮沸消毒シ外傷及手術眼用 | |
| 4. 鹽酸ピロカルピン | 1.0 |
| 蒸餾水 | 100.0 |
| 煮沸滅菌シ視神經 網膜 葡萄膜疾患ニ皮下 | |

注射ス(發汗療法) 初メ 0.1-0.2 ccヲ注射シテ反應ヲ顧慮シ 漸次増量シテ 0.5 cc 或ハ猶以上ニ及ブ 顛顛部ニ注射スルハ意義ナシ

ブローム水素酸アレコリン

Arecolinum hydrobromicum.

アレコリンハ アレカ實中ノ アルカロイドニシテ ビロカルピント同効ナリ 0.25-1%液ヲ點眼スレバ約2分ニテ迅速ニ縮瞳シ 10分ニテ極度ニ達シ 20分間ヲ持續ス

處方及其適用

1-4%液トシテ綠内障殊ニ其急性症ニヨシ 短時間ニテ消失スルガ故ニ 單性綠内障ニハ効果淡シ

III. 局所麻醉藥

鹽酸コカイン

Cocainum hydrochloricum.

南米ニ産スル コカ葉 Erythroxyton Coca 中ニ含マ

ル、アルカロイドニシテ末梢性知覺 殊ニ痛覺ヲ麻痺セシム コルレル氏(1884年)始メテ點眼用ニ供セリ

作用 コカインハ有力ナル局所麻醉藥ニシテ 點眼及注射料トス 其ノ2%液ヲ1-2滴點眼スレバ 輕キ灼痛ノ後 結膜ハ約2分ニシテ全ク無痛トナリ 7-10分間持續ス アドレナリンヲ附加スレバ作用ヲ增強ス 反復點眼スルカ 又ハ其ノ濃度ヲ高ムレバ 麻痺作用モ亦從テ増進スト雖 濃度ト作用トハ常ニ正シク比例シテ行ハル、モノニアラズ 又々病的組織 殊ニ炎症眼ニテハ 健常眼ニ比シテ効力ノ現ハル、コト遅ク 麻痺作用モ不充分ナルモノナルガ故ニ 手術ニ際シテハ 此ノ點ヲ顧慮セザルベカラズ 虹彩ハ コカインヲ反復點眼ストモ 完全ニ知覺ヲ失フコトナシ

コカインハ瞳孔ヲ散大セシメ 眼瞼ヲ開大シ 調節機ヲ麻痺セシム 散瞳作用ハ濃度ニヨリテ一様ナラザルモ 點眼後 8-20分ニシテ起リ 6-21時ヲ持續ス 綠内障素因アル眼ニテハ 健常眼ヨリモ作用早く現ハル、モノニシテ 之ヲ利用シテ 綠内障ノ疑ハシキモノノ診斷ヲ行フコトアリ 散瞳ノ程度ハ常ニ中等度ニシテ アトロピンノ如ク極度ニ散瞳スルコトナク 其ノ際 瞳孔反應ハ常

ニ存スルモノナリ コレ コカインガ虹彩ノ血管ニ分布スル交感神經末梢ヲ刺戟シテ之ヲ收縮セシムルタメ血管ニ富メル虹彩組織ヲ收縮セシメテ散瞳スルモ動眼神經ニテ支配セラル、虹彩括約筋ハ麻痺セザルガ故ニ能ク其ノ反應ヲ存スルニヨル コカインニ因ル散瞳ハ屢々不平等ニ起リ多クハ下方及内方ニ強ク散大ス 虹彩ノ色素著明ナルモノハ少キモノヨリモ散瞳作用大ナリ (Emmert)

眼瞼開大ヲ生ズル理由ハ上眼瞼ニ存在スルミルレル氏滑平筋ニ分布セル交感神經ノ刺戟ニヨリ該筋ガ攣縮スルタメナリ

調節機麻痺ハ通常散瞳症ヨリモ稍々後レテ發シ且ツソレヨリモ早ク消失スルモノニシテ其ノ程度ハ常ニ不全麻痺ナリ

眼壓ニ及ボス影響ハ不定ナリ 一般ニ散瞳眼ニテハ眼壓亢進ヲ繼發スルヲ常トスルモコカインニテハ眼球血管ノ收縮スルタメ却テ少シク降減スルコトアリ コノ際初メ一過性眼壓亢進ヲ前驅スルコトアリ コレナキコトアリ 然レ共線内障又ハ其ノ素因アルモノ加之全ク健常眼ガコカイン點眼ニヨリテ一過性又ハ持續性眼壓亢進ヲ來セル場合少カラズ(コカイン線内障) 家兎眼ニ

テハ初メ一過性眼壓亢進ヲ來シ反復點眼スレバ眼壓降減ス

中毒症狀 コカインハ全身及局所的ニ中毒症狀ヲ發ス

全身中毒ハコカインヲ嚥下又ハ注射セル時起リ人ニアリテハ顔面蒼白眩暈頭痛等ノ腦貧血症狀咽頭ノ乾燥及絞痛感嚥下痙攣全身冷感瞳孔散大頭痛眩暈脈搏增加惡心酩酊狀態困憊精神錯亂等ノ症狀ヲ呈シ重篤ナル場合ハ猶ホ意識溷濁呼吸困難反射機能亢進痙攣様痙攣呼吸及心臟麻痺ヲ來ス

解毒法 頭部ヲ低クシカンフルカフェイン等ノ強心劑ヲ注射シ濃キ茶珈琲赤酒ヲ與ヘ綿花又ハ綿紗ニ亞硝酸アミールヲ數滴々下シタルモノヲ鼻口ニ當テ、吸引セシムベシ

コカインニ因ル眼障礙 主トシテ角膜ニ發症スコレコカインニテ知覺麻痺シ角膜及結膜反射消失シ瞬目運動減少シテ角膜ノ乾燥スルト結膜及其周圍組織ノ血管ガ收縮スルタメ涙液ノ分泌減少ヲ來シ猶ホ上眼瞼分布ノミルレル氏筋攣縮シテ兎眼ヲ生ズル等ノ原因ニヨルモノトス 其ノ症狀次ノ如シ

1. 溷濁 角膜中央ヨリ下方時トシテ全角膜面ニ主

トシテ表在性稀=實質性潤濁ヲ生ズ 又白内障手術=際シ辨狀摘出術後角膜創縁ヨリ發シテ 實質=瀰蔓スル潤濁ヲ生ズルコトアリ 二者トモ=1-3日又ハ1-2週ニシテ消散スルヲ常トスルモ 時トシテ 實質中=乳白色ノ潤濁ヲ永存スルコトアリ

2. 上皮剝離 通常濃度高キ液 又ハ粉末ヲ點眼セル時=生ズルモ 亦 2-3%ノ液ニテモ見ルコトアリ 眼瞼ヲ開放セル時ハ一層生ジ易シ 多クハ角膜中央部ヨリ下方=來リ 既=剝離セル部分ハ透明=剝離=傾ケル上皮ハ潤濁シ 乳白色ヲ呈ス 刺戟症狀強ク 之ヲ鎮ムルタメニ コカインヲ點眼スレバ從テ剝離ヲ増ス 20-25%ノボカインワセリン 點入ヲ行ヒ 輕キ保護繃帶ヲ施スベシ 通常數日ニシテ翳ヲ貽サズシテ治癒ス

3. 水泡疹 コカイン點眼後數日又ハ十數日ニシテヘルペス様小水泡ヲ形成シ 眼壓降減ト 角膜知覺脫失ヲ伴フ 角膜潤濁ヲ起スコトアリ 或ハ全クコレナキコトアリ 症狀頑固ニシテ徐々ニ治癒ス コカインノ使用ヲ廢シテ ノボカインニ代ヘ 温罨法 保護繃帶 1-3%食鹽水 結膜下注射 チオニン水點眼等ヲ行フベシ

4. 潰瘍 上皮剝離ナクシテ直=實質=及ベル表在性加答兒性潰瘍ヲ生ズルコトアリ 處置 2.3ニ據ル

是等症狀ノ發生ヲ豫防スルニハ コカイン水ノ濃度ヲ餘リ高クセザルコト(5%以上)必要以外=頻回點眼ヲ反復セザルコト 第1回點眼後ハ 硼酸水 生理食鹽水ヲ濕ホシタル綿紗ニテ 閉ヂタル眼瞼ヲ覆ヒテ 角膜ノ曝露乾燥スルヲ防グベシ 猶ホ點眼液ハ コカインノミトセズシテコレニ 2%硼酸水 又ハ 1-1.3%食鹽水ヲ伍用シテ 涙液ト等張性トセバ 角膜上皮ノ損傷ヲ防ギ得 其他注意スベキハ 手術=際シ コカインヲ點眼セルモノニ 昇汞水又ハ酸化青酸汞水洗滌ヲ行ヒテ 稀=一過性又ハ 永久的ノ角膜潤濁ヲ生ズルコトアリテ 既=コカインニヨリテ潤濁=傾ケルモノニテハ 一層發症シ易シ 故ニ場合ニヨリ コカイン點眼後行フ洗滌ハ 酸化青酸汞 昇示ニ代ルニ滅菌セル硼酸水又ハ食鹽水ヲ用ウルヲ可トス

鹽酸コカインハ無色ノ結晶 又ハ結晶性粉末ニシテ 水及アルコールニ溶解シテ中性ノ反應ヲ呈シ 味苦ク 舌端鈍麻ス 其溶液ハ堪熱性ニ乏シキモ 3分以内ノ煮沸消毒ニ堪ニ 極量 1回 0.05 1日 0.15 小兒ハ殊ニ中毒シ易シ

處方及其ノ適用

- 點眼水**
1. 鹽酸コカイン 0.05-0.1
蒸溜水 10.0
刺戟症狀強キモノノ診斷治療用ニ用ウ 但シ角膜潰瘍ニハ反復用ウルヲ避クベシ 制菌力ナク 分解シ易キヲ以テ 1-2 週間ニテ更新スベシ
2. 鹽酸コカイン 0.05-0.1
クロールナトリウム 0.1-0.13
蒸溜水 10.0
適用1ニ同ジ 角膜ヲ刺戟スルコト少キモ藥効ハ1ヨリモ少シク劣ル
3. 鹽酸コカイン 0.05-0.1
硼酸 0.3
蒸溜水 10.0
適用1ニ同ジ 2ノ如ク角膜ヲ刺戟スルコト少ク 消毒力ヲ兼ネ貯藏ニ堪ユ
4. 鹽酸コカイン 0.05
鹽化アドレナリン液 0.5
蒸溜水 10.0
春季加答兒ノ灼痛アルモノニ1日數回(患者自宅用)
5. 鹽酸コカイン 0.2-0.5
蒸溜水 10.0
3分間煮沸滅菌シ 局所麻醉トシテ手術ニ用ウ 3-5分間ニ1回宛 3-5回點眼スレバ角膜ハ完全ニ麻痺ス 3%硼酸水 0.01-0.02%昇汞水又ハ同ジ%ノ酸化青酸汞水ヲ伍用シテ防腐ヲ圖ルコトアリ
6. 鹽酸コカイン 0.2-0.5
鹽化アドレナリン液 2.0

- 蒸溜水 8.0
適用5ニ同ジキモ藥効ハソレヨリモ優ル
- 膏劑**
7. 鹽酸コカイン 0.2
米國製白色ワセリン 10.0
外傷 手術及疼痛劇シキ症ニ適用 角膜潰瘍ニハ反復スベカラズ
8. 鹽酸コカイン 0.2
酸化青酸汞 0.001-0.002
米國製白色ワセリン 10.0
適用7ニ同ジ 消毒力ヲ兼ヌルヲ以テ外傷及手術眼ニヨシ
- 注射料**
9. 鹽酸コカイン 0.05
蒸溜水 10.0
3分間煮沸消毒シ 浸潤麻醉トシテ手術ニ用ウ 10ccマデ注射シ得 鹽化アドレナリン1-2滴ヲ附加シ用ウレバ藥効増大ス 主トシテ眼瞼 結膜ノ手術ニ用ウ 但シ涙囊摘出 眼高手術等ニハノボカインヲ用ウルヲ安全ナリトス
10. 鹽酸コカイン 1.0
蒸溜水 10.0
3分間煮沸滅菌シ 線内障手術ニ際シ其ノ1-2滴ヲ角膜縁ノ手術野ニ結膜下注射ス 場合ニヨリ手術前約1時間ニスコポ・モルヒネノ皮下注射ヲ併用ス

ノヴカイン

Novocainum.

人工合成劑ニシテ鹽酸パラアミノ・ベンツォイル・ヂエ

チール・アミノ・エタノールトイフ 無色無臭ノ小鍼狀結晶ニシテ 微ニ苦味ヲ有シ 1分ノ水ニ溶解シテ (100%) 中性ノ反應ヲ呈ス 毒性コカインノ6分ノ1乃至8分ノ1ニシテ 短時間ノ煮沸ニ堪ユ 濃厚液ヲ點眼スルモ刺戟ヲ起サズ 血管ヲ收縮セシメズ 眼壓 瞳孔 調節機ニ作用セズ 効力ノ持續ハ數分ニ過ギザレ共 アドレナリンヲ附加シテ藥効ヲ強大 持久セシメ得

處方及其適用

- 點眼水** 1. ノヴォカイン 1.0-2.5
蒸留水 10.0
外傷殊ニ 角膜異物ヲ 除去スルニ用キ 又コカインニヨル 角膜傷害ニ 鎮痛ノ目的ニ 使用ス アドレナリンヲモ 點眼シテ 作用ヲ 增強セシムベシ
- 膏劑** 2. ノヴォカイン 2.0-2.5
ラノリン 5.0
米國製白色ワセリン 5.0
適用1ノ如シ 角膜火傷 酸 アルカリ等ニヨル腐蝕ニ基ク 角膜損傷ニ用キ 角膜ヲ害ウコトナクシテ 鎮痛ノ目的ヲ達シ得
- 注射料** 3. ノヴォカイン 0.5
クロールナトリウム 0.85
蒸留水 100.0
煮沸滅菌シ 眼球以外ノ 廣汎性浸潤麻醉ニ用ウ 10ccニツキ アドレナリン1滴ヲ附加ス 但シ15滴ヲ限度トス 400cc マデ注

射シ得

4. ノヴォカイン 2.0
蒸留水 100.0

煮沸滅菌シ 眼外部及眼窩ノ 浸潤及傳達麻醉用

バンカイン Vancaïn, ネオカイン Neocain, スピカイン Supicain ハ邦製ノヴォカインナリ

鹽酸ホロカイン

Holocainum hydrochloricum.

化學的合成劑ニシテ 無色ノ 結晶又ハ 結晶性粉末ニシテ 50分ノ水ニ溶解シ (2%) 防腐力アリ コカインヨリモ麻痺長ク持續スルモ (15-20 分間) 毒性強ク 角膜ヲ刺戟シ 結膜充血ヲ起スコトモ コカインニ優ル 然レ共血管 調節機ニ働カザルガ故ニ 眼壓ニ變化ヲ來サマルニヨリ 眼壓計使用ノ際 眼科ニテ用キラル アルカリニ逢ヒ沈澱ス

- 點眼水** 鹽酸ホロカイン 0.1
クロールナトリウム 0.13
蒸留水 10.0
約5分間隔ニ2回點眼シ 眼壓測定

アコイン

Acoïn.

無色ノ結晶性粉末ニシテ 約15分ノ水ニ溶解ス(約7%) コカインヨリモ毒性遙カニ弱クシテ 作用長ク持續シ 且ツ煮沸ニ耐ユ 1%液ヲ點眼スレバ 2-5分ニシテ完全ニ知覺ヲ麻痺セシメ 實際結膜充血瞳孔調節機障礙ヲ起スコトナシ 上皮缺損部ハ殊ニヨク麻痺セラル、ガ故ニ 外傷ニ賞用セラル 0.1%液ニテ浸潤麻醉スレバ 作用40-50分持續ス 結膜及皮下注射ニ本品ヲ伍用スレバ 長ク注射時ノ疼痛ヲ減ジ得ベシ アルカリニ過敏ニシテ 容易ニ沈澱ヲ生ズルガ故ニ 之ニ使用スル注射器等ハ 豫メ醋酸1滴ヲ滴下セル滅菌水ニテ洗滌スベシ

處方及其適用

點眼水	1. アコイン	0.1
	クロールナトリウム	0.1-0.13
	蒸留水	10.0
	外傷 手術又ハ結膜下注射ニ點眼 1%以上ハ結膜ヲ刺戟スルガ故ニ用ウベカラズ	
	2. アコイン	0.1
	鹽酸コカイン	0.1
	蒸留水	10.0
	手術用ニ點眼 手術部ハコカインニヨリテ麻痺作用増強シ アコインニヨリテ作用長ク持續ス	
膏劑	3. アコイン	0.2
	米國製白色ワセリン	5.0
	ラノリン	5.0

外傷及手術後ノ鎮痛ニ點入

油劑	4. アコイン	0.1
	落花生油	10.0
	適用3ニ同ジ 膏劑ヨリモ作用早く現ハル 且ツ膏劑ノ如ク 角膜ニ膠着セザルガ故ニ 視力ヲ害スルコトナシ 1日數回點眼	
	アコイン油(Heyden-Dresden)トシテ販賣セラル	
注射料	5. アコイン	0.1
	クロールナトリウム	0.85
	蒸留水	100.0
	煮沸滅菌シ浸潤麻醉用 0.3-0.5%ノ比ニ鹽酸コカインヲ加フレバ作用増強ス	
	6. アコイン	0.1
	クロールナトリウム	0.085
	蒸留水	10.0
	皮下又ハ筋肉注射(酸化青酸汞水ノ如キ)又ハ結膜下注射(食鹽水ノ如キ)ニ其約 0.2ccヲ取り 之ニ注射ノ主藥ヲ伍シテ全量 1ccトシ注射スベシ	

アリピン

Alypin.

無色結晶性ノ粉末 容易ニ水ニ溶ク 毒性ハコカインノ約半ニシテ 5-10分間ノ煮沸ニ耐ユ 點眼スレバ一過性灼熱感ノ後 7-8分間麻痺作用ヲ持續ス 血管ヲ收縮セズ 皮下注射ニハ刺戟アルタメ用キザルニ如カズ 5%溶液ヲ注射スレバ局所ニ壞疽ヲ生ズルコトアリ

點眼水	アリピン	0.2-0.5
-----	------	---------

蒸留水 10.0
角膜及結膜ノ鎮痛ニ適用

ベタ・オイカイン
Beta-Eucain.

人工的合成劑 無色結晶性粉末 25分ノ水ニ溶ク(4%) コカインニ比シテ毒性約4分ノ1ナレ共 作用及其ノ持續共ニ劣リ 局所ヲ刺戟シテ充血ヲ來シ アドレナリンヲ加フルモ其効力ヲ増大スルコト著明ナラザルガ故ニ 注射ニ適セズ 耐熱性ナリ 濃厚溶液ヲ作ラントセバ 乳酸オイカイン Eucainum lacticum 又ハ 醋酸オイカイン Eucainum aceticum ヲ用ウベシ

點眼水 ベタ・オイカイン 0.2
クロールナトリウム 0.13
蒸留水 10.0

鹽酸トロパコカイン
Tropacocainum hydrochloricum.

瓜哇ニ移殖セル コカ葉中ニ含有シ 又タ人工的ニ合成ス 無色ノ結晶 又ハ白色結晶性粉末ニシテ 容易ニ水ニ溶ケ 中性ノ反應ヲ呈ス コカインニ比シテ 毒性約3分ノ1ナルモ 局所ヲ刺戟シテ充血ヲ來シ アドレナリンヲ加フルモ効力ヲ增強セズ 麻熱作用ハコカインヨリモ稍早ク現ハレ 作用ノ持續ハコカインニ匹敵ス 殆ド散瞳作用ナシ 耐熱性ニシテ貯藏ニ堪ニ 極量1回 0.1 1日 0.3

處方及其適用

點眼水 1. 鹽酸トロパコカイン 0.3-0.5

クロールナトリウム 0.13
蒸留水 10.0

角膜潤潤ヲ起サミルガ故ニ 角膜疾患ノ鎮痛外傷ニ用キ得

膏劑 2. 鹽酸トロパコカイン 0.5
米國製白色ワセリン 5.0
ラノリン 5.0
適用1ノ如シ

鹽酸ストヴァイン
Stovainum hydrochloricum.

人工的合成劑 鹽酸コカインニ類スル 結晶性粉末ニシテ 水ニ溶ケ易ク 酸性反應ヲ呈ス コカインニ比シテ毒性約2分ノ1ナレ共 局所ヲ刺戟シ 且ツ血管ヲ擴張セシムルガ故ニ アドレナリンヲ加フルモ作用增強セズ 點眼ニ不適當ナレ共 浸潤麻酔ニ用ウルコトアリ 耐熱性ナリ 點眼ニハ 4-5%液ヲ 浸潤麻酔ニハ 0.5-1%液ヲ用ウ

アロカイン・エス

Allocain S.

長井博士創製 化學上安息香酸 エフェドリンノエチル化合物ノ鹽酸鹽ナリ 20%溶液トシテ販賣ス 毒性ノヴォカイント匹敵シ 血管ヲ收縮セズ 煮沸ニ耐ニ 其缺點ハ微弱ナル アルカリ性反應ニヨリ既ニ沈澱ヲ生ジ効力ヲ失フニアリ 浸潤麻酔ニ 1-2%液ヲ使用ス

ツトカイン

Tutocain. „Bayer.“

パラ・アミノペンツオイル・チ・メチールアミノ・メチールブタノールノ鹽酸鹽 微細白色針狀結晶 容易ニ水ニ溶ケテ(23%)中性ノ反應ヲ呈シ 短時間ノ煮沸ニ堪ユ 毒性コカイントノヴォカイントノ中間ニ位シ 作用亦コカイントノヴォカイントノ中間ニアリ 2-4%液ヲ點眼スレバ 5-15分ニテ角膜完全ニ麻酔シテ約7分ヲ持續シ 約35分ヲ經テ正常ニ復歸ス 血管ヲ收縮スル力ナク 散瞳作用弱シ

處方及其適用

點眼水	1. ツトカイン	0.05-0.1
	硼酸	0.3
	蒸溜水	10.0
	(1) 鎮痛ノ目的ニ眼球前部ノ疾患ニ用キ	
	(2) 其他コカインノ適應症ニ用キテ可ナリ	
注射料	2. ツトカイン	0.3-0.5
	蒸溜水	10.0
	5分間煮沸滅菌 眼球手術ニ點眼	
3.	ツトカイン	0.5-1.0
	クロールナトリウム	0.85
	蒸溜水	100.0
	煮沸滅菌シ睫毛亂生 眼瞼整形 斜視手術等ニ浸潤麻酔	
4.	ツトカイン	0.2
	クロールナトリウム	0.85
	蒸溜水	100.0

廣汎性手術ヲ要スル場合ニノヴォカイン浸潤麻酔ニ代用ス(0.5%ノヴォカイン液ニ比シテ效力稍優ル (近藤教授)

5. ツトカイン	1.0
クロールナトリウム	0.85
蒸溜水	100.0
煮沸滅菌シ眼球摘出術ニ眼窩内傳達及浸潤麻酔用	

オルトフォルム

Orthoform.

パラアミド・メタ 酸化安息香酸 メチールエステルニシテメタアミド・パラ 酸化安息香酸メチールエステルヲ新オルトフォルム Orthoform neu トイフ 共ニコカイン屬ニシテ同一集成ヲ有スル異性體ナリ

新オルトフォルムハ比較的廉價ニシテ廣ク用キラル 共ニ無味 無臭 白色微細ノ結晶性粉末ニシテ 水ニ溶解シ難ク 創面ニ撒布スレバ 徐々ニ溶解シテ鎮痛作用ヲ呈シ 效力數時乃至數十時間ヲ持續ス 潰瘍 創面等ノ神經末梢ガ露出セル場合ニ殊ニ効力ヲ發揮ス コカインノ代用トシテ用キラル、モ 組織ヘノ毒性アルガ故ニ 濃度強キ時ハ局所組織ノ壞死ヲ來スコトアリ 制泌及輕度ノ防腐作用ヲ兼ヌ

膏劑 10%膏劑 (オルトフォルム 1.0 含水ラノリン 5.0 米國製ワセリン 5.0) ヲ角膜潰瘍ニ用キテ鎮痛セシメ 又5%軟膏ヲトラホームノ患者自宅用トス (Römer)

ヒポフォルム Hypoform (鹽野) ハ 邦製オルトフォルム「新」ナリ

マスイシン

Masuisin. (友田)

キニーネ及尿素トノ結合物ニシテ 白色結晶性粉末 100 分ノ水ニ溶解シ煮沸ニ堪ユ

注射料 局所及浸潤麻醉用トシテ 1%溶液 15 cc マデノ注射ニ堪ユ

鹽酸エチールモルヒネ(チオニン) Aethylmorphinum hydrochloricum. (Dionin)

作用 モルヒネノ誘導體ニシテ 其ノ生理的作用ハ呼吸中樞ニ對スル鎮靜作用優リ 鎮痛 麻醉ノ効力ハモルヒネニ劣レ共 局所知覺麻痺作用稍々著明ナリ 眼科的ニハ鎮痛及淋巴液促進劑トシテ 使用シ 兼ネテ眼壓降減ノ効アリ 粉末又ハ濃原液(5-8%)ヲ點眼スレバ 1-2 分間灼痛アリテ 後約 30 分ニ亘リ 痛覺脱失ヲ來スモ 其他ノ感覺ハ減退スルコトナシ 點眼後 1-2 分ニシテ眼

瞼結膜 眼球結膜浮腫發赤シ 強度ノ場合ニハ眼瞼一般ニ腫脹シテ 開瞼困難トナリ 頰部 鼻粘膜ニモ波及ス 結膜堤狀ニ腫起シテ角膜ヲ覆ヒ 甚シキハ瞼裂外ニ膨出ス 角膜ハ淋巴液促進セラレテ光輝ヲ放ツベシ 此ノ状態ハ 30 分乃至 24 時間ヲ持續スルモノニシテ 個人的素質ニヨリ反應ニ強弱アルノミナラズ 時トシテ全然反應セザルコトアリ モルヒネノ如ク慣性トナリ易キガ故ニ 常ニ反應ニ注意シテ 反應微弱トナラバ 濃度ヲ増スベシ 數週間休藥後點眼スレバ 又能ク以前ノ反應ヲ惹起スルモノトス

鹽酸エチールモルヒネハ 白色 微細ノ 鍼狀結晶 又ハ結晶性粉末ニシテ 微ニ苦味ヲ有シ 12 分ノ水ニ溶解シ (約 8%) 中性ノ反應ヲ呈ス 極量 1 回 0.03 1 日 0.09

處方及其適用

- 點眼水** 1. チオニン 0.1-0.2-0.3-0.5-0.8
蒸留水 10.0
角膜溷濁 角膜實質炎 角膜潰瘍 虹彩及毛様體炎ニ淋巴液促進又ハ鎮痛ノ目的ニ用ウ 初メ 1%液ヲ用キ 反應ニ注意シツ、8%マデ進メ得 8%以上ハ溶解セザルガ故ニ 粉末ヲ撒布スベシ
2. チオニン水 0.2-0.5

	酸化青酸汞	0.001
	蒸溜水	10.0
	煮沸滅菌 外傷及手術眼用	
3.	デオニン	0.2-0.5
	硫酸アトロピン	0.1
	蒸溜水	10.0
	虹彩毛様體炎ノ鎮痛	
膏劑 4.	デオニン	0.2-0.5
	米國製白色ワセリン	10.0
	適用1ノ如シ	
5.	デオニン	0.2-0.5
	硫酸アトロピン	0.1
	米國製白色ワセリン	10.0
	適用3ノ如シ 効力永ク持續ス	

クロール・エチール

Aethylum chloratum.

無色 澄明 揮發シ易キ液ニシテ 特異ノ臭氣アリ 12-12.5度ニテ沸騰ス 通常開閉自由ナル金屬製括栓ヲ有スル硝子管ニ入レ貯フ 可燃性ナルガ故ニ 火氣ヲ避クルヲ要スルモ エーテルノ如ク 容易ニ點火又ハ爆發スルコトナシ

處方及其適用 (1) 3-5 cc 一時ニ吸入セシムレバ知覺 意識共ニ數分間消失スルガ故ニ 小ナル手術ニ適ス 其ノ方法ハ クロ、ホルム 麻醉法ニ據ルベシ
(2) 膿瘍 皮下蜂窩織炎 急性涙囊炎等ノ小切開ヲ行

フニハ 25-30 センチメートルノ距離ヨリ 括栓ヲ開キテ局所ニ進出セシメ 且ツ該部ヲ吹キテ蒸發ヲ促セバ 數分ニシテ 組織氷結シテ 皮膚白變シ 知覺脫失ス 或ハ脫脂綿花ニ濕ホシ 局所ニ當テ 凍冷セシムルモ可ナリ(厥冷麻醉参照)

メタエチール

Metaethyl. (友田)

クロールエチールト クロールメチールトノ混合劑ニシテ 局所麻醉ノ目的ニ 噴霧厥冷セシムルコト クロールエチールノ如シ

IV. 止血藥

アドレナリン

Adrenalin.

副腎ノ ホルモンヲ化學的純粹ニ析出セルモノニシテ 合成的ニ製出セラル 鹽基性白色 又ハ殆ド白色ノ輕キ 結晶性粉末ニシテ 大氣中ニテ 黃色又ハ褐色ニ變ズ 酸性溶液ニハ耐久ナレドモ アルカリ性溶液ニハ容易ニ酸

化セラレテ赤色 次デ褐色トナリ 効力ヲ失フ 通常 0.1%液トシテ販賣セラル(鹽化アドレナリン液参照)

作用 アドレナリンノ作用ハ多様ナレ共 要スルニ交感神經ノ末梢装置ヲ刺戟的ニ働クニヨルモノナリ 心臓血管 滑平筋ヲ有スル臟器及分泌腺ニ作用シテ之ヲ收縮セシム

アドレナリンノ眼科的應用ハ止血 散瞳 眼壓降減ニアリ 點眼及注射料ニハ 1000 倍液ヲ用フ 其1滴ヲ結膜囊ニ點眼セル場合ハ約 15分ニシテ結膜蒼白トナリ 10-45分ヲ持續シテ 後常態ニ歸ル 散瞳作用ハ中等度ニシテ 點眼後約 20分ニテ來リ 往々不正形ヲ呈ス 眼壓降減ハ 點眼又ハ結膜下注射ノ何レニテモ來リ 適用直後一過性眼壓亢進アルコトアリ 注射ニヨリテハ1時間乃至數日間低壓持續ス コカインノボカイン等ヲ點眼又ハ注射スルニ際シテ之ヲ加フレバ血管收縮スルニヨリ藥物ヲシテ長ク局所ニ止メテ 奏功ヲ確實ニシ 且ツ吸收ヲ抑制シテ全身症狀ヲ避クルヲ得ベシ

中毒症狀 呼吸困難 心悸亢進 胸内苦悶 急性肺水腫 心動不整 呼吸靜止 心臓靜止ニシテ 禁忌スベキハ糖尿病 高齢者 心臓及血管病ノ合併症ナリ

アドレナリン使用上ノ注意及眼障礙

1. 眼手術ニ際シ局所知覺麻痺ノ目的ニテ コカインノボカイン等ニ アドレナリンヲ加フル場合ハ 千倍アドレナリン液3滴ヲ越ユベカラズ 涙囊手術ノ如キ血管多キ部分ニ注射シテ 時トシテ 急性全身中毒症狀ヲ發スルコトアルハ 誤テ血管内ニ注入セラレタル藥物ガ アドレナリンノ混用ニヨリテ 腦ノ血管ヲ收縮セシメ 輸入セラレタル藥物ノ組織外排泄ヲ遲延セシムル結果ニ外ナラズ 斯クノ如キ 症狀ハ注射直後ニ起ルモノニシテ 數分ヲ經過シテ 異狀ナケレバ 急性中毒ナキモノトシテ 可ナリ 時トシテ アドレナリン注射ニヨリ 廣汎性皮膚壞疽ヲ見ルコトアリ

眼部以外ノ組織ニシテ 廣汎性浸潤麻痺ヲ行フ場合ニハ 0.5%ノボカイン 10ccニ1滴ヲ加ヘ 15滴マデヨシ

2. アドレナリン加コカイン液ハ單ニ コカインノミノ溶液ニ比シテ角膜障礙(溷濁 上皮剝離 潰瘍)ヲ生ジ易シ コレ アドレナリンニヨリ血管收縮シ コカインノ作用ガ長ク且ツ強ク角膜ニ作用スルガタメナリ

3. アトロピンヲ點眼セル場合ハ アドレナリンヲ點眼スベカラズ 容易ニ中毒スルコトアレバナリ コレ アドレナリンニテ 涙道擴張シ アトロピンガ咽腔ニ流入シ 易キニ因ル

鹽化アドレナリン液

Solutio Adrenalini hydrochlorici.

アドレナリンノ 0.1% 水溶液ニシテ クロールナトリウム 0.85% クロレトシ 0.5%ヲ含有シ 猶ホ アドレナリンノ安定ヲ保ツタメニ 微量ノ鹽酸又ハ 亞硫酸ヲ加フ クロレトシハ防腐ノ目的ニ加フルモノニシテ 鹽化アドレナリン液ノ消毒力アルハコレニ因ル 無色澄明ノ液ニシテ 大氣ト觸ルハカ 又ハ日光ニヨリテ漸次赤色ヲ帯ビ アルカリ性液ヲ加フレバ 褐變シテ効力ヲ失フ 光ヲ遮リテ貯フベシ

全身及眼組織ニ對スル作用ニ就テハ アドレナリンノ條下參照

處方及其適用

點眼水	1. 鹽化アドレナリン液	0.1
	硼酸	0.3
	硼砂	0.1
	蒸溜水	10.0
	慢性結膜炎ニ患者自宅用	1日3回點眼
	2. 鹽化アドレナリン液	0.5-1.0
	稀醋酸	1滴
	蒸溜水	10.0
	分泌多キ春季加答兒ノ患者ニ自宅用	1日數回點眼

3. 鹽酸コカイン	0.3
鹽化アドレナリン液	20.0
蒸溜水	9.0

ココレナリント稱シ 結膜ノ充血ヲ去リ 美貌ノ目的ニ用ウ

4. 鹽化アドレナリン液	10.0
手術眼用 強テ消毒スルヲ要セズ	

5. 鹽化アドレナリン液	2.0
鹽酸コカイン	0.2
蒸溜水	8.0

3分間煮沸滅菌 外傷及手術眼用

注射料 6. コカイン ノボカイン オイカイン等ノ溶液又ハ粉末ニ鹽化アドレナリン液又ハアドレナリン末ヲ豫メ附加シ 注射料トセルモノ販賣セラルハモ 寧ロ手術ニ臨ミ 適量ノ鹽化アドレナリン液ヲ滴下スルヲ確實トス 既製品ニハアドレニン Adrenin, (アドレナリントオイカイン) コドレニン Codrenin, オイゼミン Eusemin, エピレナン Epirenan, ズプラコイン Supracoin, (以上アドレナリントコカイン) ノヴォレナール Novorenal, ズプラコイン Supracoin, (アドレナリントノヴォカイン)等アリ

ズプラレニン Suprarenin, エピネフリン Epinephrin, アドレナール Adrenal, パラネフリン Paraneprhin, ボスミン Bosmin 等ハ皆アドレナリント同効ニシテ 1000倍液トシテ販賣セラル

過クロール鐵液

Liquor Ferri sesquichlorati.

黄褐色澄明ノ液ニシテ 100分中 10分ノ鐵ヲ含ム
局所止血藥ナレ共組織ヲ腐蝕スル嫌アリ

適用 原液ヲ 5-10 倍ニ稀釋シ綿花ニ濕ホシテ堅
ク之ヲ絞リ 局所ノ出血部ニ壓定ス 既製品ニ止血
綿アリ

フェロピリン

Ferropyrin „Knoll.“

過クロールア鐵シチピリンノ黄赤色粉末 5 倍ノ水ニ
溶ク アルカリ又ハサリチール酸劑ヲ禁忌ス

處方及其適用

撒布劑 フェロピリン(原)
外傷手術ニヨル出血面ニ撒布

塗布劑 フェロピリン 2.5-5.0
水 50.0
綿花ニ濕ホシ外傷手術ニヨル出血部ニ
タンポン

内服藥 フェロピリン 0.2-0.5
稀鹽酸 1.0
水 100.0
1日3回食後分服 網膜硝子體出血其他ノ
内外出血ニ適用

フェロステプチン

Ferrostypin.

ウロトロピント過クロール鐵トノ複鹽ニシテ水ニ溶
解スル黄褐色結晶性粉末ナリ 腐蝕作用ナシ

適用 局所ノ出血ニ 10-50%液ヲ綿花ニ濕ホシテ
創部ヲ壓定ス

ゼラチン(白阿膠)

Gelatina alba.

無色又ハ殆ド無色透明ノ薄板ニシテ 硝子様光澤アリ
血液ノ凝固性ヲ亢進シ 局所及遠隔部ニ止血作
用ヲ呈ス 煮沸スル時ハ止血ノ効ヲ失フ

適用 1. 外出血ニハ直接創部ニ用ウ 即生理食鹽水
ニテ溶解シ 煮沸スルコトナク 3-5日間 15-
30分宛 100度ノ蒸氣ニテ消毒シ 30-50%
トシテ 貯ヘ用ニ臨ミ 温湯ニテ 温メ溶解シ
塗布

2. 2-10%液トシテ内出血ニ 20-100cc マデ注
射ス 要スレバ反復シ得 滅菌ゼラチン液
ノ既製品アリ

乳酸カルシウム

Calcium lacticum.

無色鍼狀ノ結晶 又ハ白色ノ顆粒狀塊 若クハ粉末ニ
シテ 20分ノ水ニ溶解ス(5%)

處方及其適用

乳酸カルシウム 3.0-5.0

苦味丁幾 2.0
水 100.0

反復性網膜硝子體出血 及手術後ノ出血等
ニ 1日3回食後 内服

クロール・カルシウム

Calcium chloratum.

無色稜柱狀ノ結晶又ハ白色結晶性粉末ニシテ 大氣中
ニテ潮解ス 1.5分ノ水ニ溶解シ(約70%) 輕キ收斂作
用ヲ呈シ止血 制泌ノ効アリ クロール石灰ト混同スベ
カラズ

處方及其適用

點眼水	クロールカルシウム	0.1-0.2
	蒸留水	10.0

春季加答兒 慢性結膜炎ニ 1日3回患者自
宅用(制泌ノ目的)

内服薬	クロールカルシウム	1.0-2.0
	サツカリン	0.05
	水	100.0

1日3回食後分服 手術外傷 其他ノ出血ニ
適用スルモ胃症狀ヲ發シ易キガ故ニ乳酸カ
ルシウムヲ用ウルニ如カズ (乳酸カルシ
ウム参照)

注射料 2-10% 滅菌クロールカルシウム液 1-2%
液ハ 皮下注射ニ堪ユルモ 3%以上ハ注射
部ニ壞疽ヲ生ズルガ故ニ 靜脈内ニ注射ス

注射時咽喉 肛門及全身ノ灼熱ヲ生ズルガ
故ニ ナルベク徐々ニ 藥液ヲ送ルコトヲ忘
ルベカラズ 止血作用ヨリモ制泌及鎮痛ノ
目的ニテ用ウル場合多シ (1)デフテリー
膿漏眼 眼瞼及眼窩蜂窩織炎 急性涙囊炎
眼部神經痛 鞏膜炎 網膜及硝子體出血 炎
症強キ葡萄膜及視神經疾患 外傷手術後ノ
炎症ニ 2-3%液20cc 1日1-2回 (2)顔面丹
毒 火傷ニ 5-10%液 10-20cc 1日1回
高齢者酒客等ニテ 血管硬變アルモノ 心臓
病ニ禁忌ス 注射後時トシテ惡寒 戰慄 發
熱アルコトアリテ カハル者ニハ 爾後ノ注
射ヲ見合ハスベシ

クロールカルシウムニ食鹽ヲ配合セルモノ (カルチゾ
ール Calcisol) 白阿膠ヲ配合セルモノ (カリチーネ Kali-
zine)ハ專ラ止血ヲ目的トセル既製注射薬ナリ

タカモール Tacamol ハ有機性サリチール酸カルシウ
ムニシテアンチカロリン Anticalorin ハオルトプロムサ
リチール酸ヨードカルシウムナリ 共ニ止血ヨリハ消炎
鎮痛ノ目的ニテ皮下又ハ靜脈内ニ注射シテ前記諸症ニ適
用ス

ヨードカルシウム Calcium jodatum ハ前記諸症ノ外
腺病性眼疾患ニ効アリテ止血作用殆ドナシ ヨーカール
Jocal ハヨードカルシウムノ注射用既製品ナリ

コアグロール Goagulol ハ 3%クロールカルシウムニ
10%クロールナトリウム 3%アラビアゴム末ヲ配合セ
ルモノニシテ内外出血ニ 1回 10cc 宛 1日 1-3回 靜脈内
ニ注射ス

V. 鎮痛藥

モルヒネ Morphinum.

作用 阿片中ニ存スル アルカロイドノ一ニシテ大
腦 殊ニ其感覺ヲ司ル部分ノ機能ヲ麻痺セシム 鎮痛 鎮
咳 胃腸運動靜止等ニ對シ確實ナル作用ヲ呈ス 副作用ト
シテ縮瞳(中樞性) 嘔吐 膀胱括約筋痙攣 發汗 流涎 發
疹ヲ來ス

中毒症狀 酩酊狀態 熟睡 昏睡 呼吸不正減少及シ
ヤイン・ストークス型 皮膚潮紅 發汗後蒼白冷却 顔面チ
アノーゼ 脈搏緩慢ニシテ 初メ 強大後細小 縮瞳 體温降

下 呼吸運動靜止ニヨリ死ス 中毒ノ所置トシテ胃洗滌
下劑(皮下注射シタル 場合モ本劑ガ胃腸粘膜ヨリ 排泄セ
ラル、ガ故之ヲ行フヲ要ス)胃洗滌液ハ 0.04-0.2%過マ
ンガン酸カリウム液ヲ用キ 又 0.1%ノ少量ヲ内服シテ
酸化セシム 昏睡ヲ避クルタメ 皮膚ヲ刺戟シ カンフル
カフェインニテ中樞神經ヲ興奮セシメ 硫酸アトロピン
0.001 (!) ヲ皮下注射シ 必要ニ應ジ注射ヲ反復ス
小兒ハ殊ニ中毒シ易キガ故ニ決シテ用ユベカラズ

慢性中毒(モルフィニスムス)ハ本劑ノ連用ニヨリ來リ
精神異常 諸種ノ臟器障礙 貧血 削瘦 衰弱終ニ死ヲ致ス

モルヒネノ鹽類中一般ニ用キラル、モノハ 硫酸モル
ヒネ Morphinum sulfonicum, 鹽酸モルヒネ Morphinum
hydrochloricum ナリ 共ニ絹絲様光澤ヲ有スル白色鍼狀
ノ結晶ニシテ 25分ノ水(4%) 50分ノ酒精(2%)ニ溶解
シテ中性ノ反應ヲ呈シ 苦味シ 極量 1回 0.03 1日 0.1

處方及其適用 奏功ノ迅速 確實ヲ求ムルニハ 皮下
注射ニ如カズ 然レ共鎮痛ノ目的トシテ虹彩炎ノ劇
症ニ注射スル時ハ縮瞳症ヲ起スガ故ニ用キザルニ如
カズ 之ニ反シ綠内障發作ニハ却テ可ナリ 眼球及
眼窩ノ手術ニハ スコボラミント和シテ手術前約 1
時間ニ 皮下注射スレバ疼痛ヲ減ジ 患者ヲ安靜ナラ

シムルモ 白内障辨狀摘出術ノ如キ 眼球ノ大ナル 開放創ニハ モルヒネニヨル嘔吐作用ヲ顧慮シ 寧ロ用キザルヲ可トス(麻醉参照) 内服ニハ 0.01-0.02 ヲ乳糖ト伍シテ 1日3回ニ分服セシム 連用ヲ避クベシ

燐酸コデイン Codeinum phosphoricum.

モルヒネノ誘導體ニシテ 又阿片中ニ含マル 白色微細ノ結晶ニシテ 苦味ヲ有シ 約 3.5 分ノ水ニ溶解シ (28.6%) 弱酸性ノ反應ヲ呈ス モルヒネニ比シテ 大腦ニ作用スル力弱ク 唯鎮靜セシムルノミニテ 殆ンド麻醉セズ 然レ共特異質アルモノニハ 不安 反射亢進等ヲ呈スルコトアリ 連用スルモ習慣性ヲ馴致スルコト稀ナリ 極量 1回 0.1 1日 0.3

處方及其適用 鎮咳鎮靜劑トシテ 白内障其他眼球手術ニ際シ 0.03-0.06 ヲ 1日3回ニ分服セシメ 必要ニ應ジテ連用ス

パントポン Pantopon. „Roche.”

阿片ノ夾雜物ヲ除去シ 其全アルカロイドヲ折出シテ 鹽酸鹽トセルモノニシテ 50%ハ モルヒネ 4%ハ其他ノアルカロイドナリ 鎮痛 制瀉 鎮咳 催眠等ノ目的ニ

廣ク用キラル

處方及其適用 鹽酸モルヒネノ約倍量ヲ 1日3回分服 皮下注射 1回 0.02 ヲ 上記ノ目的ニ用ウ スコポラミント伍用シテ手術時注射スルパントポン・スコポラミン Pantopon-Scopolamin „Roche”ハ パントポン 0.02 プローム水素酸スコポラミン 0.0003 ヲ含ミ手術前約 1時間ニ 0.5-0.8 cc ヲ皮下注射スルモノトス(麻醉参照)

パボン Pavon „Ciba.” パントポント同質 用法及適應症 パントポンニ同ジ **パボン・スコポラミン**ハ パボン 0.02 プローム水素酸スコポラミン 0.0003 ヲ含ミ パントポン・スコポラミンノ如ク適用ス

パンロイド Panloid (日新醫學) **パンモルフオン panmorphon (星)** **ナルコポン Narcopon** **アロポン Allopon.** (大日本製藥) 等ハ 何レモ 邦製パントポンニシテ パントポンノ如ク適用ス 又タ是等ニ スコポラミンヲ配合セル注射藥アリテ 其用途パントポン・スコポラミンニ同ジ

アンチピリン Antipyrinum.

フェニール・ヂメチール・ピラツォロン ノ無色稜柱狀結晶 又ハ白色結晶性ノ粉末ニシテ 等分ノ水ニ溶ケ 中

性ノ反應ヲ呈ス 有力ナル解熱藥ニシテ同時ニ鎮靜鎮痙鎮痛作用アリ 副作用トシテ嘔吐發疹ヲ來スコトアリテ 特異質アルモノニハ 時トシテ紫斑病猩紅熱様ノ劇烈ナル發疹ヲ生ジ 顔面結膜鼻咽喉ノ浮腫ヲ伴フコトアリ 極量1回 1.0 1日 3.0

處方及其適用

- 内服藥**
1. アンチピリン 0.5-0.7
ロイマチス性及流行感冒性其他原因不明ノ眼高神經痛虹彩毛様體炎ニヨル疼痛偏頭痛ニ頓用
 2. アンチピリン 1.5-2.0
乳糖 1.0
分3 1日3回 適用1ノ如シ
 3. 鹽酸キニーネニ伍用セル處方及其適用ニ就テハ鹽酸キニーネ參照
 4. アンチピリン 0.5-0.7
カフェイン 0.1
適用1ノ如シ 鎮痛作用一層大ナリ
 5. アンチピリン 1.0-2.0
カフェイン 0.2-0.3
分3 1日3回 適用1ノ如ク其作用一層大ナリ
- 注射料**
6. アンチピリン 10.0
蒸留水 100.0
煮沸滅菌シ 0.5-0.7 筒ヲ皮下注射 適用1ノ如シ
 7. アンチピリン 1.0

蒸留水 100.0
上登膜炎 登膜炎 = 0.3-0.5-0.7 ccヲ結膜下注射 消炎ヲ主トス

サリチール酸アンチピリン(ザリピリン)

Antipyrinum salicylium.

(Salipyrinum.)

白色無臭ノ結晶性粉末 又ハ六邊形ノ板狀結晶ニシテ 微ニ甜味ヲ有シ 250分ノ水ニ溶ク(0.4%) アンチピリント サリチール酸トノ効ヲ兼ネ副作用モ亦 アンチピリント サリチール酸トヲ兼ヌ 極量1回 1.0 1日 3.0

處方及其適用 アンチピリン適應症殊ニ流行感冒性ロイマチス性神經痛ニ効アリ 特異質ニ注意スベシ

アセチール・サリチール酸アンチピリン

(アセトピリン)

Antipyrinum acetosalicylicum.(Acetopyrin.)

無色ノ結晶性粉末ニシテ 醋酸ノ臭アリ 冷水ニ溶ケ難シ 内服スレバ腸ニ至リテ分解吸収セラル、ガ故ニ胃ヲ害スルコトナシ

處方及其適用 解熱鎮痛ノ目的ニ アンチピリン適應症殊ニロイマチス性疾患ニ 1回 0.5-1.0 宛 1日 3回服用

ヨードピリン

Jodopyrin. „Erfurt.“

ヨード・アンチピリンノ化合物ニシテ 無色鹹狀無味

無臭ノ結晶ナリ 水ニ殆ド溶ケズ
處方及其適用 解熱 鎮痛ノ目的ニ アンチピリン適
 應症 殊ニ インフルエンザ 徽毒ニ因ル神經痛ニ
 1 回 1.0 宛 1 日 3 回服用

ミグレニン
Migraeninum.

枸橼酸カフェイン・アンチピリン Antipyrino-caffeinum
 citricum ニシテ アンチピリン 90.0 カフェイン 9.0 枸橼
 酸 1.0 ヨリ成レル 白色ノ粉末 苦味アリ 2 分ノ水ニ溶
 解シ(50%) 酸性ノ反應ヲ呈ス 副作用トシテ 悪心嘔吐
 及アンチピリンニ於ケルガ如キ中毒症狀ヲ呈スルコト
 リ

處方及其適用 偏頭痛ノ特效藥ニシテ 其他諸種ノ神
 經痛ニ用キテ効アリ 1 回 1.0 宛 1 日 1-2 回服用

チメチールアミドアンチピリン
 (ピラミドン)
Dimethylamidoantipyrinum.
 (Pyramidonum.)

白色細小ノ結晶ニシテ 20 分ノ水ニ溶解ス アンチピ
 リント作用同一ニシテ 効力其 2-3 倍ナリ 副作用トシ
 テ 稀ニ嘔吐 流汗 速脈ヲ見ルコトアリ 極量 1 回 0.3

1 日 1.0

處方及其適用 解熱ノ外ニ 鎮靜 鎮痛劑トシテ 1 回
 0.1-0.2 宛 1 日 3 回服用

サリチール酸ピラミドン
Pyramidonum salicylicum.

白色ノ結晶性粉末ニシテ水ニ溶解ス

處方及其適用 解熱 鎮痛殊ニ ロイマチス性及流行
 感冒性疾患ニ奏効ス 1 回 0.2-0.3 宛 1 日 3 回服用

トリゲミン
Trigemin.

ピラミドント 抱水 ブチールクロラールトノ化合物
 無色ノ 微ニ引濕性ノ結晶性粉末ニシテ 約 65 分ノ水ニ
 溶解ス (1.5%) 大氣中ニ放置シテ 帶黃褐色トナリタル
 モノハ用ウベカラズ

處方及其適用 諸般ノ疼痛 殊ニ 直接腦神經ヨリ來
 ルモノニ 0.1-0.3 ヲ食後 又ハ牛乳 重湯ト共ニ與フ

フェナセチン
Phenacetinum.

光輝アル無色小葉狀結晶ニシテ 臭味ナク 水ニ溶ケ
 難シ 解熱作用著明ニシテ 鎮痛 鎮靜作用之ニ次グ
 副作用ハ アンチフェブリンノ如クニシテ 弱ク且ツ

稀ナリ 極量 1回 1.0 1日 3.0
處方及其適用 眼窩神經痛 虹彩毛様體炎ノ疼痛 偏頭痛 閃輝暗點症 創傷及手術後ノ疼痛 角膜ヘルペス 眼部帶狀ヘルペスニ下方ヲ處ス

- | | |
|------------------|------------|
| 1. フェナセチン | 0.5 |
| 乳糖 | 0.5 |
| 臨臥頓用 | |
| 2. フェナセチン | 0.3-0.5 |
| サリチール酸ナトリウムカフェイン | 0.015 |
| 鹽酸モルヒネ | 0.005-0.01 |
| 頓用 | |
| 3. フェナセチン | 1.5-2.0 |
| 分3 1日3回 | |

ラクトフェニン (ラクチールフェエネチデン)

Lactophenin. (Lactylphenetidinum.)

無色 無臭 微ニ苦味アル 結晶ニシテ 500分ノ水ニ溶解ス 解熱作用ノ外ニ有力ナル鎮痛 鎮靜作用ヲ有ス 副作用トシテ稀ニ眩暈 虚脱ヲ來スコトアリ 極量 1回 0.7 1日 2.0

處方及其適用 フェナセチンニ於ケルガ如キ適應症ニ 1回量 0.3-0.5 宛 1日 3回服用

鹽酸フェノコル

Phenocollum hydrochloricum. „ Schering. „

グリコハル フェネチデンノ白色結晶末ニシテ 味弱

苦鹹 16分ノ水ニ溶解スル水溶性フェナセチンナリ 但効力ハフェナセチンニ如カズ
處方及其適用 1回量 0.5-1.0 宛 1日 3回 散劑又ハ水劑トシテ フェナセチンニ於ケルガ如ク適用ス

フェナコチン

Phenacodin. „ Natterer. „

フェナセチン 0.5 コフェイン 0.06 コデイン 0.02 グアラナ 0.2 ヨリ成レル錠劑ニシテ 鎮痛 鎮靜劑ナリ
處方及其適用 眼窩神經痛 偏頭痛 流行性感冒ニヨル眼症 角膜ヘルペス 外傷及手術後ノ疼痛ニ半錠又ハ1錠ヲ臨臥頓用

鹽酸キニーネ

Chininum hydrochloricum.

白色鍼狀ノ結晶ニシテ 味甚ダ苦ク 約 34分ノ水ニ溶解ス(約 3%)

處方及其適用 マラリア性及流行寒冒性眼窩神經痛 虹彩炎ノ疼痛ニ 鹽酸キニーネ 0.3 アンチピリン 0.5ヲ頓用セシメ 或ハ鹽酸キニーネ 0.7-1.0 アンチピリン 0.7-1.0ヲ 1日 3回ニ分服セシム

ブロム水素酸キニーネ

Chininum hydrobromicum.

無色ノ光輝アル結晶ニシテ 1分ノ水ニ溶解シ キニーネノ解熱作用ト ブロームノ鎮靜作用ヲ兼ヌ

處方及其適用 ヒステリー性眼窩神經痛 閃輝暗點症 偏頭痛等ニ 1日 0.1-0.5-1.0ヲ水劑トシテ用ウ

サリチール酸ナトリウム

Natrium salicylicum.

揚曹 撒曹ノ名アリ 白色ノ粉末ニシテ無臭 味ハ甘鹹ナリ 1分ノ水ニ溶解ス(100%) 日光及大氣ニ觸ルレバ赤色ヲ呈シ 又水溶液トシテ貯フレバ硝子瓶ノアルカリニ依リ着色ス 下熱 鎮痛 消炎 誘導作用アリテ ロイマチス殊ニ其ノ急性症ニ特効アリ 殺菌力ナシ 副作用トシテ耳鳴 難聴 嘔吐 悪心 皮膚熱感 發汗 發疹 頭痛 腎臟炎ヲ來シ 大量ニテハ視野暗黒 譫語 發揚 呼吸促迫 心臓衰弱 虚脱ヲ呈シ 妊婦ニハ墮胎ヲ招ク 是等副作用ノ豫防ニハアルカリ劑ヲ伍用シテ胃液ニヨル分解ヲ防ギ 中毒ニ際シテモアルカリ劑ヲ投ジテ尿ノ酸性ヲ減弱セシメ 刺戟ヲ少クシ 排泄ヲ促進セシムベシ 本品ノ内服中 汞劑ノ注射ヲ禁ズ コレ組織内ニテ不溶性ノ サリチール酸汞ヲ生ジ 局所ニ硬結ヲ作レバナリ

處方及其適用

内服藥 1. サリチール酸ナトリウム 2.0-10.0
 假製マグネシウム 0.5
 分3 食後1包宛 (1)急性ロイマチス性疾患ニハ初メ少量ヲ與ヘテ特異質ヲ確メ次テ2.0ヨリ増量 10.0ニ至ル 胃症狀起ラバ別ニ重碳酸ナトリウムヲ併用スベシ 腎臟炎

ニ禁忌ス (2)亞急性ロイマチスニハ少量ヲ持續スベシ(2.0-3.0) (3)鞏膜 虹彩 毛様體 脈絡膜 網膜 視神經ノ急性症ノ初期ニ 2.0-3.0ヲ持續シテ消炎 誘導ヲ圖リ (4)眼窩神經痛 眼筋麻痺 綠内障 ヘルペスフリクテンニ持續シテ効アリ(2.0-3.0) (5)交感性眼炎ノ初期ニ大量ヲ與ヘテ炎症ヲ頓挫セシメ得ルコトアリ (内服ニ堪ヘザルモノニハ灌腸劑トシ得)

2. サリチール酸ナトリウム 2.0-3.0
 水 100.0

適用1ノ如シ アルカリ劑ヲ伍用スレバ變色スルガ故ニ別ニ之ヲ與フベシ

注射料 3. サリチール酸ナトリウム 2.0
 蒸餾水 100.0
 濾過シテ煮沸滅菌シ上鞏膜炎 鞏膜炎 頑固ナルフリクテンニ 1週2回 0.5-1.0ヲ消炎ノ目的ニテ結膜下注射ス 同時ニ本劑ノ内服ヲ兼ネシム 注射ニヨル疼痛堪ヘ難キモノニハ5%ノボカイン水數滴ヲ附加スベシ

アセチールサリチール酸(アスピリン)

Acidum acetosalicylicum.

(Aspirin.)

白色結晶性ノ粉末 又ハ鱗片狀ノ結晶ニシテ 殆ド臭氣ナク 水ニ僅ニ 熱湯ニ容易ニ溶解ス 胃ニテハ殆ド分解セザルガ故ニ サリチール酸ナトリウムノ如キ胃症狀ヲ起スコトナク アルカリ性ノ腸液ニ遭ヒテ一部分分解シテ

サリチール酸ヲ遊離スルモ一部ハ原形ノマヽニテ吸収シ奏功ス 急性レウマチス性疾患ニハ サリチール酸ナトリウムノ奏功確實ナルニ如カザルモ 慢性レウマチス神経痛 其他ノ炎症ニ對シテハ持續服用シテ害ナク 專ラサリチール酸ナトリウムニ代用シ 又タ發汗 解熱劑トス服用時 果物其他酸性飲食物ヲ伍用スレバ 胃症狀ヲ豫防シ得 大量ニテハ サリチール酸ナトリウム ノノ如キ中毒症狀ヲ呈ス

處方及其適用 發汗鎮痛ノ目的ニハ 0.5-0.7 ヲ頓用シ(發汗療法參照) 消炎 誘導ノ目的ニハ 0.5-1.0 宛ヲ 1日3回 サリチール酸ナトリウムニ代用シテ服用ス 適應症サリチール酸ナトリウムニ同ジ

ノヴァスピリン Novaspirin. „Bayer” ハ メチレン枸橼酸ノ サリチール酸エステルニシテ 無色結晶性粉末 弱酸味アリ 水ニ殆ド溶解セズ 鎮痛 誘導 消炎作用アリテ アスピリンヨリモ一層緩和ナリ 慢性症ニ適ス

溶性アスピリン Aspirinum solubile. ハ 90%ノ アスピリント 10%ノ カルシウムトヲ含ミ 水ニ溶解シ 中性ノ反應ヲ呈ス アスピリンニ堪ヘザルモノモ能ク本劑ヲ服用ス 適用アスピリンノ如シ 水劑トスル時ハ分解シ易キガ故ニ 錠劑ヲ用ウベシ

オポピリン Opopirin (三共) **リンピリン** Rinpirin (友田)ハ 精製アセチール・サリチール酸ナリ 適用アスピリンニ同ジ

ヂプロザール

Diplosal. „Boehringer.”

サリチール酸 サリチールエステルノ白色粉末 副作用トシテ輕キ耳鳴 胃障害アルコトアリ

適應症 ロイマチス 神経痛 偏頭痛 其他 サリチール劑ノ適應症ニ 1回 0.5-1.0 宛 1日3回 或ハヂプロザール 0.8 ラクトフェニン 0.8 分3 1日3回

ザロフェン

Salophen. „Bayer.”

アセチール・パラ・アミド・ザロールノ 無味 無臭 鱗片狀結晶粉末ニシテ水ニ不溶 サリチール酸ナトリウムノ代用品トシテ用ウ

處方及其適用 偏頭痛 神経痛 ロイマチス 其他ノ 神経性疼痛及炎症ニ用ウ

1. ザロフェン	1.0
頭痛 神経痛ノ發作時頓用	
2. ザロフェン	0.6
アスピリン	0.6
コフェイン	0.05
適用1ノ如シ	

ベンゾザリン

Benzosatin.

無色ノ結晶ニシテ水ニ溶ケ難シ 發汗 消炎 誘導ノ
目的ニ アスピリンニ代用ス 作用緩慢ナリ
處方及其適用 アスピリンニ代用シテ通常1回 0.5-
1.0ヲ用キ 交感性眼炎 眼球外傷ノ初期ニ大量即1
回 3.0-5.0 宛1日3回服用

トリゲミン

Trigemin. „Hoechst.“

ピラミドント抱水ブチール・クロラールトノ化合物
ニシテ 無色結晶性ノ粉末 大氣中ニテ水分ヲ引キ分
解シテ帶黃褐色乃至褐色ノ塊トナル 約65分ノ水
ニ溶解ス 諸般ノ疼痛 殊ニ直接腦神經ヨリ來ルモ
ノニ賞用セラル 空腹時ニ用ウレバ胃痛 嘔吐ヲ來
スコトアリ

處方及其適用 三叉神經痛 上眼窩神經痛 虹彩毛様
體炎 綠内障 不眠 偏頭痛等ニ1回 0.2-0.5ヲオプ
ラートニ包ミ1日1-3回服用セシム

アトファン

Atophan. „Schering“

フェニール・キノリン・ガルボン酸ニシテ 水ニ溶解
セズ 苦味アル 結晶性粉末ナリ 尿酸性素質 關節
ロイマチス 痛風 神經痛ニ効アリ 1回 0.5-1.0ヲ
1日3回 3-4日間服用シテ奏効セザレバ廢スベシ
處方及其適用 ロイマチス性虹彩炎 眼筋麻痺 眼神
經痛ニ適用ス

ノヴァトファン Novatophan ハアトファンノ エチー
ルエステルニシテ黄色無味不溶解性ノ粉末ナリ ア
トファンノ如ク適用セラレ 用量亦アトファンニ同
ジ

ギトーザン Gytosan (萬有) ハ邦製アトファンナリ

アツェトアニリド(アンチフェブリン)

Acetoanilidum. (Antifebrinum.)

光輝アル無色 無臭ノ葉狀結晶ニシテ 味少シク苦ク
230分ノ水ニ溶解ス アンチピリンニ比シテ作用強
キモ 毒性亦大ナリ 大量(1日 1.0以上)ヲ用ウル時
ハチアノーゼ 嗜眠 速脈 虚脱ヲ來ス 貧血 瘦削
衰弱セルモノニハ用ウベカラズ 特異質ニヨリ少量
ニテモ發疹ス 極量1回 0.3 1日 1.0

處方及其適用 アンチピリンノ如ク解熱 鎮痛ノ目
的ニ アンチピリン 適應症ニ1回 0.1-0.2 1日3回
服用

ノイロフェブリン

Neurofebrin. „Kalle.“

ノイロナール (ブローム・ヂ・エチール・アツェト・ア
ミド)ト アンチフェブリントノ合劑ナリ
1回 0.5 1日3回 三叉神經痛 神經衰弱性頭痛 其他
ノ疼痛ニ用ウ

鹽酸シノニメン

Sinomeninum hydrochloricum. (鹽野)

防已ノ アルカロイドノ鹽酸鹽ニシテ 白色結晶性ノ粉

末水 = 4.8% マデ溶解ス 鎮痛ノ効アリ

處方及其適用 急性及慢性ロイマチス 各種神經痛
= 粉末 1回 0.03-0.05 宛 1日 3回内服 注射 = ハ 3
%ノモノ 1回 1cc ヲ日々反復

ペクトール

Pectol. (鹽野)

サリチール酸カルシウム 3% キニーネ 0.02% ヨ
ード 0.001% ヨリ成レル注射薬ニシテ 專ラ 靜脈内
= 1回 20cc ヲ腺病性眼疾患 ロイマチス性神經痛
= 注射ス

タカモール

Tacamol. (三共)

サリチール酸カルシウム注射液ナリ

結核性疾患 ロイマチス性疾患等ニシテ 疼痛ヲ伴フモ
ノニ消炎 鎮痛ノ目的ニテ 3%液 10-20cc 日々靜脈内ニ
注射ス 皮下注射ニハ 2%液ヲ用ウルモ局所ニ疼痛ヲ免
レズ

コノ外鎮痛ノ目的ニ クロール・カルシウム靜脈内注射
病的神經幹鞘内酒精注射等アリ 各其項ヲ参照スベシ

〔附記〕 鎮靜薬 催眠薬ハ 同時ニ鎮痛作用アリ 各其
條下ヲ参照スベシ

VI. 鎮 靜 薬

ブロームカリウム

Kalium bromatum.

無色又ハ白色骰子形ノ結晶 又ハ結晶性粉末ニシテ 2
分ノ水ニ溶解ス (50%) 神經系統ノ鎮靜及催眠薬トシ
テ用ウ

中毒症状 特異質ニヨリ容易ニ中毒シ 發疹 アクネ
氣管枝炎 鼻炎 結膜炎 胃腸障碍等ヲ來ス 本劑ヲ持續
服用スル時ハ 口蓋 結膜 角膜ノ反射減退シ 色慾消耗
羸瘦 記憶力減退 運動障碍 無慾状態 心搏動緩徐等ノ症
ヲ來シ 食鹽分少キ食餌ヲ取ル時ハ上記症状増進シ 食鹽
水及食鹽分多キ食餌ニヨリテ 輕快ヲ速ム 皮膚發疹ニ
ハ 砒素劑ノ伍用ニヨリテ 豫防スルコトヲ得ベシ 本劑
内服中 甘汞ヲ用ウル時ハ ヨード劑内服時ニ於ケルガ如
ク局所ニ ブローム水素酸 次デ 遊離ブロームヲ發シテ
組織ヲ刺戟シ發炎ス

處方及其適用 神經衰弱 ヒステリー 其他ノ神經性
眼疾患 過敏ナル手術患者ニ鎮靜 催眠劑トシテ 2.0
-3.0ヲ重曹ト和シ 1日 3回分服セシム 連用スル時

ハ漸次増量セザレバ奏功セズ 緑内障 虹彩毛様體
炎ニシテ疼痛アル場合ハ屢々下方ヲ處シテ消炎鎮痛
ノ効アリ

ブロームカリウム	3.0
サリチール酸ナトリウム	3.0
重曹	3.0
苦味丁幾	2.0
水	100.0

1日3回食後分服

ブロームナトリウム

Natrium bromatum.

白色結晶性粉末ニシテ 微ニ引濕性ヲ有シ 1.2分ノ水
ニ溶解ス

處方及其適用 ブロームカリウムニ同ジク 屢々兩
者ヲ伍用ス 胃ヲ害スルガ故ニ重曹ヲ併セ用ウベシ
(ブロームカリウム1.5 ブロームナトリウム1.5 重
曹3.0 苦味丁幾2.0 水100.0 右1日3回食後分服)

ブロームノ有機化合物

Organische Bromverbindungen.

慢性ブローム中毒ヲ避クルタメ 其ノ有機化合物ヲ製
造販賣セラル、モ 中毒ノ少キハ亦鎮靜作用モ緩慢 微弱
ナルヲ免レズ

1. **ブロムラール** Bromural. „Knoll.” 冷水ニ難溶 温湯
アルコール アルカリ性液ニ溶ケ易キ 白色結晶性粉

末ニシテ 35%ノ ブロームヲ含ム 催眠鎮靜劑ト
シテ 1回 0.3-0.5 ヲ温湯ニテ服用セシム 副作用殆
ドナシ **サイミナル** Saiminal, **セダチヴァール**
Sedativum, **ソムナル** Somunal, **ブロヴァリン** Brovarin,
ヒプノチン Hypnotin, **カルモチン** Calmotin ハ邦製
ブロムラールナリ

2. **ブロマリン** Bromalin. „Merk.” 56%ノ ウロトロピ
ント 44%ノ ブローム・エチールノ化合物ニシテ無
色水溶性結晶末ナリ 癲癇 神經衰弱 |ヒステリーニ
ブロームカリウム代用品トシテ 1日 3.0-5.0 ヲ水又
ハ散劑トシテ與フ

3. **ブロミピン** Bromipin. „Merk.” 10%及 33%ノ ブ
ロームヲ含有セル黄色油狀ノ 胡麻油化合物ナリ 神
經痛 癲癇 船暈 神經衰弱等ニ 10%ブロミピン 12.0
-36.0 1日 3回 33%ブロミピン 4.0-12.0 1日 3回
牛乳ニ混ジテ與フ 黒色ニ變化セルモノハ効ナシ

4. **ブロモコル** Bromocoll. „Afga.” 褐色ノ粉末 水ニ不
溶 20%ノ ブロームヲ含ム ブロームカリウムニ
代用シテ 1回 0.5宛 1日 3回服用

5. **サブロミン** Sabromin. „Hoechst.” 白色 無味 無臭
ノ粉末 水ニ不溶 約 29%ノ ブロームト 3.8%ノ
カルシウムトヲ含ミ 3.0-5.0 ヲ 1日 3回分服ス

6. **アダリン** Adalin. „Bayer.” 白色 無味ノ粉末ニシテ
冷水ニ難溶 熱湯ニ溶ク 鎮靜劑トシテ 1回 0.2-0.3
催眠劑トシテ就床前 30分乃至1時間ニ 0.5-0.7 ヲ
多量ノ温湯ト共ニ頓用セシム 副作用トシテ輕キ眩
暈 心悸亢進 翌日酩酊感 疲勞感アルコトアリ **ド
ルミン** Dormin (鹽野)ハ邦製アダリンナリ

7. **アダモン** Adamon. „Bayer.” 無臭 無味 白色ノ結晶
性粉末ニシテ 水ニ不溶 35%ノ ブロームヲ含ミ

神經衰弱 ヒステリー 其他ノ神經疾患 = 1日 1.5-3.0ヲ3回ニ分服ス 副作用殆ドナシ

8. ウレアブロミン Ureabromin. „Gehe.” 白色 結晶性ノ水ニ溶ケ易キ粉末ニシテ 36%ノブロームヲ含ミブロームカリウムニ代用シテ 1日 3回 2.0-6.0ヲ分服ス

9. ノイロナール Neuronal. „Kalle.” ブローム・ヂ・エチール・アツェト アミドノ白色苦味アル水ニ溶ケ難キ粉末ナリ 催眠劑トシテ 1回 0.3-0.5-1.0 鎮靜劑トシテ 1回 0.2-0.3 鎮痛劑トシテ 1回 0.5ヲ冷水ニテ服用

縵 草 根

Rhizoma Valerianae.

縵草 Valeriana officinalis ノ根莖ヲ乾燥セルモノナリ

主要成分ハ ボルネオール及其エステルヲ含メル揮發油ニシテ 反射機能ノ減退後亢奮 血壓昇騰ヲ來シ 大量ニテハ中樞神經系ヲ麻痺セシム

處方及其適用 ヒステリー 神經衰弱 癲癇 閃輝暗點症 其他ノ神經過敏症ニ屢々ブローム劑ト伍シテ用ウ

1. 縵草根浸(8.0-10.0)	90.0
單舍利別	10.0
1日3回分服	
2. 縵草根浸(5-10.0)	100.0
ブロームカリウム	3.0
1日3回分服	

縵 草 丁 澱

Tinctura valerianae.

縵草根 1.0 稀酒精 10.0ヲ取り製セル帶黃褐色ノ液ナリ 1.5-4.0ヲブローム劑ト伍シテ縵草根ノ如ク適用ス

エーテル性縵草丁澱 Tinctura Valerianae aethereaハ縵草根 1.0 エーテル精 5.0ヲ取り製セルモノニシテ用量 縵草丁澱ニ同ジ

縵 草 酸 亞 鉛

Zincum valerianicum.

光輝アル白色ノ結晶ニシテ 縵草酸ノ臭氣ヲ有シ 約 100分ノ水ニ溶解ス

1日 0.1-0.15ヲブロームカリウム 3.0ト伍シ分服 適應症 縵草根ニ等シ

縵草酸アンモニウム

Ammonium valerianicum.

縵草様臭氣アル無色ノ結晶ニシテ 水ニ溶解ス 1日 0.15-0.6ヲ縵草酸亞鉛ニ於ケルガ如クブローム劑ト伍シ適用ス

ヴァリドール

Validol. „Zimmer.”

縵草酸メントール・エステルニシテ 無色濃厚ノ佳快ナル香氣ヲ有スル液體ナリ 水ニ溶解セズ 處方及其適用 ヒステリー 偏頭痛 外傷性神經症

神經衰弱 不眠症 閃輝暗點症等 = 1回 10-20滴ヲ 1日 3回 或ハ ワリドール 10滴 ブロームナトリウム 2.0 煨製マグネシウム 0.2ヲ 研和シ 1包ト爲シ 臨臥頓用

ヴァリール

Valyl. „Hoechst.“

纈草酸チ・エチール・アミドニシテ 無色澄明 特異ノ 芳香アル液ナリ 水ニ少シク溶解ス 1膠囊中ワリール 0.125ヲ含ム

處方及其適用 鎮靜劑トシテ不眠症 ヒステリー 神經衰弱 偏頭痛 神經痛 = 膠囊 1回 2-3個 1日 2-3回 食後又ハ食事中ニ服用

〔附記〕 鎮痛藥 催眠藥ハ同時ニ亦タ鎮靜作用アリ 參照スベシ

VII. 催眠藥

抱水クロラール

Chloratum hydratum.

無色透明ノ結晶 竄透性ノ臭氣アリ 味 腐蝕性ニシテ 稍苦シ 水ニ容易ニ溶解ス クロ、ホルムト同様ノ作用

アリテ 1.0-2.0ヲ内服スレバ 興奮スルコトナクシテ 倦怠 就眠シ 醒後精神爽快ナルヲ常トスルモ 大量 (5.0-10.0)ニテハ クロ、ホルム 麻醉状態トナリ 知覺脱失 反射機能消失 筋肉弛緩 瞳孔散大 呼吸及心臓機能微弱トナリ 終ニ其靜止ニヨリテ死ス

特異質ニヨリテ少量ニテモ上記症狀ヲ來シ 又タ 惡心 嘔吐 發疹 皮下溢血ヲ來スモノアリ 呼吸器病 特ニ心臓病ニ禁忌ス 連用スレバ習性トナリ 大量ヲ持續スレバ慢性中毒トシテ 消化不良 下痢 羸瘦 貧血 發疹 精神作用減退 臟器ノ變質ヲ招ク 極量 1回 2.0 1日 6.0

處方及其適用 催眠ヲ主ナル用途トシ 鎮痛ニハ奏功確實ナラズ 綠内障發作ニハ眼壓ヲ降減セシムル効アルガ故ニ 鹽酸モルヒネニ代用シテ 2.0-3.0ヲ 1日 3回ニ分服シ 手術 疼痛 興奮等ニヨル 催眠ノ目的ニハ 1.0-1.5ヲ臨臥頓用セシム

スルフォナール

Sulfonalum.

無色稜柱狀ノ結晶 或ハ白色結晶性ノ粉末 500分ノ水 (0.2%) 15分ノ熱湯 (6.7%)ニ溶ク 有力ナル催眠藥ナレ共 吸收緩慢ニシテ 奏効ニ時間ヲ要シ 往々1時間以上ヲ要スルト 排泄緩慢ニシテ翌日ニ持續シ 連用ニヨリ蓄

積シテ中毒症狀(嘔吐 下痢 眩暈 精神朦朧 記憶力減退 心臟衰弱 發疹等)ヲ來ス 對症療法トシテ カンフル 注射 其他ノ興奮劑ヲ與フ 極量 1回 1.0 1日 3.0

處方及其適用 強キ不眠症ニ限リテ 0.5 ヲ臨臥 30分乃至1時間前ニ頓用セシム 婦人 衰弱者ニハ用量ヲ少クシ 持續1週間以上ニ及ブベカラズ

トリオナル Trional. „Bayer.”

メチール・スルフォナルノ無色光輝アル結晶 320分ノ水(0.3%) 25分ノ熱湯(4%)ニ溶ク スルフォナルヨリモ吸收 排泄速ニシテ 危險少キ 催眠藥ナレ共 猶ホ スルフォナルノ如キ中毒症狀ヲ來スコトアリ 極量 1回 1.0 1日 3.0 用量及適用 スルフォナルニ同ジ

ヴェロナル Veronal. „Merck” & „Bayer.”

ヂエチール・バルビツール酸ノ無色小葉狀ノ結晶 又ハ白色結晶性ノ粉末 170分ノ水(約0.6%) 17分ノ熱湯(約6%)ニ溶ク 抱水クロラールニ比シ 2倍ノ効力アリ 排泄緩慢ナルガ故ニ 作用翌日ニ持續スルコトアリ 連用ニヨリ蓄積作用ヲ呈シ 精神朦朧 記憶力減退 昏睡

心臟衰弱等ヲ來スコトアルモ スルフォナルニ比シ 危險ノ度少シ 對症藥トシ 興奮 強心劑ヲ與フ 極量 1回 0.5 1日 1.0

處方及其適用 不眠症及手術後ノ催眠 鎮靜劑トシテ 0.2-0.3 ヲ臨臥ニ多量ノ温湯ト共ニ内服セシメ 或ハ手術前約1時間ニ 同量ヲ用キ 安靜ヲ圖ル 1週間以上持續スベカラズ

ヴェロナルナトリウム Veronalnatrium. „Merck” & „Bayer.” ハヴェロナルノ ナトリウム鹽ニシテ 容易ニ水ニ溶解ス 用量及適用 ヴェロナルニ同ジ

メヂナル Medinal. „Schering.” ハヴェロナル・ナトリウムノ無色ノ結晶ニシテ 5分ノ水ニ溶ケ 苦味アリ 催眠 鎮靜ノ目的ニ 0.3-0.6 ヲ臨臥ニ多量ノ温湯ト共ニ内服セシメ 又ハ20%液ヲ 1-1.5 cc 皮下注射ス

プロボナル

Proponal. „Bayer & Merck.”

ヴェロナルト類似ノ集成ヲ有スル チ・プロピール・バルビツール酸ノ白色結晶性粉末 冷水ニ難溶 温湯ニ溶ケ 味微ニ苦シ 作用 ヴェロナルノ如クニシテ 吸收早シ 持長ニヨリ ヴェロナル類似ノ中毒症狀ヲ來ス

處方及其適用 催眠 鎮靜劑トシテ 1回 0.1-0.3 ヲ温湯ニテ服用シ 又 ヴェロナルノ習慣性トナリタル時代用ス

ルミナール

Luminal. „Bayer” & „Merck.”

ヴェロナールノフェニール化合物ニシテ白色ノ粉末 水ニ不溶 ヴェロナールニ比シ2倍ノ効力アリ 極量1回 0.8 1日 2.4

處方及其適用 催眠鎮靜劑トシテ1回量 0.1-0.3 ヴェロナールノ如ク適用ス 持長スレバヴェロナールノ如キ蓄積作用ヲ呈ス

ルミナール・ナトリウム Luminalnatrium „Bayer” & „Merck.” ハルミナールノナトリウム鹽ニシテ容易ニ水ニ溶クル白色ノ粉末ナリ 1回量 0.2-0.4 ヲ内服又ハ皮下注射ス 持長スレバヴェロナール類似ノ蓄積作用ヲ呈ス

ヂアル

Dial. „Ciba.”

ヂアルリール・バルビツール酸ノ無臭白色ノ粉末ニシテ冷水ニ不溶 熱湯ニ溶解ス

處方及其適用 催眠鎮靜劑トシテ1回 0.05-0.1-0.15 ヲ臨臥 温湯ト共ニ服用ス 連用ニヨリヴェロナール類似ノ蓄積作用ヲ呈ス

〔附記〕鎮痛藥鎮靜藥ハ亦タ同時ニ催眠作用アリ 参照スベシ

VIII. 殺菌(防腐)藥

昇汞(過クロール汞)

Sublimatum. (Hydrargyrum bichloratum.)

白色透映ノ重キ結晶ニシテ 16分ノ水(6.25%) 3分ノ熱湯(33.3%)ニ溶解シテ 酸性ノ反應ヲ呈シ 食鹽ヲ加フレバ中性トナル 食鹽 礮砂ヲ伍用スレバ水ニ溶ケ易キ複鹽ヲ生ズルモ 消毒力ハ却テ減弱ス 之ニ反シテ少量ノ酸(例ヘバ 0.5%酒石酸)ヲ加フル時ハ 消毒力ノ減退ヲ防ギ 且ツ局所ノ刺戟性ヲ減ズルノ利アリ 此ノ關係ハ2%ノ比ニ硼酸ヲ加ヘタル場合ニテモ然リトス(石津 石井)

中毒症狀 内服セル場合ハ強酸類ノ中毒ノ如キ症狀ヲ發シ 局所組織ノ腐蝕 劇痛 嘔吐 吐血 下痢 虚脱ニヨリテ死シ 内服後 24時間ヲ經レバ吸收性中毒症狀ヲ發ス 即チ汞毒性口腔炎(鏽味 鏽臭 流涎 齒齦炎) 齒牙脱落 顎骨壞死 大腸部ノ疼痛 下痢(屢々血便) 急性腎臟實質炎 蕁麻疹 紅斑 心臟衰弱 意識潤濁 虚脱シテ死ス 慢性中毒症狀ニテハ 上記諸症狀ノ外ニ 猶ホ汞毒性振顫 汞

毒性精神過敏症等ヲ見ル 斯クノ如キ中毒症狀ハ昇汞以外ノ汞劑一般ニ通有ナリ

極量 1回 0.02 1日 0.06

處方及其適用

膏劑 1. 昇汞 0.003-0.005
米國製白色ワセリン 10.0
(1) フリクテン殊ニ角膜フリクテンノ新鮮症ニ結膜囊點入輕按摩(Römer, Silex.) (2) 眼球手術前結膜囊ノ消毒ニ點入シ 24時間繃帶ヲ加フ (3) 外傷 手術後ノ結膜囊消毒 (4) チフテリー 細菌性急性結膜炎 膿漏眼ノ臨臥ニ眼瞼ニ塗布シ 膠着ヲ防グ

電法料 2. 昇汞 (0.02-0.001
硼酸 2.0
蒸溜水 100.0
(1) 外傷手術眼ノ電法及洗滌 (2) チフテリー 膿漏眼及細菌性結膜及角膜炎ニ1日數回電法

注射料 3. 昇汞 0.5 クロールナトリウム 0.5 蒸溜水 50.0
ヲ1週2回1筒宛腎筋内ニ注射シテ驅敵ヲ圖ルコトアルモ 局所ノ疼痛強ク且ツ中毒シ易シ

其他 4. 手指ノ消毒ニハ 0.1-0.05% 溶液トシテ用キ 加温ニヨリ効力ヲ増ス
5. 創傷 潰瘍面ニ濕布トシテ用ウルコトアルモ 吸收性中毒症ヲ起シ易シ 警戒スベシ

昇汞綿 ハ昇汞1.0 クロールカリウム 1.0 蒸溜水 75-0.0ニスカレット又ハフクシンSヲ以テ微ニ着色シ精

製綿 500.0ヲ浸シ壓搾シテ乾燥セルモノニシテ 0.2%ノ昇汞ヲ含ム 日光ニ觸ルハ時ハ還元シテ甘汞ヲ生ジ灰色トナリ効ヲ失フ

(酸化青酸汞綿ノ製法モ之ニ準ズ)

昇汞ガーゼ ハ昇汞綿ノ如クニシテ作り乾燥セルモノニシテ 0.2%ノ昇汞ヲ含有ス 日光ヲ遮リ貯フベシ

ズブラミン

Sublamin.

白色鍼狀ノ結晶ニシテ水ニ溶解シ 蛋白ヲ沈澱セシメザルガ故ニ深達作用アリ 又金屬ヲ腐蝕スルコトナシ 昇汞ヨリモ消毒力劣リ其比5:3ナリ

處方及其適用 (1)ズブラミン0.005-0.02米國製ワセリン 10.0ヲ昇汞ニ於ケルガ如ク用キ (2) 1:4000液ヲ涙囊洗滌用トシ (3) 1.0-1.5:400液ヲ洗眼及電法料トシ (4) 0.3:100液ヲ手指及器械消毒料ニ供ス

アステロール

Asterol.

10-11%ノ水銀ヲ含メル帶黃色ノ粉末ニシテ熱湯ニ溶解スル時ハ冷後析出スルコトナシ 蛋白ヲ沈澱セザルコト 金屬ヲ腐蝕セザルコトズブラミンノ如クナルモ防腐力更ニ弱シ

處方及其適用 0.1-0.2%ノ膏劑 電法 洗滌料トシテズブラミンノ如ク用ウ

蒸氣製甘汞
Hydrargyrum chloratum
vaporeparatum.

甘汞蒸氣ヲ急劇ニ冷却シテ得タル白色ノ粉末ニシテ
100倍ノ顯微鏡下ニ檢スルニ 箇々分離セル小結晶ヲ現
ハス 光ニ觸ルレバ分解シテ水銀ヲ析出シテ 黑色ヲ呈
シ猛毒ナル昇汞ニ變ズ 強ク研磨セルモノハ類黃色ヲ呈
ス

褐色瓶ニ入レ日光ヲ遮リ貯フベシ

ヨード劑 ブローム劑ヲ使用セルモノニ 本劑ヲ適用ス
レバ 涙流中ニ 移行セル ヨード ブロームハ 甘汞ト接觸
シテ腐蝕性ノ過ヨード汞 又ハ 過ブローム汞ヲ生ジ劇シ
キ眼炎ヲ發ス 猶ホ「甘汞」ヲ參照スベシ

處方及其適用

撒布藥 1. 本品ノ粉末ヲ毛筆 硝子棒ノ先端ニ 附シテ
結膜囊ニ 撒布シ 約5分間 輕按摩 15分乃
至2時間後 硼酸水ニテ洗滌ス 1日1回限
リトス 少量ノ甘汞ヲ結膜囊ニ 殘留セシム
ルヲ可トスル人アリ
本法ハ 結膜及角膜ノ フリクテン 芒把狀角
膜炎ニ 適用セラル、モ 羞明 分泌 刺戟症
狀アルモノニハ 却テ症狀ヲ 増惡スルガ故
ニ 避クルヲ可トス 角膜フリクテン 芒把
狀角膜炎ニハ 其退行期ニ 限リ用ウベシ

膏劑 2.	蒸氣製甘汞	1.0
	米國製白色ワセリン	20.0
	研和シ フリクテンニ適用	
3.	蒸氣製甘汞	2.0
	ヲノリン	10.0
	米國製白色ワセリン	10.0
	眼瞼緣炎ニ塗布	

甘汞(亞クロール汞)

Calomel. (Hydrargyrum chloratum.)

昇華甘汞ヲ 搗碎シ 淘汰シテ得タル 帶黃白色 極メテ微
細ナル 重キ粉末ニシテ 100倍顯微鏡下ニテ 大小不同ナル
結晶性碎片ヲ現ハシ 光ニ觸ルレバ 水銀ヲ析出シ 昇汞
ニ變ズ

甘汞ヲ内服スレバ 主トシテ 小腸ノ蠕動ヲ亢進シ 輕度
ノ下痢ヲ起シ 兼テ腸内ノ異常醱酵ヲ制ス ヨード劑 ブ
ローム劑ヲ 使用セルモノニ 甘汞ヲ内服セシムレバ 結膜
ニ適用セルト同様ニ 激烈ナル下痢ヲ起ス 内服セル甘汞
ノ一部ハ胃中ニテ蛋白質又ハ ペプトンノタメニ 溶解セ
ラレテ体内ニ吸収セラル

處方及其適用

内服藥 1.	甘汞	0.5
	乳糖	0.5
	爲1包 頓用 下劑	

2. 甘汞 0.07
阿片 0.02
白糖 1.0
爲 3 包 1 日 3 回 每食後 1 包宛 微毒性虹彩
炎 = 適用 (ゴールドナーヘル氏)
3. 甘汞ヲ小兒ノ驅黴 = 用ウル場合ニハ 1-3 ヶ
月ノ小兒ニハ 0.005 ヲ 1 日 2-3 回分服 コ
レヨリモ長シタル者ニハ 0.01 ヲ 1 日 2-4
回分服 猶ホ長シタル小兒ニハ漸次増量シ
食物ト共ニ與フ 過量ナル時ハ下痢ヲ起ス
ガ故ニ適宜加減スベシ

- 注射料 4. 甘汞 1.0
流動パラフィン 10.0
微毒性疾患 = 1 週 2 回 0.5 cc 臀筋内注
射 全量 10-12 筒ニテ中止ス 疼痛甚シキ
モ効果顯著ナリ 流動パラフィンニオレー
フ油ヲ代用シ得

酸化青酸汞

Hydrargyrum oxycyanatum.

白色ノ結晶又ハ結晶性粉末ニシテ 17 分ノ水ニ溶解シ
(約 6%) 熱水ニハ容易ニ溶解ス 解離性ハ昇汞ヨリモ
少キガ故ニ局所ヲ刺戟スルコト弱ク 且ツ金屬ヲ腐蝕ス
ルコト少シ 消毒力ハ昇汞ト伯仲ス 中毒症状ハ汞劑一
般ノ性質ニ從フ (昇汞参照) 日光ニ曝露セルモノ 及製
造後日ヲ經シモノハ不溶性ノ水銀化合物ヲ析出シテ用ヲ

爲サズ 溶液ニ硼酸ヲ加フレバ消毒力ヲ増ス

處方及其適用

- 點眼水 1. 酸化青酸汞 0.002
硼酸 0.2
蒸溜水 10.0
(1) 外傷及手術眼 其他結膜囊ノ消毒 = 1 日
數回 (2) 細菌性結膜炎 = 1 日數回 (患者自
宅用)
2. アルカロイド類ノ點眼水ノ消毒 = 0.02-
0.01% ノ比ニ加フル處方ハ當該點眼水ノ條
下ニ記載セリ
- 膏劑 3. 酸化青酸汞 0.003-0.005
硼酸 0.2-0.3
米國製白色ワセリン 10.0
(1) 外傷 手術眼ノ消毒 (2) ゼフテリー 膿
漏眼 急性細菌性結膜炎 = 點入シテ細菌ノ
撲滅ヲ圖リ 或ハ夜間眼瞼縁ニ塗布シテ其
ノ膠着ヲ防グ
- 眼浴料 4. 酸化青酸汞 0.02
硼酸 2.0
水 100.0
トラホーム 細菌性加答兒性結膜及角膜炎
外傷眼 = 1 日數回
- 電法及
洗滌料 5. 酸化青酸汞 0.01-0.02-0.03
硼酸 2.0
水 100.0
(1) 膿漏眼 = 30 分乃至 1 時間毎ニ結膜囊洗
滌 (0.01-0.02%) (2) ゼフテリー 細菌性

急性加答兒性結膜炎 トラホームニハ1日
數回點法(0.02-0.03%) (3)涙囊洗滌(0.01-
0.03%)

注射料 6. 酸化青酸汞 0.01-0.02
クロールナトリウム 0.85
蒸溜水 100.0

(1)トラホーム 眼球化膿(外傷手術)ニ
0.5-1.0 ccヲ結膜下注射ス 注射後疼痛甚
シキガ故ニ氷褌法ヲ數時間施スヲ可トス
(2)鞏膜炎 上鞏膜炎ニ 0.1-0.3 ccヲ局所結
膜下注射(石津)

7. 酸化青酸汞 1.0
アコイン 0.5
硼酸 3.0
蒸溜水 100.0

先ヅ硼酸 3.0 蒸溜水 70.0ヲ加温溶解シ 冷
却後アコイン 1.0ヲ加ヘテ之ヲ第一液トシ
別ニ酸化青酸汞 1.0 蒸溜水 30.0ヲ溶解シ
第二液トス 第二液ニ第一液ヲ少量宛注加
シ 醋酸 5-10 滴ヲ加ヘ 2時間以上放置シ
濾過煮沸滅菌ス 黴毒性疾患ニ隔日又ハ1
週2回腎筋内又ハ皮下ニ注射ス 1回 1cc
小兒ハ適宜減量ス 1ヶ月2回檢尿スベシ

8. 酸化青酸汞 1.0
ノボカイン 0.5
硼酸 3.0
蒸溜水 100.0

3% 硼酸水 30.0ニ酸化青酸汞 1.0ヲ溶解
シテ第一液トシ 3% 硼酸水 70.0ニノボ
カイン 0.5ヲ溶解シテ第二液トシ 第二液

ニ第1液ヲ注加シ 30分間煮沸滅菌ス 用
法7ノ如シ

9. 酸化青酸汞 0.2
クロールナトリウム 0.85
蒸溜水 100.0

濾過煮沸滅菌 0.5-1 ccヲ隔日又ハ1週2
回靜脈内注射

其他 10. 手指ノ消毒ニハ 0.1-0.2%液ヲ用ウ 加温
スレバ効力一層増強ス 2%ノ比ニ硼酸ヲ
加フレバ消毒力ヲ増ス

11. 手術器械ノ消毒ニハ 1%液トシ 15分間以
上浸漬スベシ

12. 實地家ニシテ滅菌水ヲ備ヘ難キ場合ハ水道
水ニ 0.02%ノ比ニ酸化青酸汞ヲ入レ 一夜
經過セル後用ウベシ(ツェルマーク氏)

[注意] 1. 酸化青酸汞水ヲ皮下又ハ筋肉内注射セルモノ
ニサリチール酸ナトリウムヲ内服セシムレバ注射
部位ニサリチール酸水銀ノ硬結ヲ生ズ 又硫酸マ
グネシウムヲ内用スレバ時トシテ激烈ナル下痢血
便ヲ來シ汞毒性腸炎ヲ發スルコトアリ

2. 酸化青酸汞加之一般ニ水銀劑ノ黴毒ニ對スル適應及
禁忌次ノ如シ

第一期黴毒ニハ効力顯著ナラズシテサルヴァルサ
ン療法ノ迅速ナルニ如カズ 最モ効アルハ第二期黴
毒ニシテ第三期黴毒之ニ次グ 第一療期ハ約2箇
月 第二療期以下ハ1.5箇月トシ 各療期ノ間隔ヲ
初メ1箇月 漸次1箇月宛間隔ヲ増加スベシ サル
ヴァルサン療法ヲ伍用スレバ効力一層顯著ナリ猶ホ
サルヴァルサン参照(369)頁

禁忌スベキハ腎臟炎 非黴毒性衰弱 貧血 口腔炎 腸
加答兒等ニシテ腎臟炎ノ原因ガ黴毒ニ因ルモノニハ

注意シツ、行ヘバ必ズシモ禁忌ナラズ 脊髓癆性視神經消耗症ハ水銀劑ニヨリ迅速ニ視力減退ヲ來スコトアルガ故ニ徐々ニ行ヒ 若シ視力障礙ヲ助長スル傾向アラバ速ニ之ヲ廢シテヨード劑 サルヴァアルサン劑療法ニ代ユベシ 角膜實質炎ニハ奏功セザルモ 全身ノ榮養ヲ佳良ナラシメ得 黴毒ニ因ラザル視神經 網膜 葡萄膜 硝子體ノ疾患 眼球外傷ニモ奏功シ消炎セシム 妊婦ニハ禁忌ナラズ 却テ早流産ヲ防グ

水溶性水銀劑ハ排泄迅速ニシテ奏効確實ヲ期シ難シ

ルエスチン Luestin (コメツト) オキサチン Oxsatin (マル化) アジフル Asyphil (櫻木) アルエシン(萬有) ハ酸化青酸汞ニ アコイン又ハ ホマコインヲ附加セル注射藥ニシテ其適用 酸化青酸汞ニ同ジ

青 酸 汞

Hydrargyrum cyanatum.

無色ノ結晶ニシテ約 13 分ノ水ニ溶解ス(約 7.8%) 性状 性質 効力 用法 用途 酸化青酸汞ニ同ジ

水 銀 軟 膏(灰白軟膏)

Unguentum Hydrargyri cinereum.

水銀 30.0 無水ラノリン 7.0 安息香酸豚脂 16.0 牛脂 37.0 ヲ研和シテ得タル灰白乃至灰黑色ノ軟膏ニシテ 肉眼ヲ以テ水銀球ヲ見ルベカラズ 30%ノ水銀ヲ含有ス

陳舊ナルモノハ脂豚變敗シテ皮膚ヲ刺戟スルヲ以テ用ウベカラズ

處方及其適用

眼膏劑	1. 灰白軟膏	3.0
	米國製白色ワセリン	3.0
	ラノリン	3.0
	角膜翳 全ク消炎セル 角膜實質炎及水胞性 角膜炎ニ 1 日 1 回點入輕按摩	
	2. 灰白軟膏	5.0
	ラノリン	10.0-15.0
	適用 1 ノ如シ	

塗擦料 3. 灰白軟膏 3.0-5.0

(1) 視神經炎 脈絡膜炎 網膜炎 虹彩毛様體炎 登膜炎 外傷眼等ニシテ黴毒ニ原因スルト否トニ拘ラズ 消炎 吸收ノ目的ニテ 1 回 3.0-5.0 ヲ 15-30 分間皮膚ニ塗擦ス 部位ハ上膊内面 側胸 大腿内面等ヲ撰ミ 手指ノ掌面ニテ 手掌面大ニ亘リテ擦入シ 第 7 日ニ休療シテ入浴シ 第 8 日ヨリ前ノ如ク反復ス 驅黴ノ目的ニハ初メ 20-40 日間持續シ(第一療期) 1 ヶ月間休療シテ第二療期ニ入りテ 15-30 日間反復シ 漸次休療間隔ヲ 1 ヶ月宛加ヘ數療期乃至十數療期ヲ重ヌ 擦入セル水銀ハ一部ハ脂腺ニ入りテ脂肪酸水銀トナリ 吸收セラレ 一部ハ蒸發シテ肺ヨリ吸收セラレ 口腔炎 腸炎 腎臟炎ニ注意シ 含嗽料ヲ與ヘ 1 ヶ月少クトモ 2 回檢尿ヲ行フベシ 初生兒ニハ 0.5 1 歳ニハ 1.0 2 歳ニハ 1.5 3-5 歳ニハ 2-2.5 ヲ用

ウ 初生兒ニシテ入浴ヲ制限シ難キモノニハ 0.5 ヲ上膊又ハ大腿ニ 10-15 分間擦入シ フラネルヲ當テ、繃帶シタルマ、入浴セシム 其他酸化青酸汞條下ニ述ベタル驅黴療法一般ノ注意ヲ守ルベシ

塗布料 4. 灰白軟膏ヲ リントニ塗布シ 急性淚囊炎 眼瞼膿瘍 皮下蜂窩織炎 腺腫ニ貼用
5. 灰白軟膏 10.0
ワセリン 30.0
毛虱ニ塗布シ 6-12 時間後石鹼ニテ洗フ

メルクラール Mercural ハ局方水銀軟膏ノ脂肪ニ代ユルニ皮膚ヲ刺戟セザル水溶性基礎劑ヲ以テセル邦製品ニシテ 25 %ノ水銀ヲ有ス

水銀硬膏

Emplastrum Hydrargyri.

水銀 2.0 無水ラノリン 1.0 黄蠟 1.0 單鉛硬膏 6.0 ノ研和物ナリ 20 %ノ水銀ヲ有ス 腺病 黴毒性潰瘍 初期硬結等ニ塗布ス 其法 適量ノ本劑ヲ羊皮紙ニ包ミ 温水中ニテ徐々ニ軟化セシメ 微温セル鐵篋ニテ リントニ塗布シ 貼用ス 甚シク加熱スルトキハ 水銀ノ集團トナル懼アリ

サリチール酸汞

Hydrargyrum salicylicum.

白色ノ粉末ニシテ水ニ殆ド溶解セズ 驅黴藥トシテ古クヨリ用キラレ 注射セル 局所ニテ 漸次ニ吸收セラル 奏功確實ニシテ其効果塗擦ニ次グモ 吸收状態

不定ニシテ 時トシテ 突然急性水銀中毒ヲ來スコトアルト 注射セル 局所ニ劇痛ヲ來シ腫瘍ヲ作ルコトアルヲ注意スベシ 極量 1 回 0.02 1 日 0.06 光ヲ遮リテ貯フベシ

處方及其適用

注射料 1. サリチール酸汞 1.0
硫動パラフィン 10.0
臀筋内注射 1 週 1 回 1 筒宛 5-6 回ニテ休療シ 約 1 ヶ月ヲ經テ反復ス 流動パラフィンニ代ユルニ オレーフ油ヲ用キ得
2. サリチール酸汞 0.2
アラビアゴム漿 0.3
蒸餾水 00.6
皮下又ハ 筋肉内注射 1 週 1 回 15-30 回ニテ休療シ 約 1 ヶ月ヲ經テ反復ス
丸劑 8. サリチール酸汞 0.005
甘草蒸 各適宜
甘草末 各適宜
爲 1 丸子 1 日 3 回 2 丸宛 食後内服

アズロール

AsuroL.

サリチール酸水銀ト アミド 酸化異性酪酸 ナトリウムトノ複鹽ニシテ 40.3 %ノ水銀ヲ有シ 水ニ溶解シ 蛋白ヲ沈澱セザルガ故ニ注射用トシテ奏功速ナルモ亦排泄モ迅速ナリ 驅黴ノ目的ニ其 0.05-0.1 ヲ 1 週 2-3 回宛行フモ 上記理由ニヨリ奏功充分ナラズ

ノヴァズロール

Novasurol. „Bayer”

アズロールノ改良品ニシテ 水溶性水銀劑ナリ

處方及其適用 驅黴劑トシテ サルヴァールサンニ併用シ 又ハ單獨ニ用ウ 單獨ニ用ウル場合ハ 10%液ヲ初メ 0.5-1.0 腎筋内ニ注射シテ反應ヲ檢シ 毎週 1-2 回 1-2 cc ヲ注射ス 靜脈内ニ注射スル場合ハ 毎週 1-2 回 1 cc 宛行フ
サルヴァールサン併用ノ場合ハ ネオサルヴァールサンノ濃厚注射液ヲ注射器ニ吸ヒタル後 ノヴァズロールヲ吸引シ 兩液ヲ混和シ液ガ均等ニ 黄綠色トナリタル後靜脈内ニ注射ス

エネゾール

Enesol.

サリチール酸砒酸汞ニシテ白色ノ粉末 38.46%ノ水銀ト 14.4%ノ砒素トヲ含ミ 25分ノ水ニ溶解ス (4%) 貧血ヲ伴ハザル 黴毒 悪性黴毒 黴毒ノ續發症ニ 3%溶液トシテ 1日 1回 筋肉内注射

ヒギトール

Hygitol. (ラジウム)

サリチール酸水銀ヨリ誘導シタル可溶性ノ復合水銀鹽ニシテ 黴毒及スピロヘータ病ニ 1回 1cc ヲ皮下又ハ靜脈内ニ注射ス

オキサリミン

Oxalmin. (沖)

サリチール酸水銀ノ注射溶液ニシテ 黴毒 ワイル氏病 其他ノスピロヘータ病ニ 筋肉内又ハ靜脈内ニ 1回 2cc 宛隔日ニ注射ス

イマミコール

Imamicol. (三共)

10%スルフォサリチール酸水銀ソーダノ水溶液ニシテ 無色透明皮下 筋肉及靜脈注射内ニ堪ユ 副作用トシテ全身違和 發熱 惡寒 下痢 發疹ヲ來スコトアリ

處方及其適用 黴毒 ワイル氏病 鼠咬病等ノ一般スピロヘータ病 虹彩毛様體 網膜 脈絡膜 視神經ノ炎症ニ消炎ノ目的ニ下法ニヨリ適用

1. 筋肉内注射法 初回 0.5cc 第2回ヨリ 0.5-1.0cc ヲ腎筋内深く注射シ 隔日ニ反復シテ 20回ニ至リ休止シ 一療期トス 第2回ノクールハ約1月ヲ經テ行フベシ

2. 靜脈内注射法

其一 第1回 0.5cc 第2回以後ハ隔日ニ 1cc 宛 20回ニ至リテ休止シ 一療期トス 第2回ノクールハ約1月ヲ經テ反復スベシ

其二 第1回 1cc 第2回 2cc 第3回 3cc 第4回 4cc 第5回 5cc 第6回 6cc 第7回 5cc 第8回 5cc 第9回 5cc 第10回 5cc ヲ各5-7日ノ間隔ニテ行ヒ 一療期トス

アトラミン

Atramin. (金城製藥)

ペンツォール誘導體ノ水銀鹽 白色ノ結晶ニシテ水ニ溶解ス 收斂 殺菌ノ効アリ

處方及其適用 トラホーム 結膜炎 角膜パンヌス 膿漏眼ニ2-4%液トシテ1日1-3回點眼

メルクロール

Mercurol. „Parke Davis.”

マクレイン酸ト水銀トノ化合物 帶黃色 無味 無臭 水ニ溶解ス

處方及其適用 メルクロール 0.1 重炭酸ナトリウム 2.0 以上分 3 毎食後1包宛 驅黴ノ目的ニ適用 3-6 週間持續シ 約2週間休藥シ反復ス

メルガール

Mergal.

帶黃白色ノ粉末ニシテ水ニ溶解セズ 專ラ驅黴ノ目的ニ服用ス

處方及其適用 メルガール 0.05 タンナルビン 0.1 以上膠囊ニ入レ 1日 3-6個食後服用 3-6 週間持續シテ約2週間休藥シ反復ス

ヒドラールゴール

Hydrargol.

光輝アル無色ノ結晶ニシテ25分ノ水ニ溶解ス(4%) 驅黴藥トシテ注射用ニ用キテ 局所ノ刺戟少ク 其ノ溶液ハ貯藏ニ堪ユ

處方及其適用 ヒドラールゴール 2.0 鹽酸コカイン

1.0 蒸留水 100.0 ヲ3分間煮沸滅菌シ驅黴ノ目的ニテ隔日1回 0.5-1.0 筋肉内注射

白降汞

Hydrargyrum praecipitatum album.

白色ノ塊片 又ハ白色無晶形ノ粉末ニシテ 水ニ殆ド溶解セズ 外用ニヨリ輕キ收斂防腐作用ヲ呈ス 日光ニ觸ルハカ濕氣ニ逢フトキハ 甘汞ヲ生ジテ黃灰色トナル 遮光シ密栓シテ貯フベシ

處方及其適用

膏劑 1. 白降汞 0.05-0.2
含水ラノリン 5.0
米國製白色ワセリン 5.0
白降汞ヲ乳鉢ニ入レ 少量ノラノリン又ハワセリンヲ加ヘテ 20-30 分間能ク研和シ 毫モ粉末質ヲ感ゼザルニ至リ 漸次殘餘ノワセリン及ラノリンヲ附加シ研和ス
(1) 潰瘍性眼瞼緣炎ニ痂皮ヲ去リタル後塗布シ 手指ノ掌面ニテ十數回輕ク瞼緣ニ擦入ス 就床前行ヘバ治癒ヲ速ム (2) 多發性麥粒腫 及ビ麥粒腫ノ再發シ易キモノニ持續塗布 (3) 小兒ノ頭部濕疹 鼻腔濕爛 (4) 角膜翳ニ1日1回 (5) フリクテンニテ刺戟少ク芒把狀角膜炎ニテ分泌 刺戟少キモノ 春季加答兒眼球型ニ1日1回 擦入人ニヨリテ眼瞼浮腫 發赤スルコトアリ 然ル時ハ他品ニ代ユベシ

2. 白降汞	0.1
酸化亞鉛	1.0
澱粉	1.0
米國製白色ワセリン	10.0
白降汞 酸化亞鉛 澱粉ヲ混和シテ充分ニ研 磨シ 少量ツ、ワセリンヲ附加シ研磨ス (1)眼瞼濕疹 潰瘍性眼瞼緣炎 (2)小兒ノ頭 部及鼻腔濕疹ニ塗布	
3. 白降汞	0.05-0.1
扁桃油	0.5
醋酸鉛	0.1
米國製白色ワセリン	5.0
適用2ノ如シ	
4. 白降汞	0.5
酸化亞鉛	5.0
米國製白色ワセリン	10.0
製法2ノ如シ 頭部及鼻腔濕疹ニ適用	
5. 白降汞	0.1-0.2
米國製白色ワセリン	10.0
製法及適用1ノ如シ	
6. 白降汞	0.5-1.0
オリーブ油	2.5
含水ラノリン	10.0
適用2ノ如シ	

黃 降 汞

Hydrargyrum oxydatum flavum.

黄色無晶形ノ粉末ニシテ 水ニ殆ド溶解セズ 外用シ
テ輕キ收斂及防腐ノ効ヲ奏シ白降汞ヨリモ刺戟強シ 日

光ニ觸レテ分解シ 水銀ヲ析出シテ 褐黑色ニ變ズ 褐色
瓶ニ入レ注意シテ貯フベシ

處方及其適用

本品ハ主トシテ軟膏トシテ使用ス 其ノ製
法次ノ如シ

フックス氏法 黃降汞 10.0 米國製白色ワ
セリン 10.0 ヲ乳鉢ニ入レ 重湯煎ニテ加温
シ ワセリン 熔融セバ重湯煎ヨリ下ロシテ
研磨シ ワセリン 凝固セバ再ビ重湯煎ニテ
加温シ反復研磨シ 高温ヲ加フルコトナク
20-30 分間ヲ持續シ 殘餘ノワセリンヲ少
量宛加ヘテ 密ニ研和シ ルーベニテ 檢スル
モ粗大ナル粉塊ナカラシムベシ

シャントツ氏法 昇汞 2.0 食鹽 2.0 ヲ温湯
40.0 ニ溶解シ 約 30°C ニ冷却セル後 コレ
ヲ 15% ナトロン滷汁 6.0 水 10.0 ノ中ニ
徐々ニ攪拌シツ、注ギ 光線ヲ遮リテ 1 時
間放置シ 上清液ヲ捨テ 殘渣ヲ約 30°C ノ
温湯ニテ 數回反復洗滌シ 其上清液ニ 硝酸
銀液ヲ加フルモ 潤濁ヲ生ゼザルニ至リ 殘
渣ヲ減壓濾過シテ 水分ヲ去リ 之ヲ秤量シ
テ約 9 倍ノ無水ラノリンヲ加ヘテ 研和シ
10% 黃降汞軟膏トス コレニ 米國製ワセ
リンヲ加ヘテ 所要ノ濃度トス

1. 黃降汞	0.1-0.5
米國製白色ワセリン	10.0

(1)角膜翳 フリクテン 春季加答兒 鞏膜炎
ニ 1 日 1-2 回 眼球ヲ壓迫スルコトナク 1-
3 分間輕按摩 患者自宅用ニハ 1-2% トシ

3%以上ハ醫家之ヲ行フベシ フリクテンニハ治癒後モ數月乃至年餘續行スレバ再發ヲ豫防シ得 角膜翳ノ新鮮ナルモノニハ刺戟強キニ過グルガ故ニ用キザルヲヨシトス (2)ヂフテリーニ奏功スルコトアリ(アクセルフェルド氏) (3)トラホームニテ癩痕性萎縮強キモノニヨシ(フックス氏) (4)眼瞼濕疹 眼瞼緣炎ニ擦入

- | | |
|---|----------|
| 2. 黃降汞 | 0.1-0.5 |
| 含水ラノリン | 5.0 |
| 米國製白色ワセリン | 5.0 |
| 適用1ノ如シ | |
| 3. 黃降汞 | 0.1-0.5 |
| オレーフ油 | 5-10 滴 |
| 米國製白色ワセリン | 10.0 |
| 適用1ノ如シ 冬季軟膏ノ凝固ヲ防グニヨシ | |
| 4. 黃降汞 | 0.1-0.2 |
| 酸化亞鉛 | 0.2 |
| 米國製白色ワセリン | 10.0 |
| 黃降汞ト酸化亞鉛トヲ研磨シ 少量ノワセリンヲ附加シ 漸次殘餘ノワセリンヲ加ヘ 密ニ研和ス 頭部濕疹 潰瘍性眼瞼緣炎 眼瞼濕疹ニヨシ | |
| 5. 黃降汞 | 0.25-0.5 |
| 酸化亞鉛 | 5.0 |
| 澱粉 | 5.0 |
| 豚脂 | 5.0 |
| 米國製ワセリン | 10.0 |
| 眼瞼及頭部濕疹ニ塗布 | |

赤色ヨード汞

Hydrargyrum biiiodatum.

猩紅色ノ粉末 水ニ殆ド溶解セザレドモ ヨードカリウム液ニハ容易ニ溶解ス 日光ニ觸レテ變色スルガ故ニ褐色瓶ニ貯フベシ 極量1回 0.02 1日 0.06
處方及其適用 (1)第三期梅毒ニ ヨードカリウム液ト伍用シテ内服ス ヨードカリウム 1.0 赤色ヨード汞 0.2 水 300.0 右1日3回1食匙宛 (2)1%軟膏トシテ黴毒性潰瘍ニ外用

赤色硫化汞(朱)

Hydrargyrum sulfuratum.

猩紅色微細ノ重キ粉末 加熱ニヨリ水銀ヲ折出シテ暗色トナリ終ニ全ク揮散ス 水 酒精ニ溶解セズ
處方及其適用 專ラ眼瞼膏劑トシテ用ウ

- | | |
|------------------|------|
| 1. 赤色硫化汞 | 0.4 |
| 昇華硫黃 | 9.0 |
| 米國製ワセリン | 28.0 |
| 眼瞼濕疹 潰瘍性眼瞼緣炎ニ擦入 | |
| 2. 赤色硫化汞 | 1.0 |
| 昇華硫黃 | 24.0 |
| ベルガモツト油 | 30 滴 |
| 米國製ワセリン | 75.0 |
| 適用1ノ如シ(ラッサル氏朱軟膏) | |

梅毒ノ治療特ニサルヴァルサン療法

第一期梅毒 初期硬結ヲ眼部ニ發セバ 血清反應猶

ホ陰性ナリトモ黴毒スピロヘータハ 既ニ血液中ニ存ス
此ノ時期ニ於テハ 頓挫療法最モ奏効スルモノニシテ ロ
スト氏ニ據レバ能ク 85%ノ根治ヲ見ルトイフ 專ラサ
ルヴァルサン劑ヲ用キ之ニ水銀劑ヲ併用スルコトアリ
ヨードカリウムハ未ダ効ナシ 適用次ノ如シ

治療開始	ネオサルヴァルサン
第1日	0.15
3	0.3
7	0.45
12	0.45
19	0.45
26	0.45
33	0.45
40	0.45
47	0.45
57	0.45

即チ ネオサルヴァルサン總量 4.0-5.0 ヲ注射シ 各注
射間ニ酸化青酸汞其他ノ水銀劑ヲ注射ス 概シテ水溶性
水銀劑ハ 奏効迅速ナルモ 排泄モ亦速ナルガ故ニ 頓回
ノ注射ヲ要ス サリチール酸水銀ノ如キ不溶性汞劑ニテ
ハ 約7回ニテ足ルモノトス

ネオサルヴァルサンニ代ユルニ ネオ銀サルヴァルサ
ンヲ用ウル場合ハ 初メ 0.2 ヲヨリシ 第2回ヨリ 0.4 ヲ用
キ 毎週2回宛注射シテ 全量 4.0-5.0 ニ至ル 水銀劑ヲ

併用スルコト ネオサルヴァルサンニ同ジ

以上療法ヲ行ヘル中ニ ワッセルマン 反應陽性トナル
コトアラバ 頓挫的効果ハ少キモノニシテ 次ノ第二期黴
毒ニ準ジ治療ヲ試ムベシ

第二期黴毒 第二期以後ノ黴毒ニテハ 頓挫的ニ之
ヲ根治スルコト困難ニシテ 一定期間治療ヲ持續シテ後
休療シ患者ノ體質 榮養状態ヲ顧慮シツ、更ニ反復ク
ルヲ行フ 通常サルヴァルサン劑 水銀劑ヲ併用ス ヨ
ード劑ハ猶ホ顯著ナル効果ナキモ 内服セシムルヲ可ト
ス 適用次ノ如シ

治療開始	ネオサルヴァルサン
第1日	0.15
3	0.3
7	0.45
12	0.45
17	0.45
22	0.45
27	0.45
32	0.45
37	0.45
42	0.45
47	0.45

ネオサルヴァルサン總量 4.0-5.0 トシ 水銀劑ハ水溶
性汞劑ナラバ 隔日ニ 7-8 週間 ネオサルヴァルサンノ注

射ト無關係ニ繼續ス。サリチール酸水銀ノ如キ不溶性汞劑ヲ用ウル場合ハ3-5日ニ1回宛12-15回ノ注射ヲ以テ休止ス。ヨードカリウムハ初量1日1.0ヨリ増量1日2.0ニ至ルベシ。

ネオ銀サルヴァルサンヲ用ウル場合ハ初メ0.2次回ヨリ0.4ヲ用キ毎週2回宛注射ヲ反復シテ總量4.0-5.0ニ至ル。水銀劑及ヨード劑ノ併用ネオサルヴァルサンニ同ジ。以上7-8週ノ治療ヲ以テ1クールトシ5-8週間休療シテ前法ニ從ヒ治療ヲ反復シ漸次療期ヲ短縮シ休療期ヲ延長シ時々ワッセルマン反應検査ヲ試ミテ其陰性トナルヲ期スベシ。通常1-3回ノクールニテ全治スルモ而モ血清反應猶ホ容易ニ陰性トナラザルモノモアリテ4-5回或ハ猶ホソレ以上ノクールヲ要スルコトアリ。

第三期黴毒 サルヴァルサン劑水銀劑ノ外卓効アルハヨード劑ナリ。サルヴァルサンノ適用ハ第二期黴毒ニ準ジ行フベキモ腦脊髓神經系統内臓ノ黴毒ニハ一般ニ砒素劑ハ注意シテ少量ヲ反復注射スルヲ原則トシネオサルヴァルサン1回量男子0.45ヲ限度トシテ類回注射シ1クール總量4.0内外ニ止ムベシ。アトキシール亞砒酸其他ノ砒素劑ガ腦脊髓疾患殊ニ脊髓痲性視

神經萎縮ニ對シ却テ症狀ヲ速ニ不長ナラシムルコトアルニ反シサルヴァルサン劑ニテハ此ノ弊害ナク加之視神經萎縮ノ初期ニアリテハ自他覺的症狀ヲ著シク佳良ナラシメ得ルモノナリ。然レ共サルヴァルサン劑ノミニテ根治的治効ヲ收ムルコトハ對絶ニ困難ナリトセラレ。

水銀劑ハサルヴァルサン劑ニ併用シテ治効アルモ腦脊髓疾患、脊髓痲性視神經萎縮ニ對スル注意亦砒素劑ニ於ケルガ如シナルベク少量宛反復注射シ7-8週ニテ1クールヲ終ル。

ヨード劑ハ本期ニアリテハ最も効力アリ殊ニ卓効アルハヨードカリウムニシテ1日量1.5ヨリ漸次増量3.0ニ至ル。有機性ヨード劑ハヨードカリウムノ特異質及副作用ニ堪ヘザルモノニ限リ用キ該製劑ノヨード含有量ニ注意シヨードカリウムノ適用量ヲ用ウベシ。

以上ノ如クニシテ1クールヲ終ラバ約1ヶ月休療シ更ニクールヲ反復ス。各クールハ漸次ニ其期間ヲ短縮シ休療間ヲ延長シ以テ反復持續シ時々ワッセルマン反應ヲ検査シテ血清ノ陰性トナルヲ目的トスベシ。

第三期黴毒中脊髓痲性視神經消耗症ハ治療最も困難トスル所ニシテ早期ナラバサルヴァルサン劑汞劑ヨード劑ノ適量ニヨリ進行ヲ停止セシメ得ルコト前述ノ

如キモ進ミタルモノニテハ殆ド無効ナルノミナラズ不
注意ナル療法ニヨリテ却テ症状ヲ増悪スルモノナリ ベ
ール氏 (Behr, 1916年) ハ脊髄癆性視神経消耗症ニシテ
下記症状アルモノニハ強力ナル驅黴療法ヲ禁忌シ 漸進
的ニヨード劑ノ大量ヲ與フベシトセリ

1. 白色視野ニハ狭窄ナキカ或ハ僅ニ狭窄アルニ過ギザ
ルモ色視野ノ早期ニ消失シ 中心視力減弱セルモノ
2. 中心視力健常ナルモ白色及色視野相伴ヒテ高度ニ
狭窄セルモノ
3. 中心視力 視野外界共ニ殆ド健常ナルモ 檢眼鏡検査
上 著明ノ視神経萎縮及強度ノ晝盲現象(眩朦 羞明
雲霧感)アルモノ

遺傳黴毒 遺傳黴毒ハ其治癒極メテ困難ナリ之
ヲ全治セシムルニハ患者モ醫家モ相當ノ忍耐ヲ必要
トス 通常第二期黴毒條下ニ述ベタルガ如キ治療方
針ニ從ヒ 強力ナル驅黴療法ヲ 4-5 回試ムベシ コ
レニテモ血清猶ホ陰性トナラザルモノニハ 數月乃
至半年ヲ經テ更ニ初療ヲ反復スベシ ヨード劑ハ効
アルコト多キガ故ニ必ズ併用スベシ 小兒ノ遺傳黴
毒ニハサルヴァルサン劑ヲ靜脈内ニ注射シ難キガ故
ニ 臀筋内ニ注射スルヲ可トス 角膜實質炎ニハ驅
黴療法ヲ行フモ特ニ治癒ヲ早ムルコトナシト雖 虹
彩毛様體ノ炎症ヲ速ニ輕快セシメ 一般榮養状態ヲ
佳良ナラシムルノミナラズ 往々他眼ノ罹患ヲ未然
ニ防ギ得ルコトアルガ故ニ 疾病ノ初期ニ當リテ強
力ナル療法ヲ施スヲ利トスル場合アリ

注意 1. サルヴァルサン製劑中舊サルヴァルサンハ操
作煩ハシキト 副作用多キタメ用キラレズ 銀サル

ヴァルサンハ特ニサルヴァルサンヨリモ効力優レタ
ル點ナク 其ノ溶液ノ暗褐色ナルハ却テ注射時ノ操
作ニ不便少カラザル缺點アリテ 專ラネオサルヴァ
ルサン使用セラル 参考ノタメ各種ネオサルヴァ
ルサン劑ノ砒素含量ヲ表示スレバ次ノ如シ

ネオサルヴァルサン	21.0 %
ネオタンヴァルサン	18.5-20 „
ネオアルサミノール	16.15 „
ネオエーラミゾール	16.71 „
ネオアーセミン	22.33 „

ネオサルヴァルサンノ稀薄注射法ハ濃厚注射法ニ比
シテ多少操作ヲ要スルモ 藥液ノ体内分布完全ナリ
トセラル

循環器 腦脊髄 腎臟ノ疾患アルモノニハ注意シテ行
ヒ 場合ニヨリ之ヲ禁忌スベシ 注射後ハ飲酒 激働
長途ノ旅行ヲ禁ジ 身體ヲ安靜ナラシムベシ サルヴ
アルサン注射後生ズル神經再發症(視神經乳頭炎)ハ
サルヴァルサン量ノ少キニ失スル不完全ナル注射ニ
ヨリ發スルモノニシテ 適量ノ注射ヲ續行スレバ斯
クノ如キ悞ナキノミナラズ 一トタビ發症セル神經
再發症ハ更ニ強力ナル驅黴療法(サルヴァルサン劑
水銀劑 ヨード劑併用)ニヨリテ比較的迅速ニ輕快セ
シメ得ルモノニシテ 此ノ際 水銀劑 又ハヨード劑
ノ如キ緩和ナル驅黴劑ニノミ據リテハ治癒從テ遷延
シ 豫後ヲ不良ナラシムルヲ免レズ

2. 水銀劑ハ不溶性汞劑ノ方効力確實ナリ 唯其局所ノ
疼痛甚シク 時トシテ膿瘍ヲ生ズルコトアルト 水銀
ガ蓄積シテ卒然急性中毒症状ヲ來スコトアルヲ缺點
トス(サリチール酸水銀參照) 之ニ反シテ可溶性汞
劑ハ 効力迅速ナルモ亦排泄モ速ニシテ 一時症状ヲ

佳良ナラシメ得ルモ全治セシメ難シ 汞劑ノ靜脈内注射ハ無痛ナル點ニ於テ優レルモ 筋肉内注射ニ比シ一層排泄早キ缺點アリ 水銀軟膏塗擦療法ハ塗擦中 水銀蒸氣ノ吸入ニ効ヲ俟ツモノ少カラザルガ故ニ 密室ニテナベク長時間(30-40分)行フヲ要ス 本法ハ其効果頗ル顯著ニシテ 注射ヲ行ヒ難キ小兒婦人等ニ適用シテ可ナリ(水銀軟膏参照) 汞劑ノ内服ハ殆ド効ナシ

水銀劑使用中ハ 常ニ腎臟ノ刺戟ヲ顧慮シ 毎週1回 檢尿ヲ怠ルベカラズ 第三期徽毒 殊ニ脊髓癆性視神經消耗症ニハ 其適用ヲ注意シ 要スレバ之ヲ行ハザルヲ安全ナリトス

3. アトキシール 亞砒酸等ノ砒素劑ハ第二期徽毒 遺傳徽毒ニハ用キテ効アリ 然レ共 第三期徽毒 殊ニ視神經消耗症ニハ避クルヲ可トス
4. 蒼鉛療法ハ サルヴァルサン劑ト 水銀劑トノ中間ノ効力ヲ有シ 殊ニ神經系統ノ徽毒 遺傳徽毒ノ如キ頑固ナル徽毒ニテ サルヴァルサン劑 汞劑ニテ血清反應容易ニ陰性トナラザルモノニ用キテ効アリトセラレ 諸種ノ輸入品及邦製品アリ 又タビスムートヤトレンノ如キ靜脈内注射用製劑アリ 適宜採擇シサルヴァルサン 水銀劑等ト交互ニ使用シテ驅敵ノ完全ヲ圖ルベシ

サルヴァルサン

Salvarsan. „Hoechst.“

ヂ・オキシ・ヂアミド・アルゼノ・ベンツォール・ヂクロール・ヒドラー トノ鮮黄色粉末 水ニ可溶性ニシテ酸性反

應ヲ呈シ 砒素ノ含量 34%トス 0.05(1號) 0.1(2號) 0.2(3號) 0.3(4號) 0.4(5號) 0.5(6號)ヲ分ツ 副作用トシテ 惡寒 戰慄 發熱 嘔吐 下痢 四肢疼痛 發疹 癩癩様發作 腦膜炎様症狀 腎臟炎 黃疸 肝臟障碍 ショック 急死ヲ來スコトアリ

處方及其適用 徽毒 鼠咬症 其他一般スピロヘータ病ニ特效アリ 筋肉内注射 注腸法モ行ヒ得ルモ 靜脈内注射ノ無痛ニシテ確實ナルニ如カズ 其ノ量 體重 1キログラムニ對シ 0.01ノ割合ニテ進ミ 最初 0.1(2號)ヨリシ 男子ハ 0.4-0.5(5-6號) 女子ハ 0.3-0.4(4-5號)トス 乳兒ハ 體重 1キログラムニ付キ 0.005-0.01 幼兒以上ニハ 0.01ノ比ニ用ウベシ

靜脈内注射法 (1)滅菌コルペンニ約 30.0ノ新鮮滅菌蒸餾水ヲ入レ サルヴァルサンヲ投入シテ之ヲ溶解シ 之ニ 15%定規ナトロン滴汁ヲ サルヴァルサン 0.6ニ對シ約 1cc 即約 20滴ヲ滴下シテ漸次乳狀次デ清澄ナラシメタル後 更ニ數滴ノ ナトロン滴汁ヲ加ヘテ中性液トシ 0.8%滅菌食鹽水 250ccヲ加ヘ注射用イルリガートルニテ靜脈内ニ徐々ニ注射ス (2)サルヴァルサン 0.8 蒸餾水 20.0ヲ溶解シタル後 15%ナトロン滴汁 12滴ヲ加ヘテ透明液トナルヲ待チ 滅菌 0.5%食鹽水 130.0ニ稀釋シ靜脈内ニ注射ス 第2回以後ノ注射ハ各々 1-2週ヲ經テ行フ

エーラミゾール Ehramisol (萬有) アルサミノール Arsaminol (三共) タンヴァルサン Tanvarsan サヴィオー

ル Saviol (京都帝大)等ハ邦製サルヴァルサンナリ

サルヴァルサン・ナトリウム
Salvarsan-Natrium., „Hocchst.”

サルヴァルサンニ苛性ソーダヲ結合セシメタルモノニシテ黄金色ヲ呈シ水ニ溶ケ易クアルカリ性反應ヲ呈ス

處方及其適用 サルヴァルサンニ同ジ筋肉内注射注腸法等用キ得ルモ主トシテ静脈内ニ注射ス其法サルヴァルサンナトリウム1ニ付キ0.4%殺菌食鹽水100ノ比ニ溶解シ男子0.45-0.6女子0.3-0.45小兒0.15哺乳兒0.03-0.075ヲ用ウ最初少量(0.15-0.3)ヨリ始メ反應状態ヲ検査シタル後上記用量ニ移ルヲ安全トス注射上ノ操作及注意サルヴァルサンニ同ジ

サルヴァルサントサルヴァルサン・ナトリウムトノ用量ノ比較次ノ如シ

サルヴァルサン	サルヴァルサン・ナトリウム
0.05	0.075
0.1	0.15
0.2	0.3
0.3	0.45
0.4	0.6

ネオサルヴァルサン
Neosalvarsan., „Hocchst.”

デオキシ・ジアミド・アルゼノ・ベンツオール・モノメタン・ズルフォン酸ナトリウムナルサルヴァルサン誘導體帶黄色ノ粉末サルヴァルサンヨリモ容易ニ水ニ溶ケテ中性反應ヲ呈シ副作用彼ヨリモ少クシテ効力ニ大差ナク筋肉内注射ニ堪ユル利點アリ副作用トシテサルヴァルサン條下ニ述ベタル如キ症状ヲ發ス粉末ノ褐色ニ變化セルモノ溶液ノ微濁セルモノヲ注射スル時ハ殊ニ中毒シ易キガ故ニ絶對ニ之ヲ避クベシ常ニ用ニ臨ミ其都度調製ス

處方及其適用 黴毒鼠咬症其他一般ニスピロヘータ病ニ特效ナリ平均1回ノ用量次ノ如シ

男子	0.6 (4號)-0.75 (5號)
女子	0.45 (3號)-0.6 (4號)
小兒	0.15 (1號)-0.3 (2號)
哺乳兒	0.05 (1號 3分1)

1. 静脈内注射法 稀薄注射法ト濃厚注射法トアリ稀薄注射法ハ純粹ナル食鹽ト再蒸餾セル殺菌水トニテ0.4%食鹽水ヲ作りネオサルヴァルサン0.15ニツキ25ccノ割合ニ溶液ヲ作り行フ濃厚注射法ハ廣ク用キラル、方法ニシテネオサルヴァルサン0.15(1號)ナラバ殺菌蒸餾水1cc0.3(2號)ナラバ5cc0.45-0.6(3號-4號)ハ10cc0.75-0.9(5號-6號)ハ15ccニ溶解スルナリ注射針ハ針尖ノ正シク静脈内ニ入レルコトヲ確カメテ後徐々ニ藥液ヲ送入ス若シ藥液血管外ニ漏ル、コトアラバ局所ニ浸潤ヲ生ジ疼痛ヲ發ス

2. 筋肉及皮下注射法 本法ハ組織液ト等張性ナラシムルタメネオサルヴァルサン 0.15 毎ニ約 3 cc ノ殺菌蒸留水ヲ用キ鎮痛ノ目的ニ豫メ 0.5-1% ノヴォカイン 3-5 cc ヲ局所ニ注射シ注射針ヲ其儘殘シ 2-5 分ヲ經テ該注射針ヨリ藥液ヲ徐々ニ注射ス皮下注射スル時ハ皮下脂肪内ニ行フコトナク必ず筋膜上ニ於テスベシ

3. 注腸法 豫メ浣腸シテ腸下部ノ内容ヲ排除シ稀薄靜脈内注射法ト同ジ濃度ニテカテーテルヲ深く腸ニ送り徐々ニ低壓ニテ藥液ヲ注入ス本法ハ多少効力ヲ減ズルガ故ニ他ノ注射法ヲ行ヒ難キ場合ニ限リテ用ウベシ

4. 局所療法 粉末ノマ、又ハ 10-20% 軟膏トシテ局所ニ貼用ス

ネオサルヴァルサンハサルヴァルサンヨリモ一層酸化シ易キガ故ニ藥液調製後ハ直ニ注射シ決シテ放置スベカラズ注射液ノ温度ハ 20-23 度トシ決シテ加温スベカラズ注射後疼痛起ラバピラミドン 0.3 ヲ頓用セシムレバ速ニ輕快スアナフィラキシー症狀ヲ起セル時或ハ血壓沈降ノ徵アラバ鹽化アドレナリン液 0.5-1.0 cc ヲ皮下注射スベシ

ネオエーラミゾール Neochramisol (萬有) ネオアルサミノール Neoarsaminol (三共) ネオタンヴァルサン Neotanvarsan (第一製藥) 等ハ何レモ邦製ネオサルヴァルサンナリ純ネオタンヴァルサン Normal Neotanvarsan ハネオ

サルヴァルサンヲ改良セシモノニシテ砒素含有量 30% ヲ有スルモノナリ

銀サルヴァルサン 又ハ 銀サルヴァルサンナトリウム

Silbersalvarsan. od. Silbersalvarsannatrium. „Hoechst.”

異名同質ニシテサルヴァルサンニ銀ヲ作用セシメタルナトリウム鹽ニシテ約 22.5% ノ砒素ト 14% ノ銀トヲ含メル帶黒褐色ノ粉末水ニ容易ニ溶解シアルカリ性反應ヲ呈ス第 1 號 0.05 第 2 號 0.1 第 3 號 0.15 第 4 號 0.2 第 5 號 0.25 第 6 號 0.3 等アリテ用量ハサルヴァルサンノ半量ニテ足ル副作用トシテ嘔吐發熱眩暈尋麻疹黃疸蛋白尿血管神經症狀群等アリ

處方及其適用 サルヴァルサンニ同ジ主トシテ靜脈内ニ注射シ 20-25 cc ノ 0.4% 殺菌食鹽水ニ少量宛振り落トシ加温スルコトナク溶解ス初メ 0.05-0.1 ノ少量ヲ注射シ之ニ耐ユルヲ見テ漸次増量シ男子 1 回量 0.15-0.2 女子 0.1-0.15 ヲ 4-7 日ノ間隔ニテ反復ス

ネオ銀サルヴァルサン Neosilbersalvarsan. „Hoechst.”